

富士吉田市第6次総合計画策定のためのアンケート調査結果

1. 市民アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
2. 中学生・高校生アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 2
3. 事業所アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 3
4. 富士吉田市内へ通勤されている方へのアンケート・・・・・・・・・・・・・資料 4
5. 市内まちづくり団体アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 5

**富士吉田市第 6 次総合計画策定のための
市民アンケート調査
結果報告書**

平成 28 年 10 月

株式会社フジヤマ

【目 次】

1. 調査概要	1
（1）調査の趣旨	1
（2）調査の方法等	1
（3）調査項目	1
（4）回収状況	1
2. 回答者の属性	2
（1）性別・年齢・職業	2
（2）居住地区	3
（3）世帯・住宅	4
（4）市内居住歴や通勤通学	5
3. 富士吉田市全体のことについて	7
（1）富士吉田市の魅力	7
（2）市への愛着・住みよさなど	9
4. 地域や社会をとりまく今日的な課題に関することについて	12
（1）市民の関心事項	12
（2）人口・少子高齢化問題など	14
（3）産業・観光問題など	25
（4）土地利用・都市基盤	31
（5）防災	35
5. 市民と地域・行政との関わりについて	38
（1）市民参加・協働	38
（2）公共施設	45
6. 市の仕事への評価	47
（1）施策分野別満足度・重要度	47
7. 自由な意見	55

1. 調査概要

(1) 調査の趣旨

富士吉田市では、市政の総合的指針となる総合計画について、平成 20 年 3 月に策定した「第 5 次富士吉田市総合計画」（このうち「基本計画」を平成 25 年 3 月に改定）が計画期間を終了するにあたり、平成 30 年度からの新たな「第 6 次総合計画」の策定作業を進めている。

この策定において、市民のご意見やお考えをお聞きし、計画に反映させることを目的として、このアンケート調査を実施したものである。

(2) 調査の方法等

調査主体	富士吉田市
調査対象	18 歳以上の市民 5,000 人を住民基本台帳から無作為に抽出
調査時期	調査準備 平成 28 年 5 月～7 月上旬 調査実施 平成 28 年 7 月 15 日発送、7 月 31 日回収期限（8 月上旬まで受付） 集計分析 平成 28 年 8 月下旬～9 月
実施方法	配布：郵送 / 回収：郵送（返信用封筒同封、切手不要）

(3) 調査項目

回答者の属性	性別、年齢など属性 9 設問
富士吉田市全体のことに ついて	富士吉田市の魅力／自分のまちとしての愛着／富士吉田市の住みよ さ／富士吉田市への永住意向
地域や社会をとりまく今 日的な課題に関するこ とについて	関心があること／人口減少への対応／人口定住促進の方策／子育て 支援の方策／転出した家族の有無／転出した家族がいる場合の人数 ／転出家族の還流希望／転出本人の意向／市内還流の条件／高齢化 対策の重点／産業育成の方向／今後の観光振興の方向／世界遺産登 録の活用方向／今後の土地利用での重点／道路・交通施策の重点／日 ごろの災害への備え／急ぐべき防災対策
市民と地域・行政との関 わりについて	地域活動への参加（現在、今後）／協働まちづくりに必要なこと／ま ちづくりへの関わり方／公共施設管理への考え方
市の仕事への評価	施策分野別現在の満足度、今後の重要度（25 項目）

(4) 回収状況

回収数 1,836 票	回収率 36.7%
-------------	-----------

※ 分析の中で、第 5 次総合計画策定時の平成 18 年 2～3 月に実施された調査結果との比較を一部（共通設問）で含めている。これについては「平成 18 年調査」と標記する。なお、選択肢の数や表現の相違等により、必ずしも対等な比較にならない点、また、構成比数値の算出方法を今回調査の方法に統一して標記している点等に留意されたい。

2. 回答者の属性

(1) 性別・年齢・職業

問1-a. 性別

項目名	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0
男	837	45.6	38.5
女	998	54.4	47.3
無回答	1	0.1	14.2

問1-b. 年齢

項目名	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0
10歳代	22	1.2	8.0
20歳代	143	7.8	9.2
30歳代	191	10.4	14.8
40歳代	278	15.1	15.4
50歳代	375	20.4	17.5
60歳代	417	22.7	16.9
70歳代	305	16.6	12.8
80歳以上	103	5.6	4.2
無回答	2	0.1	1.2

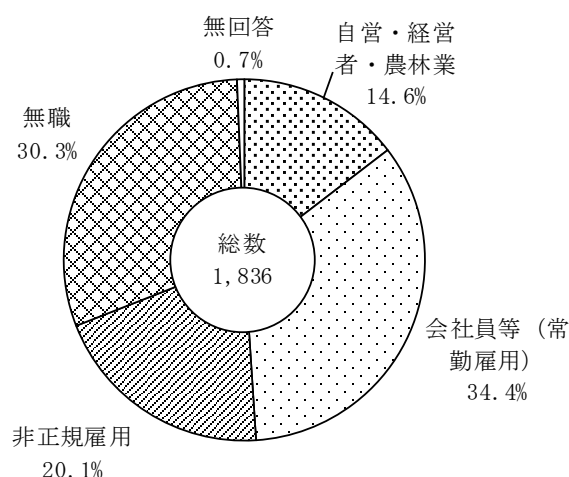
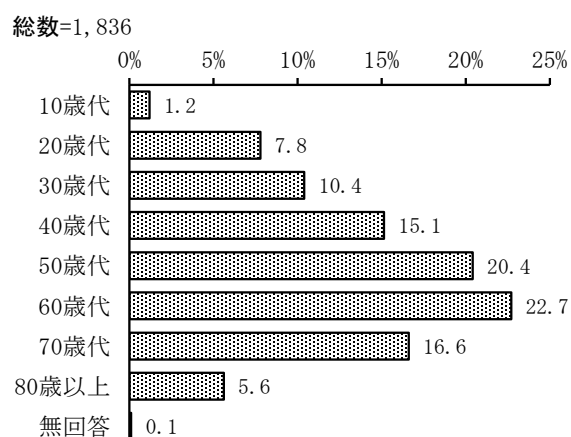
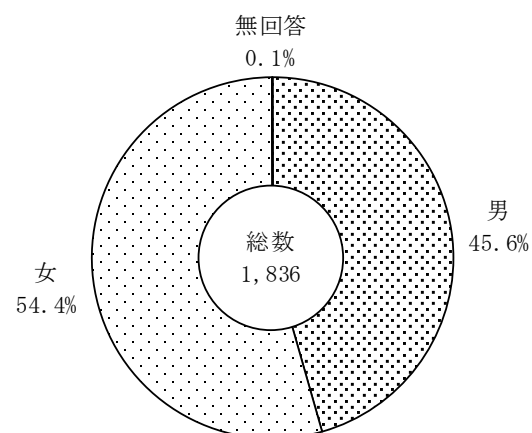
回答者の半数以上、54.4%が女性である。また、60歳以上が全体の44.9%を占める。全体に平成18年調査に比べ、高齢者層の比重が増している。性別、年齢層別の回答率の相違も影響していると考えられ、以下の各設問の結果においてはこの点を考慮してみる必要がある。

問1-c. 職業

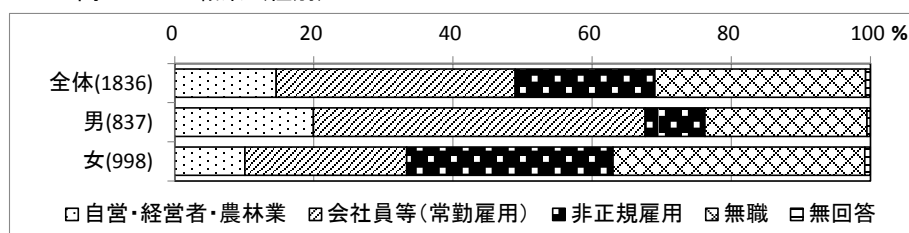
項目名	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
自営・経営者・農林業	268	14.6
会社員等（常勤雇用）	631	34.4
非正規雇用	369	20.1
無職	556	30.3
無回答	12	0.7

回答者の7割弱が職業を持っており、そのうち約半数が常勤雇用の会社員、公務員、店員等である。

女性ではパート・アルバイト等の非正規雇用の割合、及び無職の

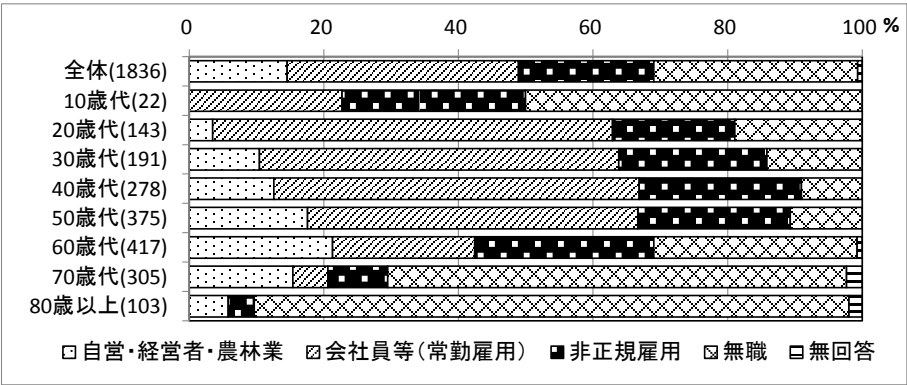


問1-c. 職業（性別）



割合が高く、無職の割合は 60 歳代以上及び 10 歳代でも比較的高い。自営業、農林業等の割合は 20～60 歳代の間で、年代層が高いほど高くなる。

問 1－c. 職業（年齢別）

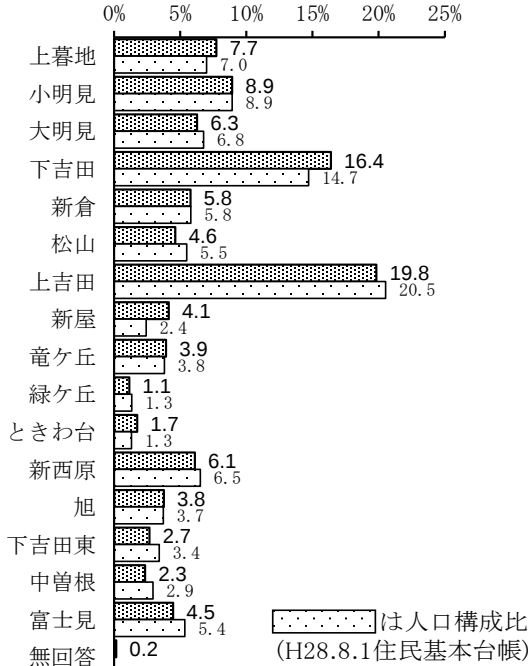


(2) 居住地区

問 1－d. 居住地区

項目名	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)	人口 (H28. 8. 1) 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0	100.0
上暮地	142	7.7	6.7	7.0
小明見	164	8.9	9.5	8.9
大明見	115	6.3	5.9	6.8
下吉田	301	16.4	25.7	14.7
新倉	106	5.8	6.4	5.8
松山	85	4.6	5.2	5.5
上吉田	364	19.8	20.6	20.5
新屋	76	4.1	3.1	2.4
竜ヶ丘	72	3.9	4.1	3.8
緑ヶ丘	21	1.1	1.3	1.3
ときわ台	32	1.7	1.3	1.3
新西原	112	6.1	6.3	6.5
旭	69	3.8	3.2	3.7
下吉田東	49	2.7		3.4
中曽根	43	2.3		2.9
富士見	82	4.5		5.4
無回答	3	0.2	0.6	

総数=1,836



居住地区別回答数分布は、概ね人口分布構成に近似しており、大きな偏りはないと判断される。

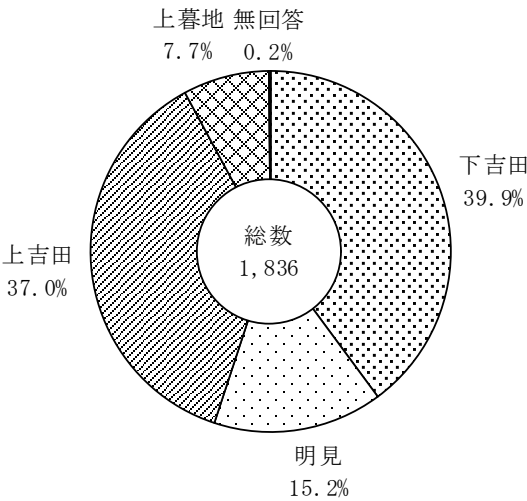
なお、居住地区は、16 地区区分別で上吉田、下吉田が多いが、割合が小さな地区も多くあるため、以下の地区別分析においては、次のように 4 つに集約した地区区分を用いることとする。

地区の集約

集約地区 区分	1 下吉田	2 明見	3 上吉田	4 上暮地
含まれる 地区名	4. 下吉田 5. 新倉 9. 竜ヶ丘 10. 緑ヶ丘 11. ときわ台 13. 旭 14. 下吉田東 16. 富士見	2. 小明見 3. 大明見	6. 松山 7. 上吉田 8. 新屋 12. 新西原 15. 中曽根	1. 上暮地

問 1－d. 集約地区

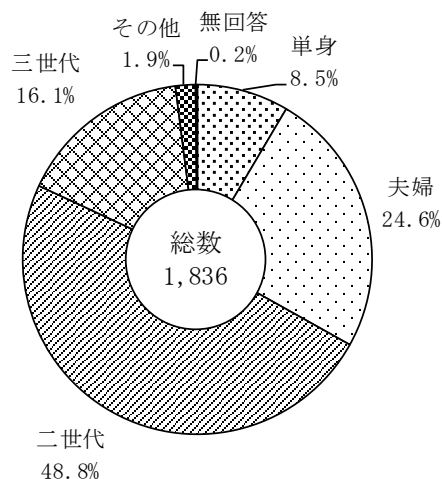
項目名	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
下吉田	732	39.9
明見	279	15.2
上吉田	680	37.0
上暮地	142	7.7
無回答	3	0.2



(3) 世帯・住宅

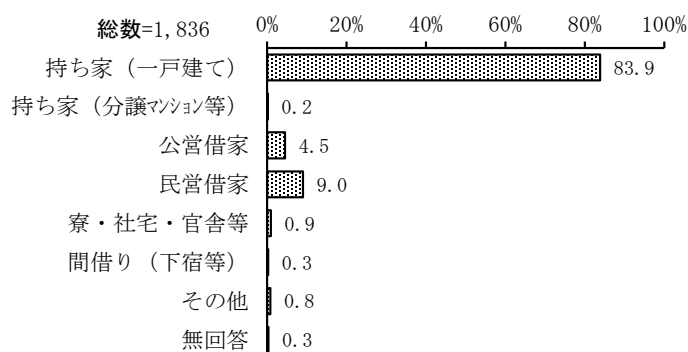
問1-e. 世帯構成

項目名	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0
単身	156	8.5	6.3
夫婦	452	24.6	20.9
二世帯	896	48.8	44.9
三世帯	295	16.1	23.2
その他	34	1.9	3.2
無回答	3	0.2	1.5



問1-f. 住宅の種類

項目名	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0
持ち家 (一戸建て)	1,540	83.9	85.9
持ち家 (分譲マンション等)	4	0.2	0.6
公営借家	83	4.5	4.3
民営借家	166	9.0	5.8
寮・社宅・官舎等	17	0.9	1.2
間借り (下宿等)	5	0.3	0.3
その他	15	0.8	0.7
無回答	6	0.3	1.2

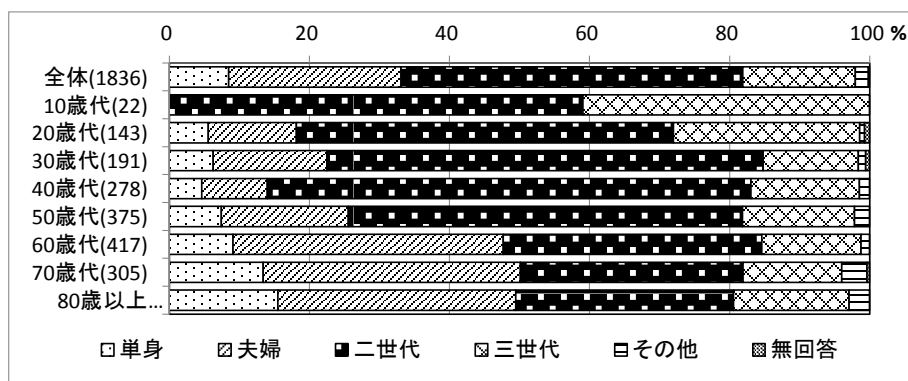


約半数 (48.8%) が、親と子などの二世帯の世帯である。また、24.6%が夫婦世帯、8.5%が単身世帯である。住宅は、8割以上が持ち家一戸建てで、残りの多くが民営、公営の借家である。

平成18年調査に比べ、三世帯世帯の割合が大幅に減少し、単身や夫婦世帯の割合が増加、また、民営借家の割合が増加している。

60歳代以上では、単身または夫婦世帯の割合が約半数に達しており、高齢者世帯の増加の実態を表している。

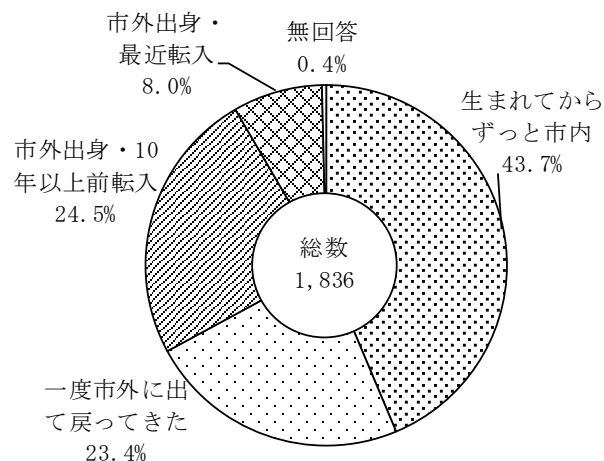
問1-e. 世帯構成 (年齢別)



(4) 市内居住歴や通勤通学

問 1 - g. 市内居住経緯

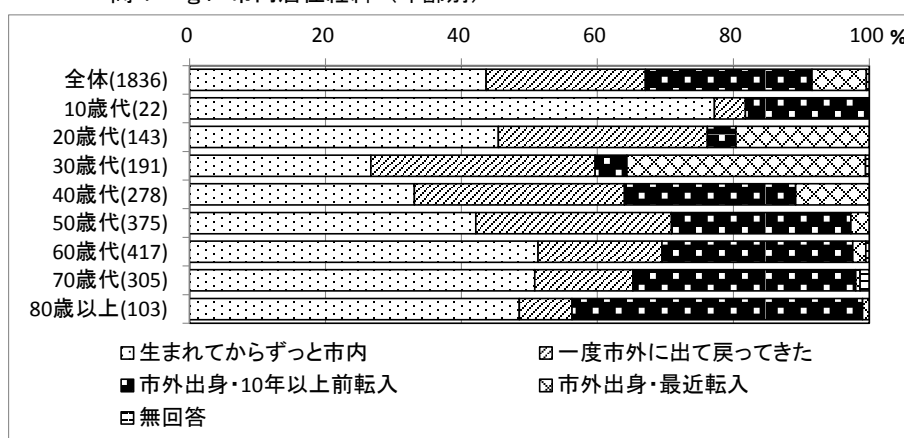
項目名	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
生まれてからずっと市内	802	43.7
一度市外に出て戻ってきた	430	23.4
市外出身・10年以上前転入	450	24.5
市外出身・最近転入	147	8.0
無回答	7	0.4



市内に「生まれてからずっと」住んでいるとの回答が 43.7%で最多だが、Uターン者が 23.4%、市外出身者が 32.5%と多くを占めている。

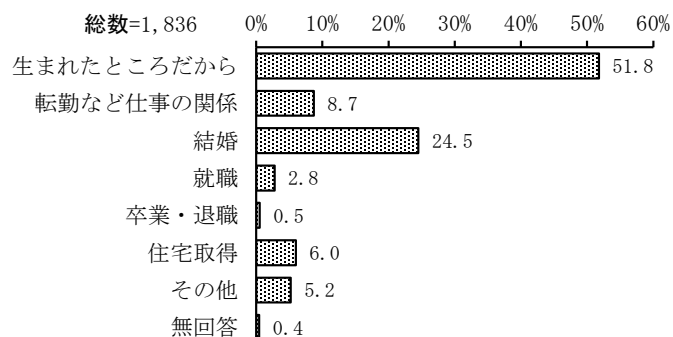
年齢別では、50 歳代以上や 20 歳代以下では「生まれてからずっと市内」が半数前後と多いが、20～40 歳代では「Uターン」の割合が比較的高く、特に 20～30 歳代では「市外出身で最近転入」の割合が高いのが特徴である。

問 1 - g. 市内居住経緯 (年齢別)



問 1 - h. 市内居住の理由

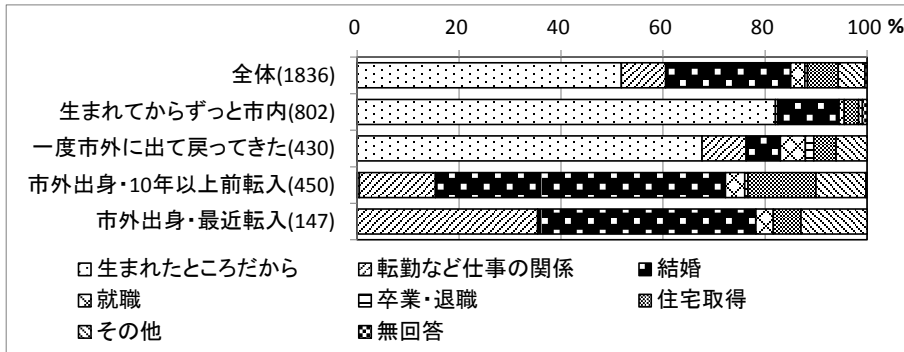
項目名	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0
生まれたところだから	951	51.8	32.6
転勤など仕事の関係	160	8.7	6.2
結婚	450	24.5	32.7
就職	51	2.8	1.3
卒業・退職	10	0.5	0.7
住宅取得	110	6.0	17.9
その他	96	5.2	4.7
無回答	8	0.4	3.9



市内に居住している理由は、「生まれたところだから」が半数以上を占め、平成 18 年調査から大きく割合を伸ばしているほか、「結婚」が平成 18 年から割合を減らしたものの 24.5%を占めている。また「転勤など仕事の関係」が 8.7%、「住宅取得」が 6.0%ある。

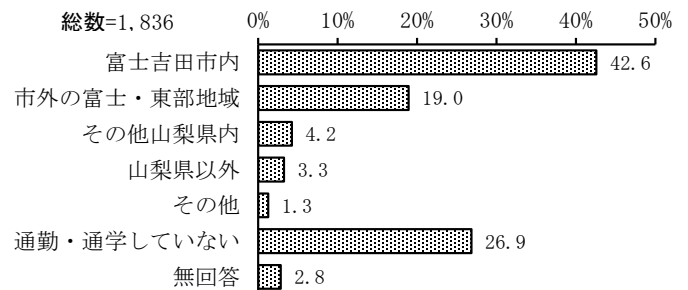
前問の市内居住経緯との関係を見ると、「生まれてからずっと市内」や「Uターン」者は「生まれたところだから」が多くを占め、転入者では「結婚」及び「転勤など仕事の関係」が多数を占める。

問 1－h. 市内居住経緯×市内居住の理由



問 1－i. 通勤通学先

項目名	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0
富士吉田市内	782	42.6	37.2
市外の富士・東部地域	348	19.0	14.8
その他山梨県内	78	4.2	3.0
山梨県以外	60	3.3	3.3
その他	23	1.3	
通勤・通学していない	493	26.9	36.2
無回答	52	2.8	5.4



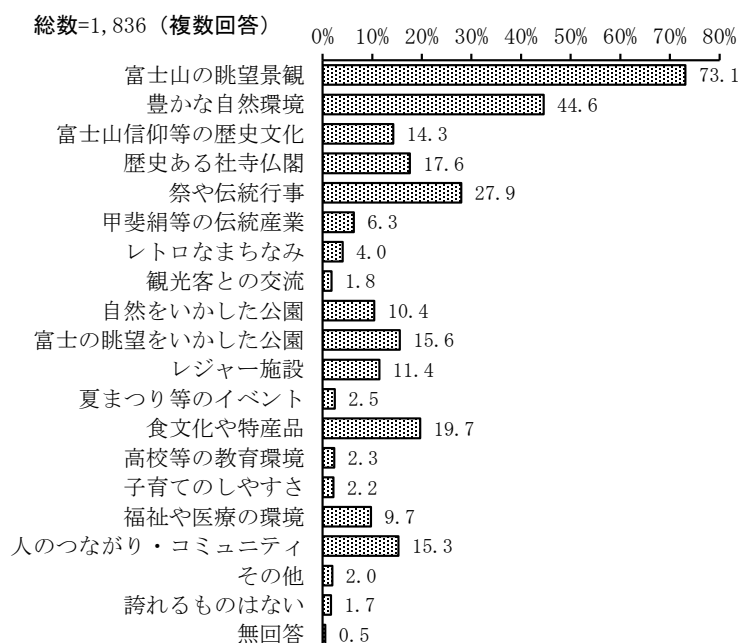
通勤・通学している人（全体の 70.3%）の通勤・通学先は、富士吉田市内が最も多く、通勤・通学者の約 6 割を占める。市外では、「市外の富士・東部地域」が多くを占め、通勤・通学による流動範囲は概ね市内及び近隣地域内にとどまっているといえるが、一方で、労働力の市外流出を裏付ける結果と見ることもできる。

3. 富士吉田市全体のことについて

(1) 富士吉田市の魅力

問2. あなたにとって富士吉田市の魅力として誇れるもの、大切にしたいものは何ですか。(回答は3つまで)

項目名【3つまでの複数回答】	集計値	構成比(%)	H18調査構成比(%)
全体	1,836	100.0	100.0
1 富士山の眺望景観	1,343	73.1	60.3
2 豊かな自然環境	818	44.6	32.7
3 富士山信仰等の歴史文化	262	14.3	5.6
4 歴史ある社寺仏閣	323	17.6	5.9
5 祭や伝統行事	513	27.9	25.2
6 甲斐絹等の伝統産業	116	6.3	4.3
7 レトロなまちなみ	74	4.0	9.0
8 観光客との交流	33	1.8	2.3
9 自然をいかした公園	191	10.4	12.4
10 富士の眺望をいかした公園	286	15.6	
11 レジャー施設	210	11.4	2.7
12 夏まつり等のイベント	45	2.5	1.8
13 食文化や特産品	361	19.7	14.4
14 高校等の教育環境	43	2.3	
15 子育てのしやすさ	40	2.2	
16 福祉や医療の環境	179	9.7	
17 人のつながり・コミュニティ	281	15.3	8.0
18 その他	36	2.0	0.5
19 誇れるものはない	31	1.7	4.1
無回答	10	0.5	0.0



1. 富士山の雄大な眺望景観
2. 富士山麓の豊かな自然環境
3. 富士山信仰などの歴史・文化
4. 富士浅間神社など歴史ある社寺仏閣
5. 吉田の火祭りや流鏑馬祭りなどの祭りや伝統行事
6. 甲斐絹などの伝統産業
7. 昭和期の風情を残すレトロなまちなみ
8. 本市を訪れる観光客との交流
9. 富士パインズパークや富士北麓公園などの豊かな自然環境をいかした公園
10. 新倉山浅間公園など富士山の眺望をいかした公園
11. 富士急ハイランドなどのレジャー施設
12. 「市民夏まつり」などのイベント
13. 「吉田のうどん」などの食文化や地ビールなどの特産品
14. 複数の高校など優れた教育環境
15. 産前産後ケアや保育など子育てのしやすさ
16. 高齢者や障害者などの福祉や、市立病院等の医療の環境
17. 昔ながらの地域の人々のつながり・コミュニティ
18. その他
19. 誇れるものはない

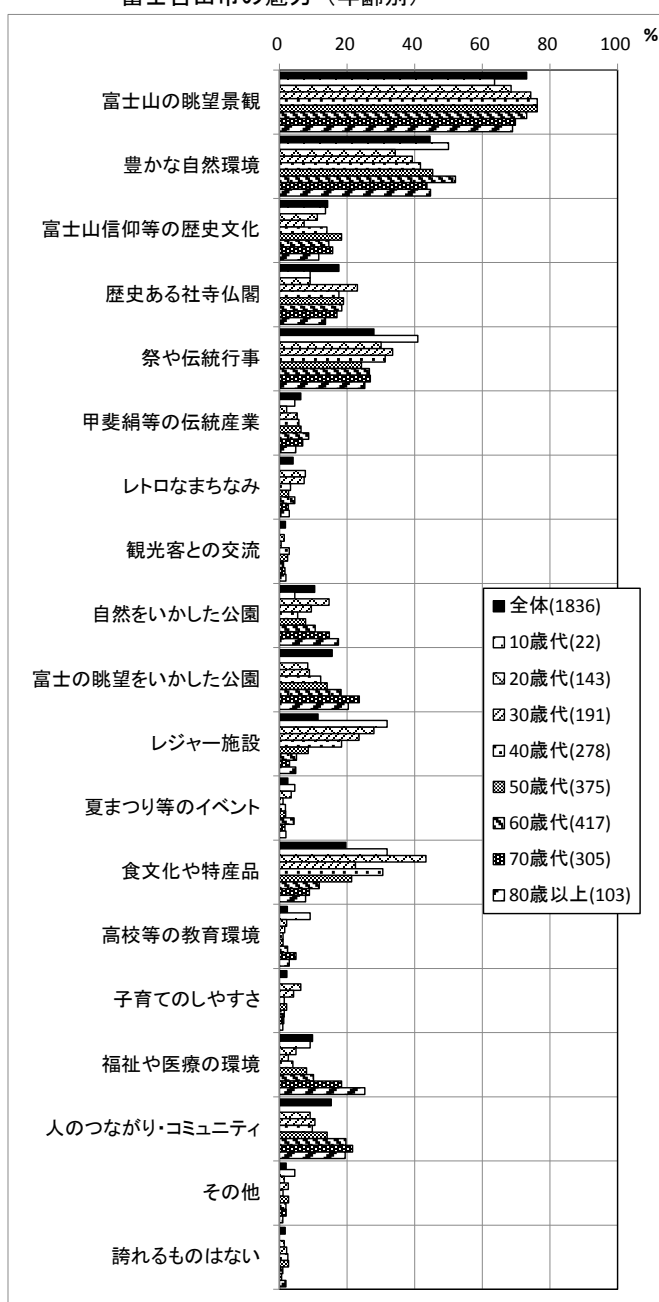
市民が富士吉田市の魅力と捉えているものとしては、「富士山の眺望景観」、「富士山麓の豊かな自然環境」が突出している。また、吉田の火祭り等に代表される「祭や伝統行事」、吉田のうどんや地ビール等に代表される「食文化や特産品」、富士浅間神社に代表される「社寺仏閣」も比較的高い割合を示している。

なお、平成 18 年調査でも同様の設問があり、選択肢が共通でないため対等の比較はできないが、「富士山の眺望景観」が 1 位、「豊かな自然環境」が 2 位など、1～4 位の順位は共通している。全体に選択肢が増加した中で、「富士浅間神社など歴史ある社寺仏閣」が平成 18 年には 3.1%であったものが、今回は 17.6%に大幅に増加したことが興味深い。

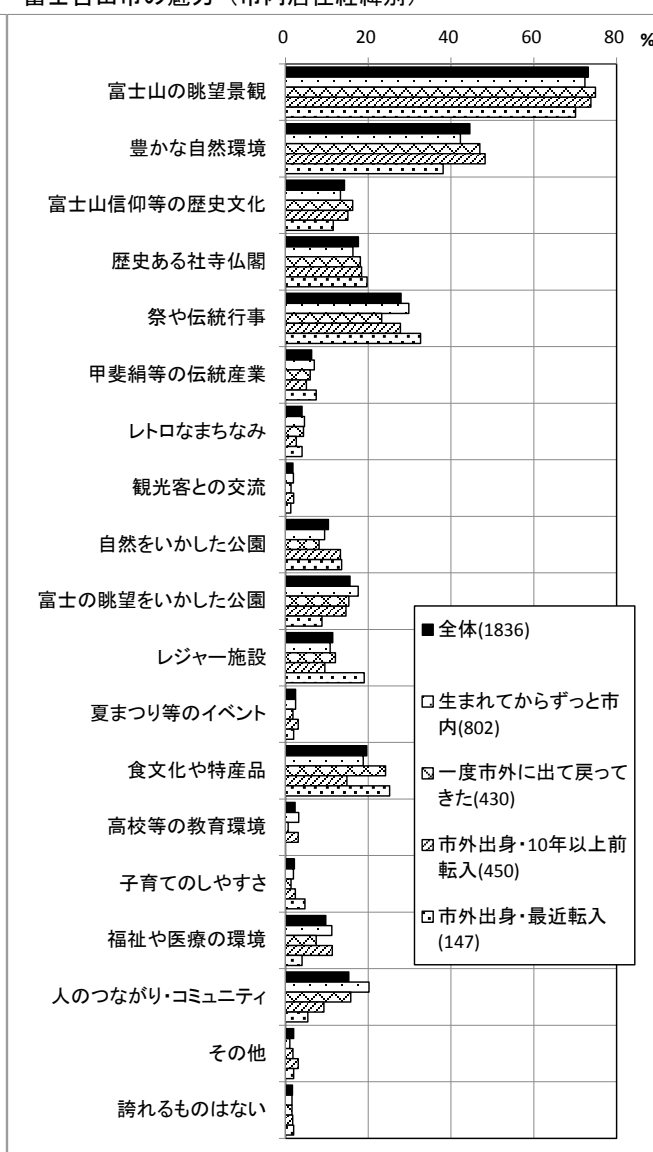
年齢層別にみると、「富士山の眺望景観」や「豊かな自然環境」は幅広い年齢層に魅力として捉えられていることがわかる。また、全体の割合は比較的小さいが、「福祉や医療の環境」、「人のつながり・コミュニティ」等では高齢者層ほど魅力とを感じる割合が高くなる一方で、「祭や伝統行事」や「食文化や特産品」等では、「レジャー施設」とともに若い年齢層の方が高い割合を示していることが興味深い。

市内居住経緯による傾向の大きな相違は認められないが、「人のつながり・コミュニティ」は「生まれてからずっと」の居住者や「Uターン者」が比較的高い値を示しているのが特徴的である。

富士吉田市の魅力（年齢別）



富士吉田市の魅力（市内居住経緯別）



(2) 市への愛着・住みよさなど

問3. 富士吉田市に「自分のまち」としての愛着がありますか。(回答は1つ)

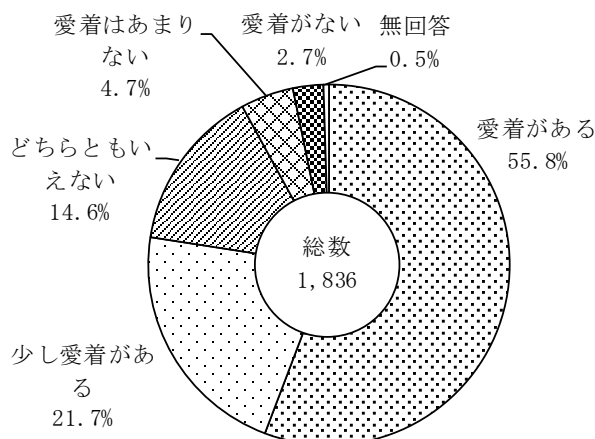
問3. 自分のまちとしての愛着

項目名	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0
愛着がある	1,024	55.8	52.2
少し愛着がある	398	21.7	20.9
どちらともいえない	268	14.6	15.2
愛着はあまりない	87	4.7	5.4
愛着がない	50	2.7	4.0
無回答	9	0.5	2.2

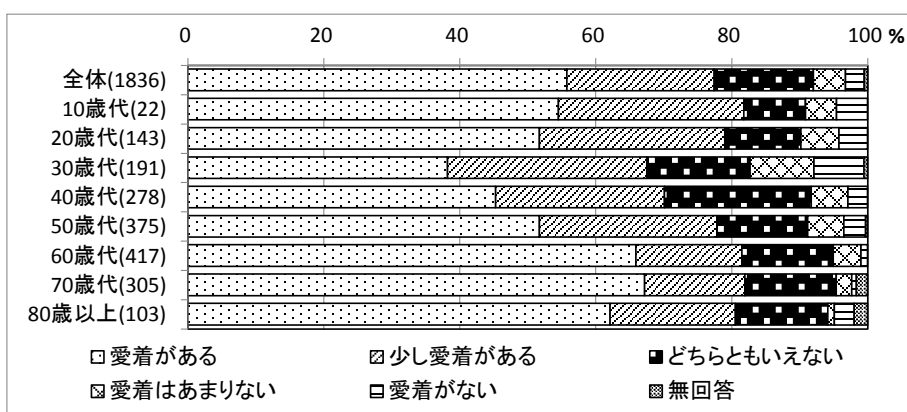
全体では半数以上が「愛着がある」と回答しており、「あまりない」、「ない」という否定的回答は7.4%にとどまっている。平成18年調査に比べ、やや愛着ありの割合が増加したようにみえる。

ただし、30～40歳代では「愛着がある」の割合が比較的少なくなっており、これは、同年代で市外出身者の割合が相対的に高いことと関係していると考えられる。このことは、市内居住経緯別の集計によって裏付けられ、市外出身者、特に最近転入してきた人では愛着の度合いが目立って少なく、出生地であることや居住年数の長さが愛着につながるといえる。

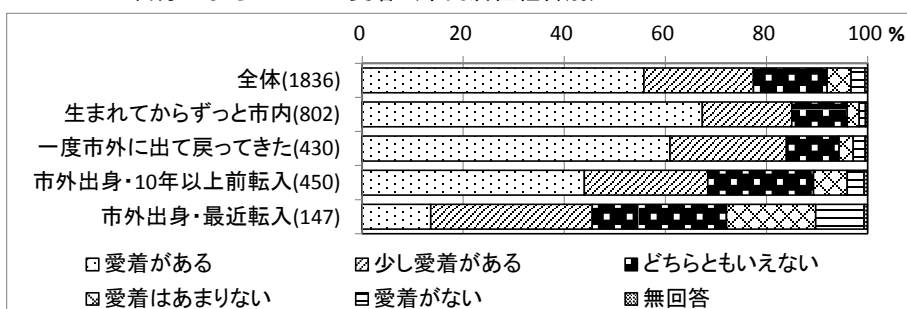
この愛着度は、明見地区で相対的に最も高く、上吉田ではやや低い傾向が読み取れる。



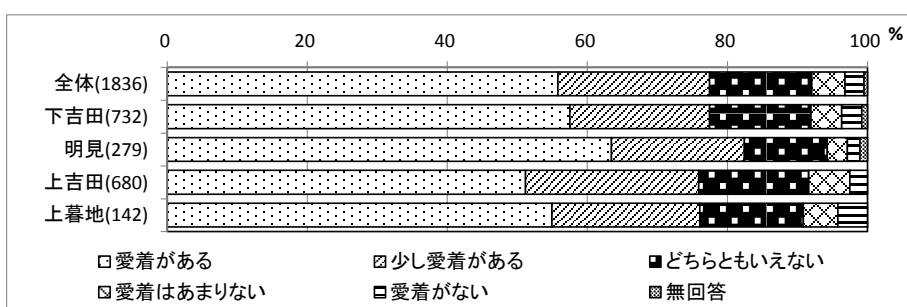
自分のまちとしての愛着 (年齢別)



自分のまちとしての愛着 (市内居住経緯別)



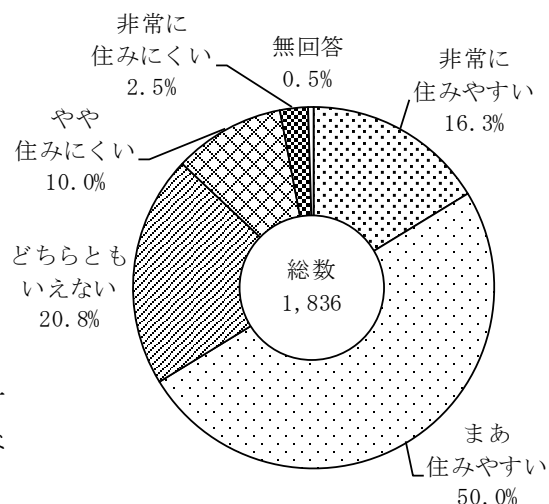
自分のまちとしての愛着 (集約地区別)



問4. あなたにとって富士吉田市は住みよいところだと思いますか。(回答は1つ)

問4. 富士吉田市の住みよさ

項目名	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0
非常に住みやすい	299	16.3	10.7
まあ住みやすい	918	50.0	42.3
どちらともいえない	381	20.8	23.1
やや住みにくい	183	10.0	16.5
非常に住みにくい	46	2.5	5.0
無回答	9	0.5	2.4

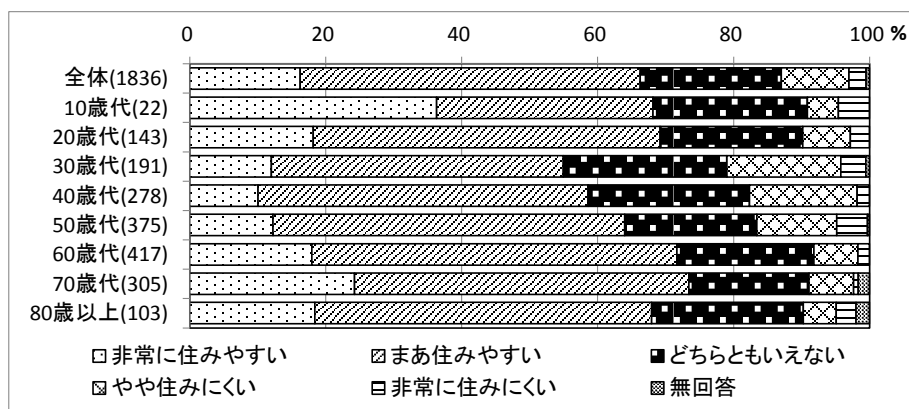


「非常に住みやすい」と「まあ住みやすい」の合計割合は66.3%と約2/3に達し、平成18年調査と比べても市民の住みよさ感は向上しているようにみえる。

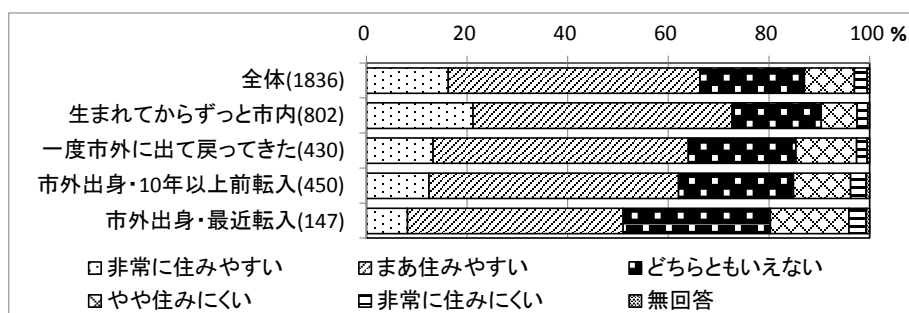
ただし、これも、30歳代や40歳代では「住みやすい」の割合が相対的に低下し、「住みにくい」の比重が高くなっており、また、特に最近転入の市外出身者で同様の傾向がある。「住みよさ感」についても、出生地であることや居住年数の長さが影響するものと考えられる。

4つの集約地区別の比較では大きな差異は見られない。

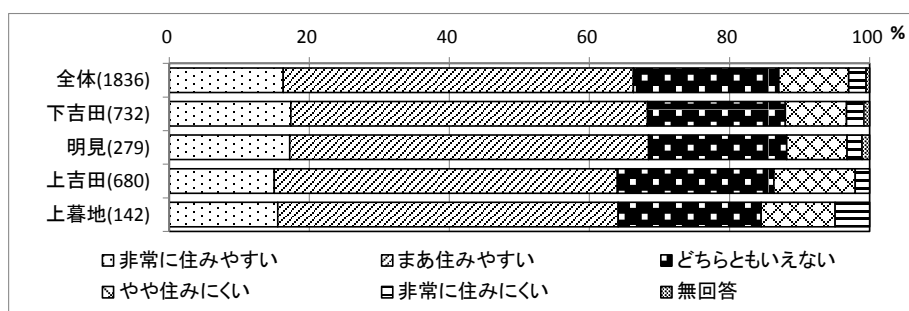
富士吉田市の住みよさ（年齢別）



富士吉田市の住みよさ（市内居住経緯別）



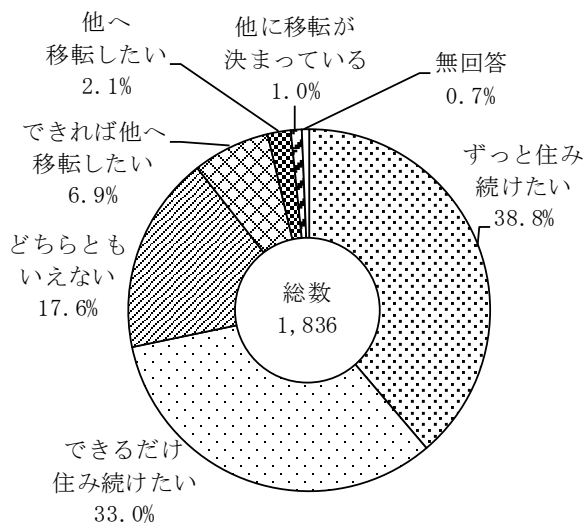
富士吉田市の住みよさ（集約地区別）



問5. あなたは、富士吉田市に今後も住み続けたいと思いますか。(回答は1つ)

問5. 富士吉田市への永住意向

項目名	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0
ずっと住み続けたい	712	38.8	46.2
できるだけ住み続けたい	605	33.0	21.9
どちらともいえない	324	17.6	14.4
できれば他へ移転したい	127	6.9	9.7
他へ移転したい	38	2.1	6.1
他に移転が決まっている	18	1.0	
無回答	12	0.7	1.6

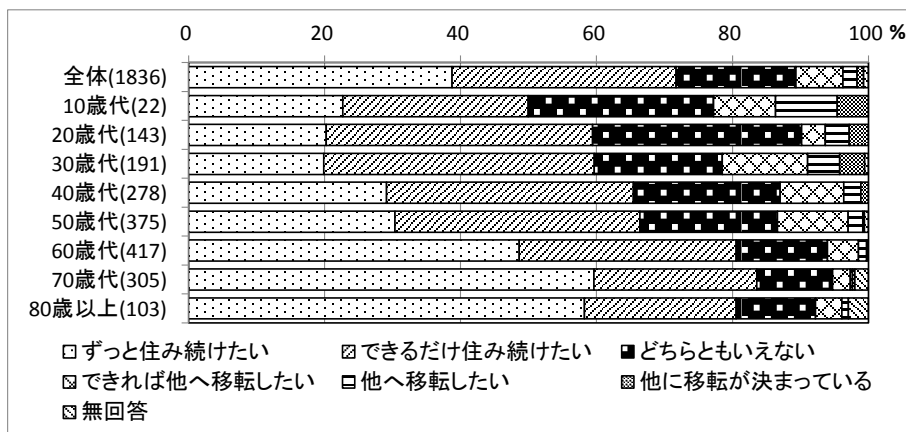


「ずっと」と「できるだけ」を合わせた「住み続けたい」の割合は7割を超えているが、「ずっと」という積極的な定住希望の割合は平成18年に比べて低下しており、「どちらともいえない」の割合がやや増加したように見える。

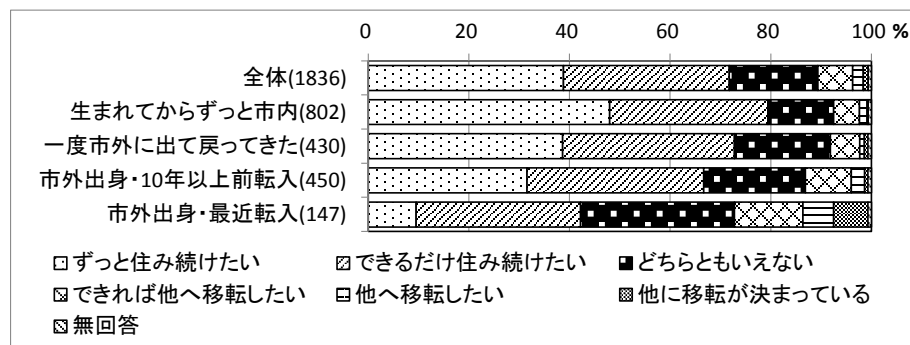
この定住意向は、年齢が高いほど高まる傾向が顕著である。逆に、30歳代では「できれば他へ移転したい」の割合が12.6%であるなど、若年層での市内定住意思は比較的弱いとみられる。また、特に、最近転入の市外出身者では「ずっと」と「できるだけ」を合わせた「住み続けたい」の割合が42.2%にとどまるなど、ここでも居住期間による差が顕著に見られる。

市内で定住意向が比較的高いのは明見地区で、上吉田では相対的にやや低い傾向が見られる。

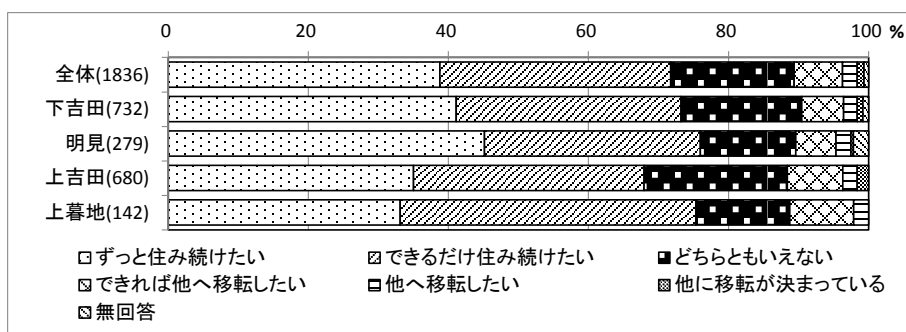
富士吉田市への永住意向（年齢別）



富士吉田市への永住意向（市内居住経緯別）



富士吉田市への永住意向（集約地区別）



4. 地域や社会をとりまく今日的な課題に関することについて

(1) 市民の関心事項

問6. 地域や社会をとりまく様々な動きや変化の中で、あなたはどのようなことに特に関心がありますか。(回答は4つまで)

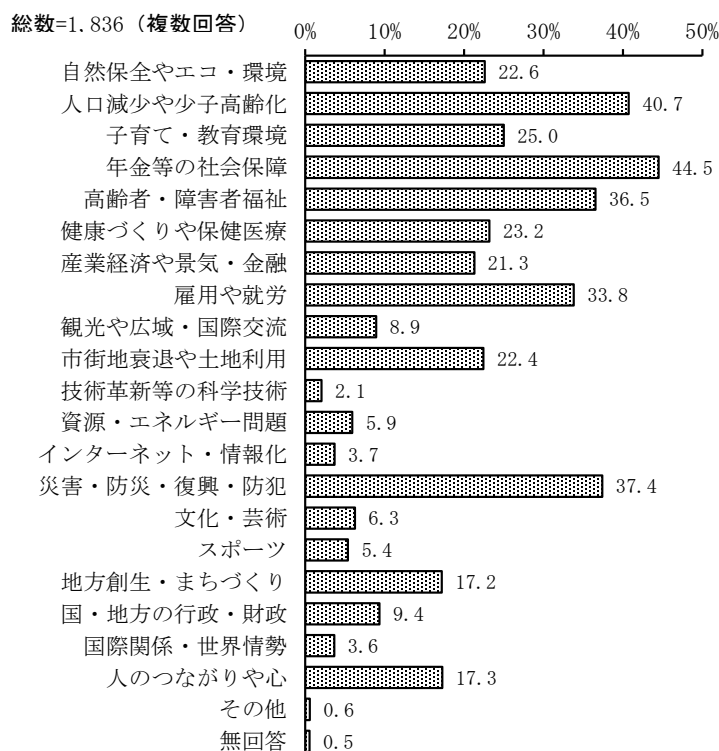
問6. 関心があること

項目名【4つまでの複数回答】	集計値	構成比(%)
全体	1,836	100.0
1 自然保全やエコ・環境	415	22.6
2 人口減少や少子高齢化	748	40.7
3 子育て・教育環境	459	25.0
4 年金等の社会保障	817	44.5
5 高齢者・障害者福祉	671	36.5
6 健康づくりや保健医療	426	23.2
7 産業経済や景気・金融	391	21.3
8 雇用や就労	621	33.8
9 観光や広域・国際交流	164	8.9
10 市街地衰退や土地利用	412	22.4
11 技術革新等の科学技術	38	2.1
12 資源・エネルギー問題	109	5.9
13 インターネット・情報化	68	3.7
14 災害・防災・復興・防犯	687	37.4
15 文化・芸術	115	6.3
16 スポーツ	99	5.4
17 地方創生・まちづくり	316	17.2
18 国・地方の行政・財政	172	9.4
19 国際関係・世界情勢	67	3.6
20 人のつながりや心	317	17.3
21 その他	11	0.6
無回答	10	0.5

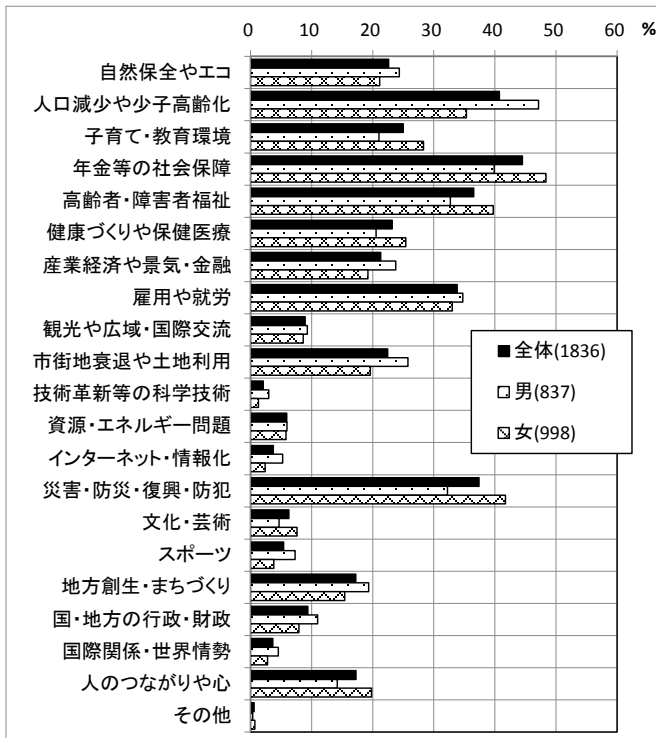
市民の関心事としては、「年金などの社会保障」が最も多く、「人口減少や少子高齢化」、「自然災害・防災・復興・防犯」、「高齢者や障害者などの福祉」、「雇用や就労」の順で続き、これらが他の項目を大きく上回る回答となっている。

「人口減少や少子高齢化」、「市街地衰退や土地利用」などは男性の方が高い割合を示しているのに対し、「年金などの社会保障」、「高齢者や障害者の福祉」、「自然災害・防災・復興・防犯」、「子育て・教育環境」、「人のつながりや心」などでは女性の方が比較的高い関心割合であるなど、それぞれ特徴がみられる。

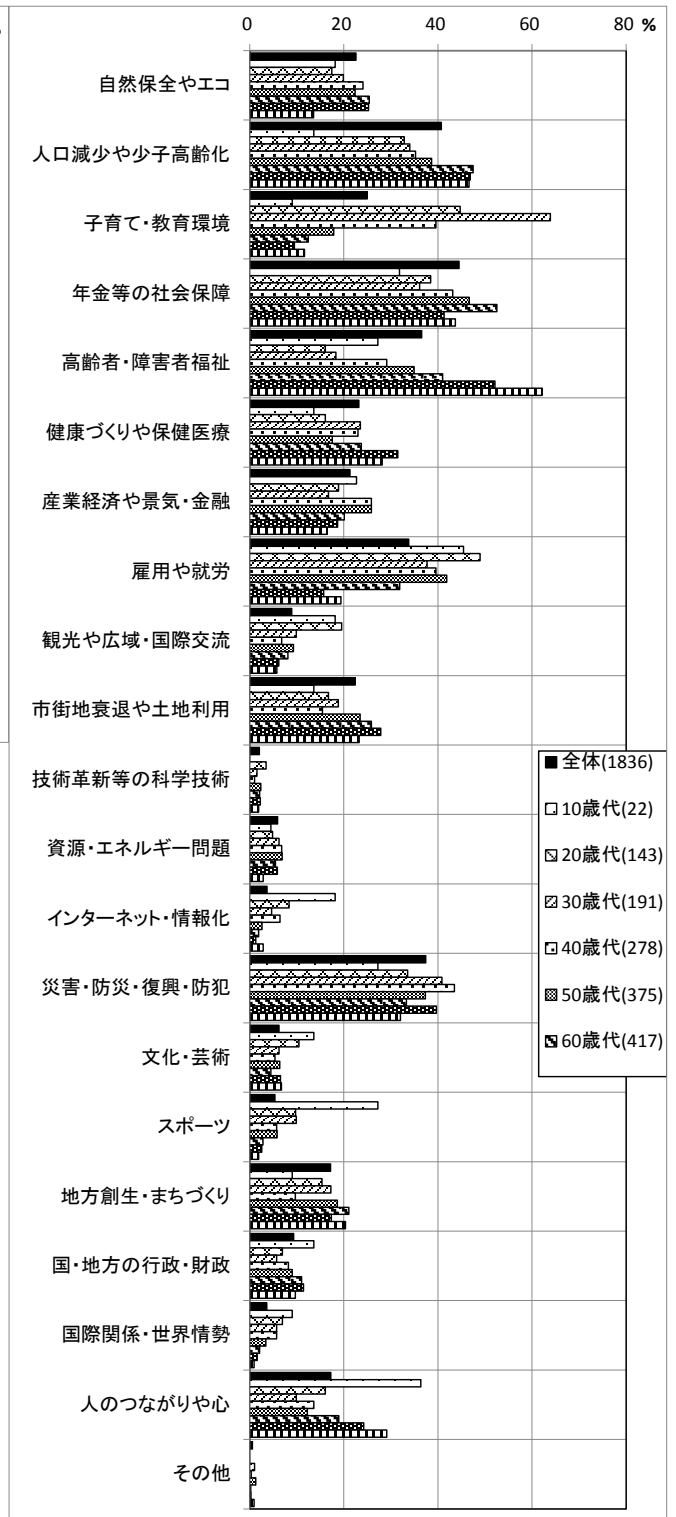
また、「年金などの社会保障」、「高齢者や障害者の福祉」のほか、「人口減少や少子高齢化」、「市街地衰退や土地利用」などは年齢層が高いほど関心割合が高まる傾向が見られる一方、「子育て・教育環境」、「雇用や就労」などはその当事者世代である30歳代や20歳代で、また、「スポーツ」や「インターネット・情報化」などは若年層ほど割合が高い。



関心があること（性別）



関心があること（年齢別）

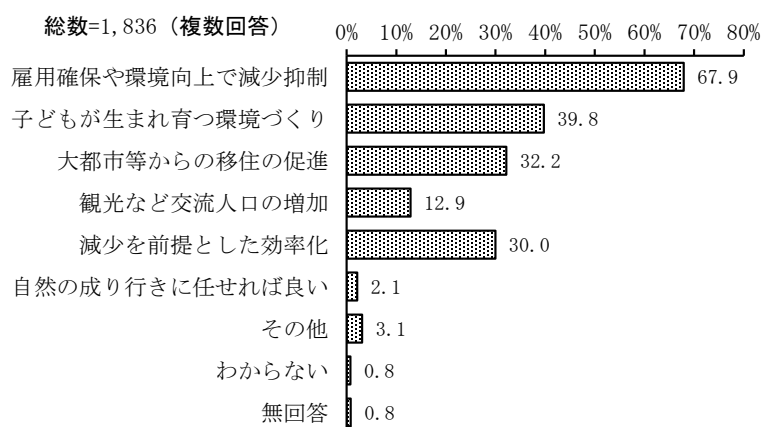


(2) 人口・少子高齢化問題など

問7. 少子高齢化の進展と合わせて全国の人口が減少に転ずる中で、富士吉田市でも人口の減少が顕著になっています。この状況をどう受け止め、今後どのように対応していくべきだと思いますか。(回答は2つまで)

問7. 人口減少への対応

項目名 【2つまでの複数回答】	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 雇用確保や環境向上で減少抑制	1,247	67.9
2 子どもが生まれ育つ環境づくり	730	39.8
3 大都市等からの移住の促進	591	32.2
4 観光など交流人口の増加	237	12.9
5 減少を前提とした効率化	550	30.0
6 自然の成り行きに任せれば良い	39	2.1
7 その他	57	3.1
8 わからない	14	0.8
無回答	15	0.8

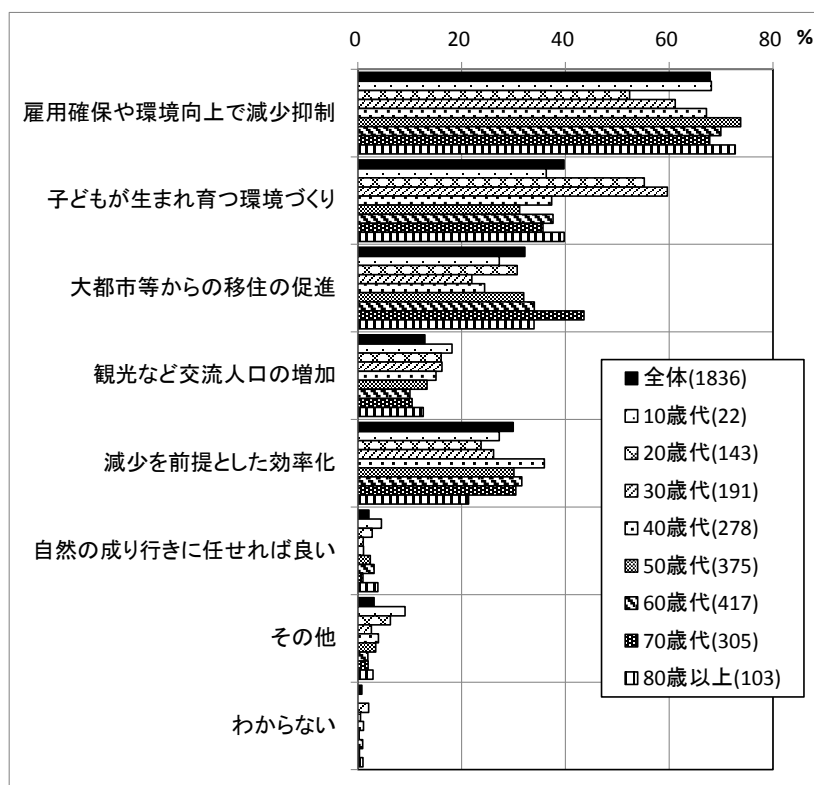


1. 人口の減少を抑制するため、産業の振興による就業機会の確保や住宅・宅地の提供、生活環境の向上などに力を入れるべきだ。
2. 男女の出会いの場の提供や子育て支援策の充実など、子どもが生まれ、育ちやすい環境づくりに力を入れるべきだ。
3. 富士山麓の優れた自然環境などをPR材料とし、大都市などからの移住の促進に力を入れるべきだ。
4. 居住人口の維持には限界があるので、観光の盛り上げをはじめとした「交流人口」の増加に努めるべきだ。
5. 人口減少は避けられない流れなので、減少を前提とした効率的な都市形成、行政運営などに努めるべきだ。
6. 人口の動向は自然の成り行きに任せればよく、特に対応策を考える必要はない。
7. その他
8. わからない

人口減少への対応としては、全体には「産業振興による就業機会確保、住宅・宅地の提供、生活環境向上等」を指摘する割合が最も多く、次いで、「子どもが生まれ育ちやすい環境づくり」が支持されている。また、「人口減少を前提とした効率的都市形成、行政運営」を指摘する割合も3割ある。

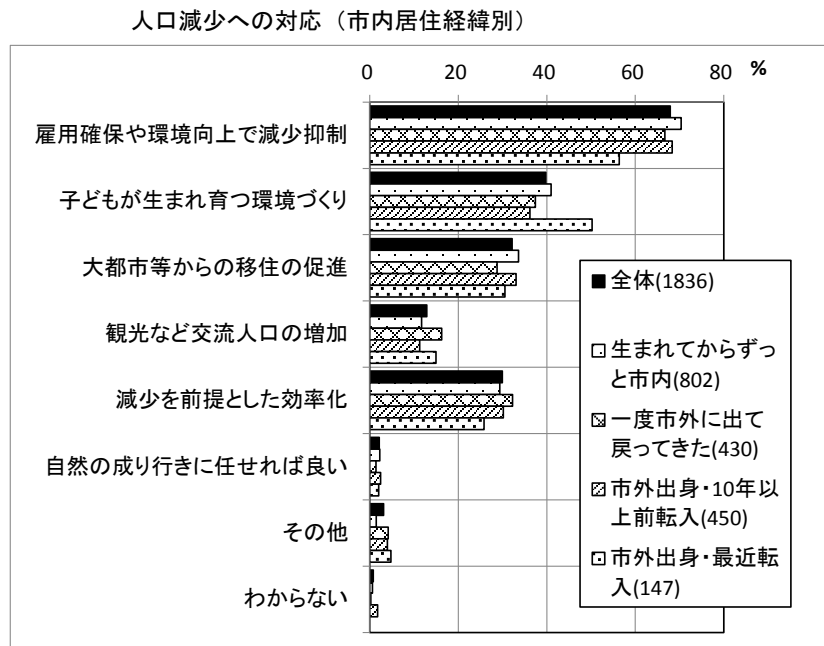
「産業振興や住宅・宅地の提供、生活環境向上等」は、「大都市等からの移住の促進」とともに、高齢者層に多く支持されているのに

人口減少への対応 (年齢別)



対し、「子どもが生まれ育ちやすい環境づくり」や「観光の盛り上げ等の交流人口増加」は若年層に多く支持されている。

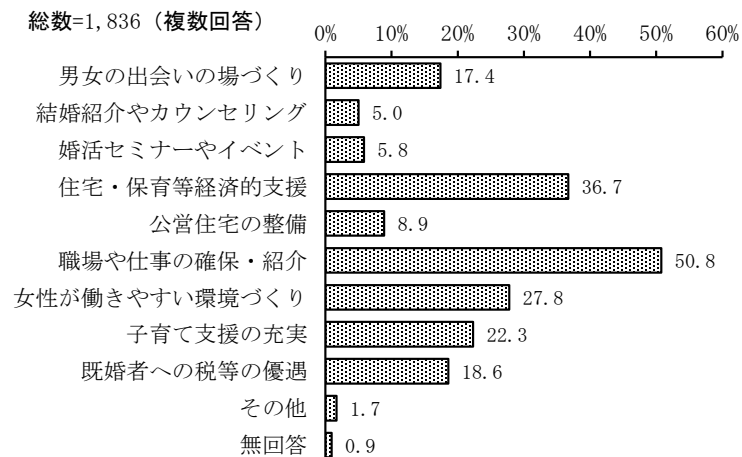
また、最近転入の市外転入者では、「子どもが生まれ育ちやすい環境づくり」の支持割合が相対的に目立って高いのが特徴である。



問8. 市内で結婚・出産し、定住して生活続ける人を増やすために、特にどのようなことが必要だと思いますか。（回答は2つまで）

問8. 人口定住促進の方策

項目名 【2つまでの複数回答】	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 男女の出会いの場づくり	319	17.4
2 結婚紹介やカウンセリング	92	5.0
3 婚活セミナーやイベント	107	5.8
4 住宅・保育等経済的支援	674	36.7
5 公営住宅の整備	163	8.9
6 職場や仕事の確保・紹介	932	50.8
7 女性が働きやすい環境づくり	510	27.8
8 子育て支援の充実	410	22.3
9 既婚者への税等の優遇	341	18.6
10 その他	31	1.7
無回答	17	0.9



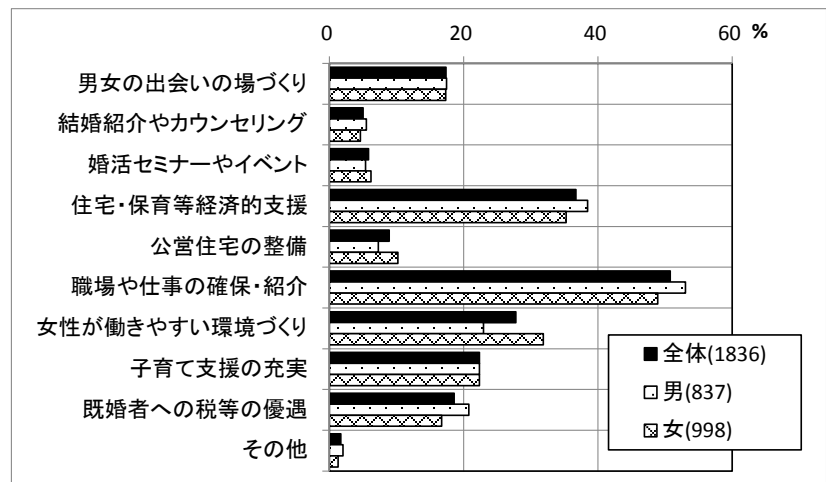
1. 結婚を希望する男女の出会いの場づくりの支援
2. 結婚相手の紹介やカウンセリングの仕組み
3. 婚活セミナーや交流会イベントの開催
4. 住宅費や保育費などの経済的な支援
5. 公営住宅の整備
6. 安定的な生活を送るための職場や仕事の確保・紹介
7. 結婚・出産後も仕事を続けられる、女性が働きやすい環境づくり
8. 保育など子育て支援の充実による出産後の不安の解消
9. 税制や社会保障などによる既婚者への優遇措置
10. その他

市内で結婚・出産し、定住する人を増やすための方策としては、「安定的な生活を送るための職場や仕事の確保・紹介」が群を抜いており、これに「住宅費や保育費などの経済的な支援」が続いている。出会いや婚活などの直接支援の前に、仕事や住宅といった環境の確保が必要ということがわかる。

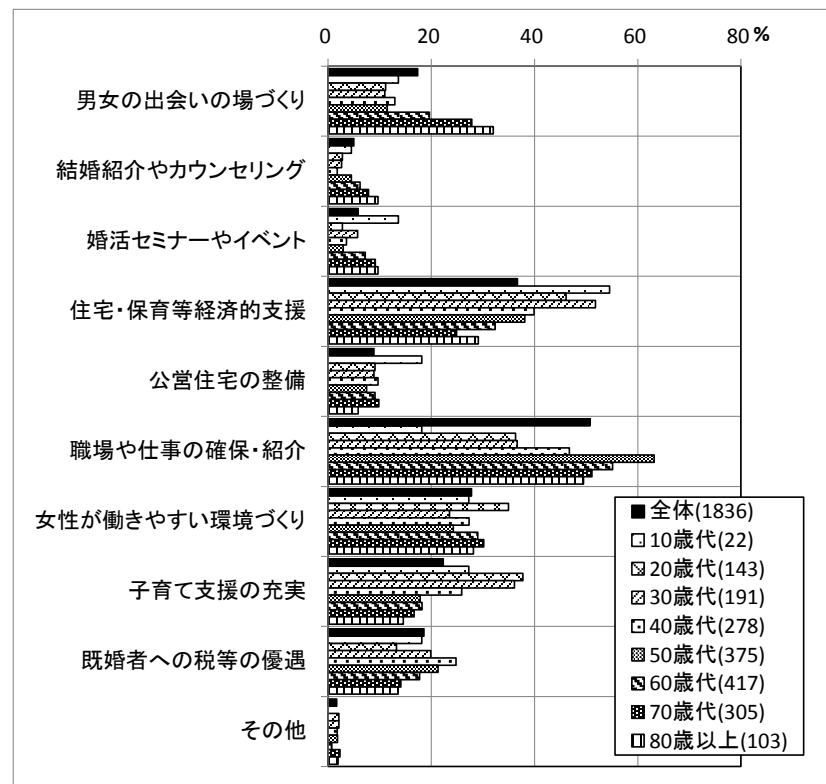
男女別には大きな傾向の差はないが、唯一「女性が働きやすい環境づくり」は女性の支持割合が目立って高くなっている。

また、若年世代では「住宅・保育など経済的支援」、「保育など子育て支援の充実」が相対的に高い割合であるのに対し、中高年世代では「職場や仕事の確保・紹介」を指摘する割合が相対的に高い。「男女の出会いの場づくり支援」も高齢者層で高く評価されているのが興味深い。

人口定住促進の方策（性別）



人口定住促進の方策（年齢別）

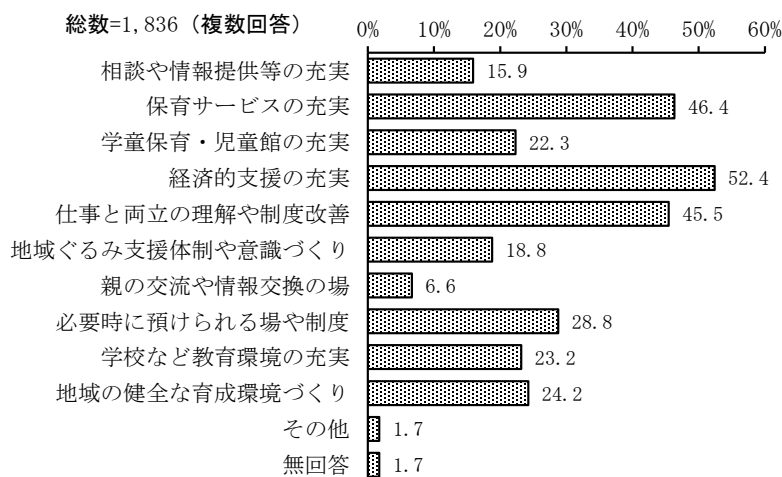


問9. 富士吉田市が子育てしやすいまちであるために、どのような点に特に力を入れるべきだと思いますか。(回答は3つまで)

問9. 子育て支援の方策

項目名 【3つまでの複数回答】	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 相談や情報提供等の充実	292	15.9
2 保育サービスの充実	851	46.4
3 学童保育・児童館の充実	410	22.3
4 経済的支援の充実	962	52.4
5 仕事と両立の理解や制度改善	835	45.5
6 地域ぐるみ支援体制や意識づくり	345	18.8
7 親の交流や情報交換の場	122	6.6
8 必要時に預けられる場や制度	528	28.8
9 学校など教育環境の充実	426	23.2
10 地域の健全な育成環境づくり	445	24.2
11 その他	32	1.7
無回答	32	1.7

1. 子育てに関する相談や情報提供などの充実
2. 保育園・幼稚園の施設充実や保育サービス（延長保育など）の充実
3. 学童保育や児童館の充実
4. 子育てに関する経済的支援（保育料、医療費、その他）の充実
5. 子育てと仕事を両立できる職場の理解や制度の改善促進
6. 地域ぐるみで子育てを支援する体制や意識づくり
7. 親どうしの交流や情報交換の場の提供や充実
8. 必要な時に子どもを預けられる（保育園以外の）場や制度の充実
9. 学校など子どもを取り巻く教育環境の充実
10. 子どもの安全な遊び場など地域の健全な育成環境づくり
11. その他

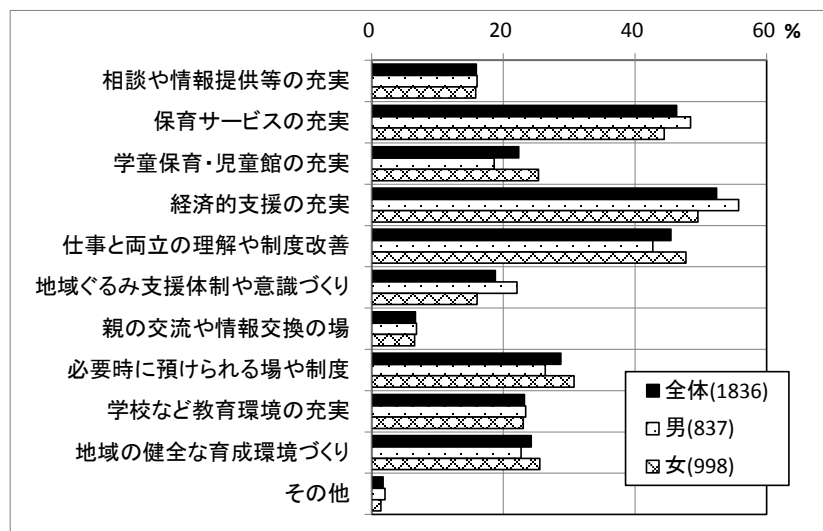


「子育てに関する経済的支援の充実」が最も多く、これに「保育園・幼稚園等の保育サービスの充実」、「子育てと仕事の両立の理解や制度改善」を合わせた3つの回答率が他を引き離している。

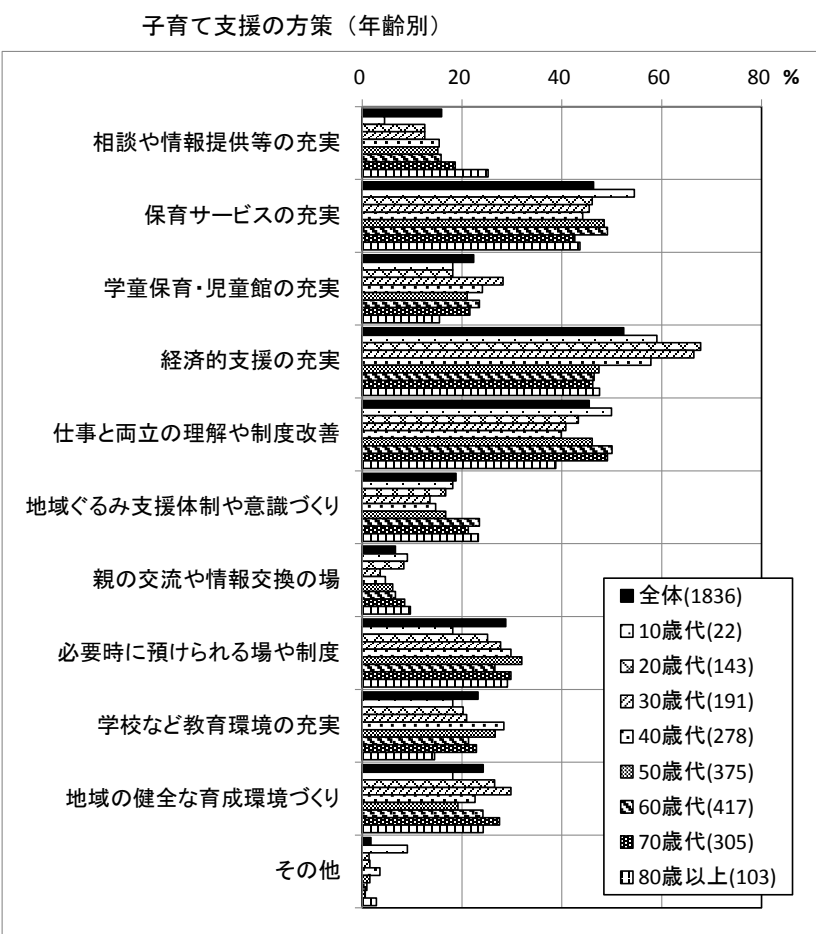
「経済的支援の充実」や「保育サービスの充実」等は男性の方がやや支持率が高いが、「仕事と両立の理解や制度改善」、「学童保育・児童館の充実」、「必要時に預けられる場や制度」等は女性の方が高い割合である。

「経済的支援の充実」は、子育ての当事者世代である20～30歳代での割合が特に

子育て支援の方策（性別）



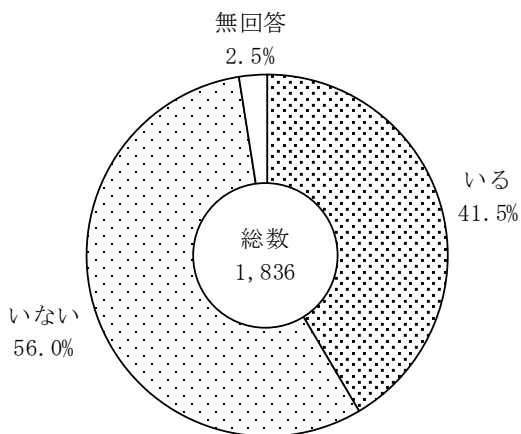
高い一方、「仕事と両立の理解や制度改善」や「地域ぐるみの支援体制や意識づくり」は、高齢者層で比較的高い割合を示していることが注目される。



問 10. あなたのご家族で、進学や就職などで市外・県外へ転出（住民票異動の有無にかかわらず）している方はいらっしゃいますか。（回答は1つ）

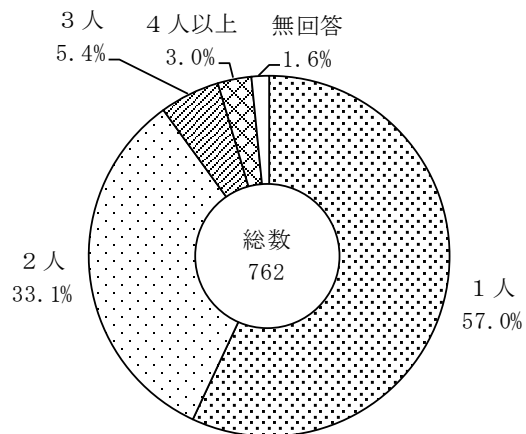
問10. 転出した家族の有無

項目名	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
いる	762	41.5
いない	1,028	56.0
無回答	46	2.5



問10. 転出した家族がいる場合の人数

項目名	集計値	構成比 (%)
全体	762	100.0
1人	434	57.0
2人	252	33.1
3人	41	5.4
4人以上	23	3.0
無回答	12	1.6



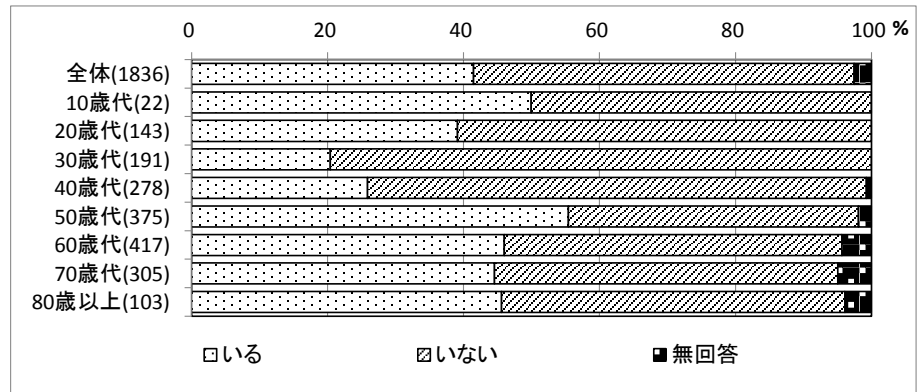
家族で市外・県外への転出者がいるとの回答は41.5%である。

30～40 歳代でその割合が比較的少ないのは、自らが市内に居住し続けているか、市外からの転入者であることによる場合が多いためと思われる。逆に、10～20 歳代では兄弟姉妹が、50 歳代以上では子どもや孫が転出している例が多いことを反映していると考えられる。

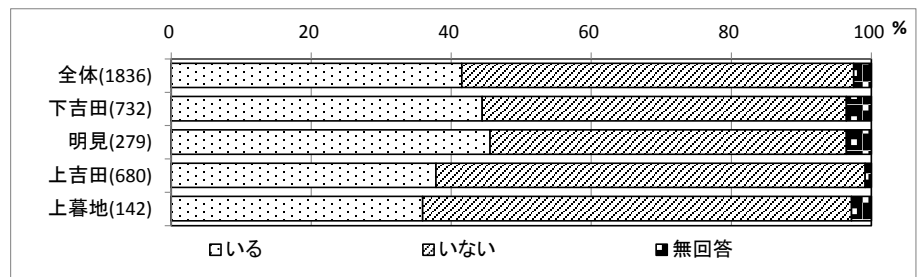
この割合は、下吉田、明見で相対的にやや高い。

なお、転出した家族がいる場合のその人数は1人が最も多いが、2人以上も合わせて4割程度ある。平均人数は約 1.6人 と計算される。

転出した家族の有無（年齢別）



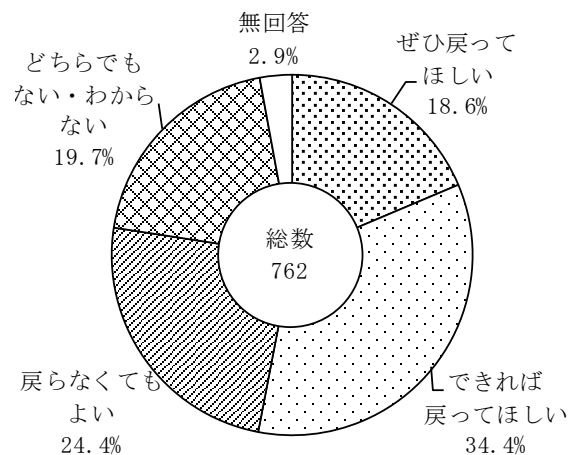
転出した家族の有無（居住地区（集約）別）



問 11. 【上問 10 で「いる」とお答えの方のみ】 転出されているご家族の方に、将来市内に戻ってきてほしいとお考えですか。（回答は 1 つ）

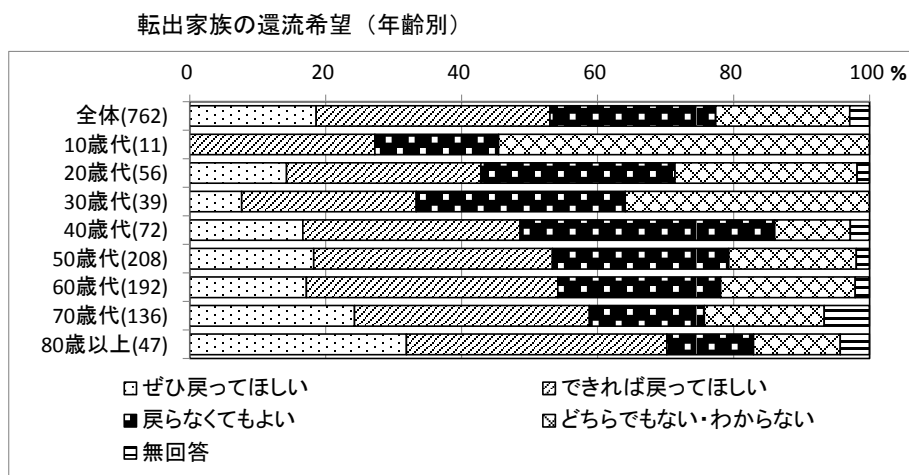
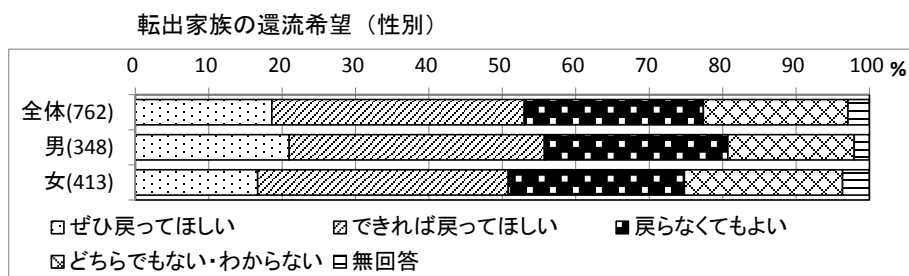
問11. 転出家族の還流希望

項目名	集計値	構成比 (%)
全体	762	100.0
ぜひ戻ってほしい	142	18.6
できれば戻ってほしい	262	34.4
戻らなくてもよい	186	24.4
どちらでもない・わからない	150	19.7
無回答	22	2.9



転出した家族に対しては、「ぜひ」と「できれば」を合わせて「戻ってほしい」との回答が半数を超えている。一方、「戻らなくてもよい」が24.4%となっている。

「戻ってほしい」の割合は、男性の方が女性よりやや高い割合である。また、年齢が高いほどその割合も高くなるが、逆に、30・40 歳代では「戻らなくてもよい」の割合が3割を超えるなど、年代による考え方の差が現れている。

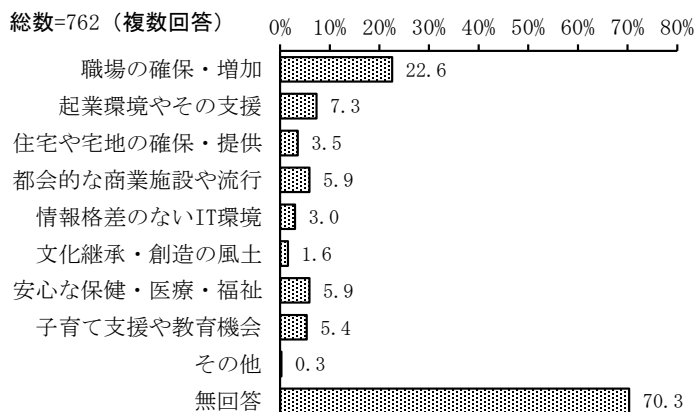


問 11-1. 【問 10 で「いる」とお答えで、転出された方ご本人のお考えをお聞きいただける方へ】 転出されたご本人に次の問 12 の内容をお聞きいただき、お答えください。（回答は 2 つまで）

問11－1. 転出本人の意向

項目名 【2つまでの複数回答】	集計値	構成比（％）
全体	762	100.0
1 職場の確保・増加	172	22.6
2 起業環境やその支援	56	7.3
3 住宅や宅地の確保・提供	27	3.5
4 都会的な商業施設や流行	45	5.9
5 情報格差のないIT環境	23	3.0
6 文化継承・創造の風土	12	1.6
7 安心な保健・医療・福祉	45	5.9
8 子育て支援や教育機会	41	5.4
9 その他	2	0.3
無回答	536	70.3

1. 企業の誘致などによる職場の確保、増加
2. 新たな事業を起こせる環境やその支援
3. 良質で低廉な住宅や宅地の確保、提供
4. 都会的な商業施設や流行に触れる機会
5. 情報格差を感じない I T（情報技術）環境などの整備
6. 誇りある文化が継承され創造される風土
7. 老後も安心して暮らせる保健・医療・福祉
8. 子育て支援制度や多様な教育の機会
9. その他

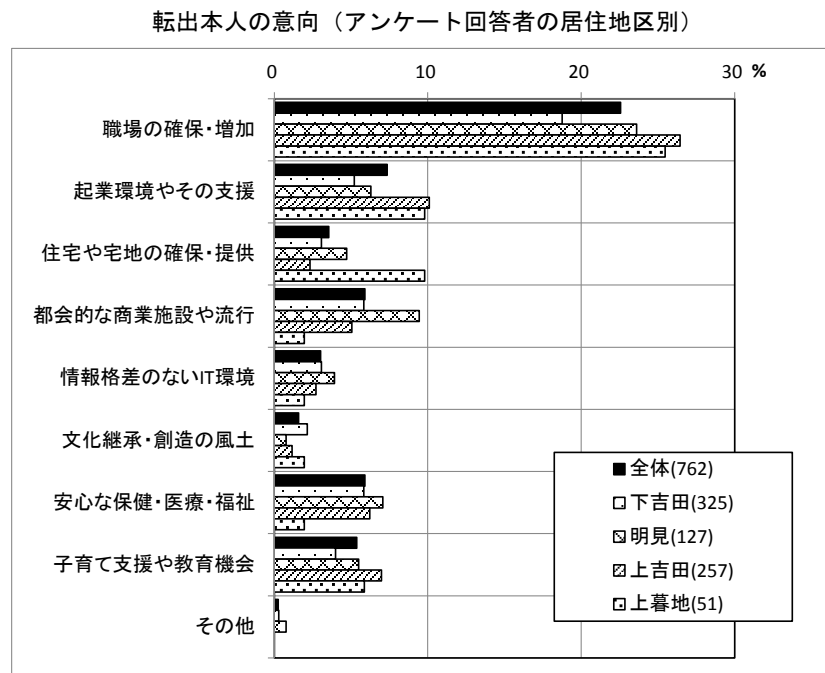


問 12 の設問

進学や就職などで市外に転出した方が市内に戻ってきやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

転出者本人の回答が得られた中での「戻ってくるための条件」としては、「企業誘致等による職場の確保・増加」が最も多く、他を引き離している。

アンケート回答者の居住地区別では、上吉田・上暮地でこの職場や仕事関係の回答割合が比較的高い一方、明見での「都会的な商業施設や流行」の割合の高さ、上暮地での「住宅や宅地の確保・提供」の割合の高さが目立っている。



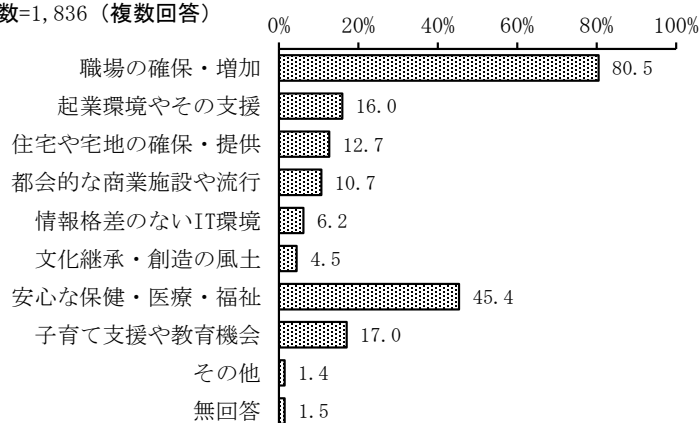
問 12. 進学や就職などで市外に転出した方が市内に戻ってきやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は2つまで）

問12. 市内還流の条件

項目名 【2つまでの複数回答】	集計値	構成比（％）
全体	1,836	100.0
1 職場の確保・増加	1,478	80.5
2 起業環境やその支援	293	16.0
3 住宅や宅地の確保・提供	233	12.7
4 都会的な商業施設や流行	196	10.7
5 情報格差のないIT環境	113	6.2
6 文化継承・創造の風土	82	4.5
7 安心な保健・医療・福祉	833	45.4
8 子育て支援や教育機会	313	17.0
9 その他	26	1.4
無回答	27	1.5

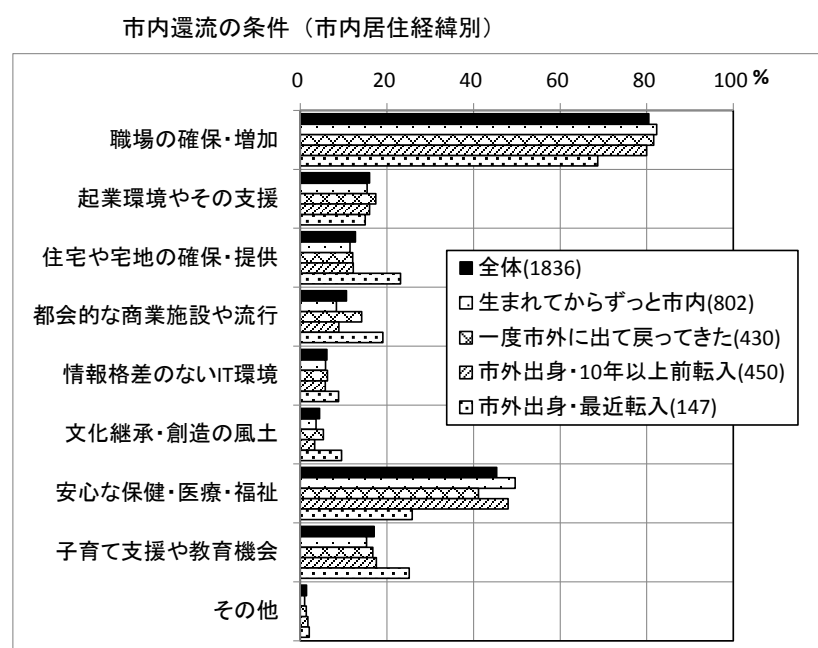
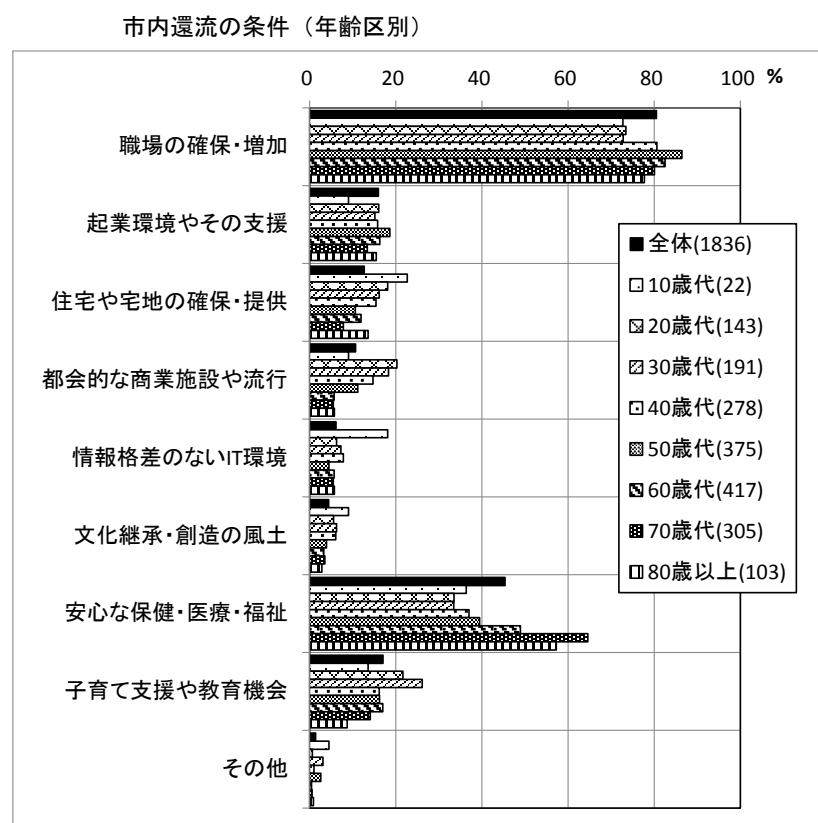
1. 企業の誘致などによる職場の確保、増加
2. 新たな事業を起こせる環境やその支援
3. 良質で低廉な住宅や宅地の確保、提供
4. 都会的な商業施設や流行に触れる機会
5. 情報格差を感じない I T（情報技術）環境などの整備
6. 誇りある文化が継承され創造される風土
7. 老後も安心して暮らせる保健・医療・福祉
8. 子育て支援制度や多様な教育の機会
9. その他

総数=1,836（複数回答）



問 11-1 での転出者本人の求める還流条件に対して、アンケート回答者自身が考える転出者の還流条件は、やはり「企業誘致等による職場の確保・増加」が最も高い割合であることは共通しているが、「老後も安心して暮らせる保健・医療・福祉」もこれに次いで高い割合を示していることが特徴的である。この割合は、回答者が高齢であるほど高くなるが、若年世代でも3割台の回答率があり、本人の回答率が5.9%であったことと大きな差異を見せている。

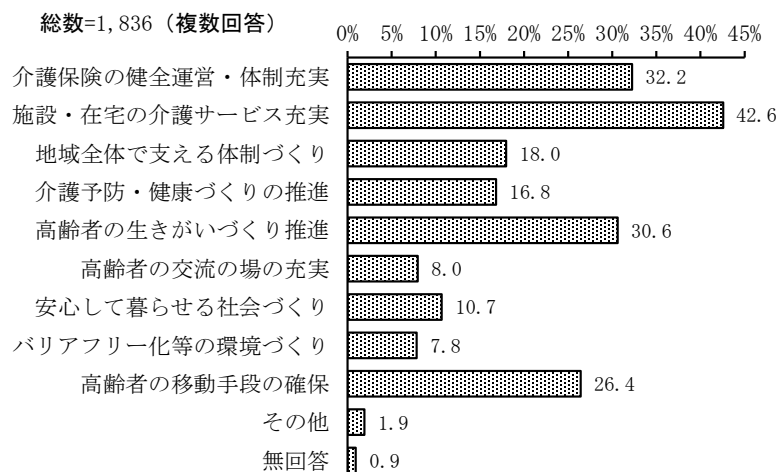
また、最近転入の市外出身者はやや異なる傾向を見せており、「住宅や宅地の確保・提供」や「都会的な商業施設や流行」、「子育て支援や教育機会」などの比重が比較的高い。これは、この属性の年齢構成も反映した結果とも見られる。



問 13. 本格的な高齢社会を迎えています、高齢化対策として特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（回答は2つまで）

問13. 高齢化対策の重点

項目名 【2つまでの複数回答】	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 介護保険の健全運営・体制充実	592	32.2
2 施設・在宅の介護サービス充実	782	42.6
3 地域全体で支える体制づくり	330	18.0
4 介護予防・健康づくりの推進	309	16.8
5 高齢者の生きがいがづくり推進	562	30.6
6 高齢者の交流の場の充実	146	8.0
7 安心して暮らせる社会づくり	196	10.7
8 バリアフリー化等の環境づくり	144	7.8
9 高齢者の移動手段の確保	485	26.4
10 その他	35	1.9
無回答	17	0.9



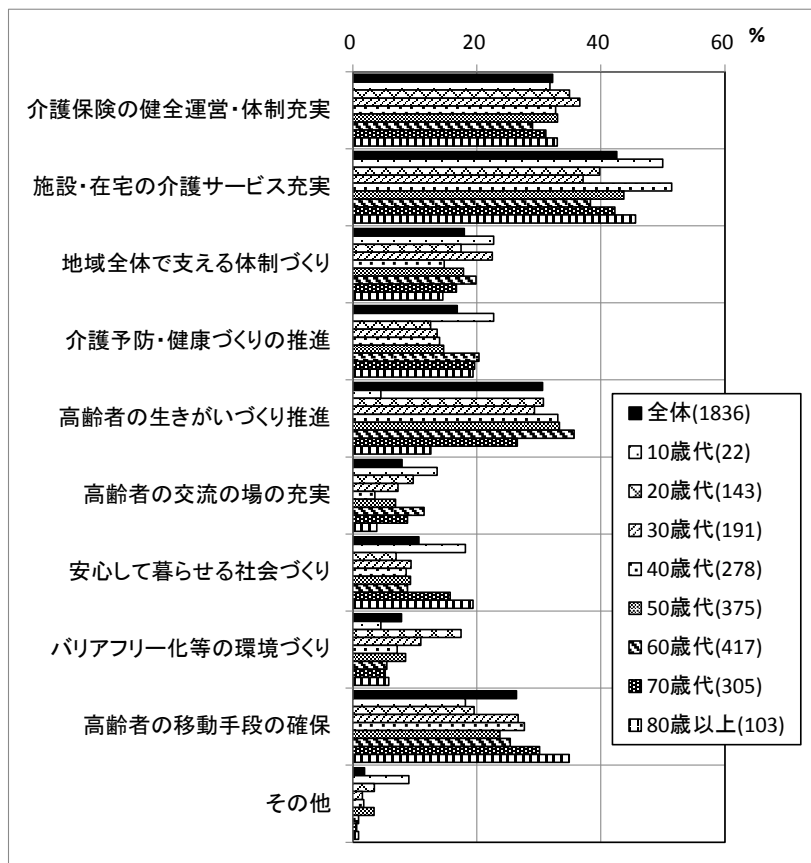
1. 介護保険制度の健全で円滑な運営とその体制、人材等の充実
2. 高齢者福祉施設や在宅福祉サービスなど介護サービスの充実
3. 高齢者の生活を地域全体で支える体制づくりの強化
4. 要介護状態になることを防ぐ介護予防、健康づくりの推進
5. 高齢者の社会参加、働く場の確保などによる生きがいがづくりの推進
6. 高齢者の生涯学習活動など交流の場の充実
7. 見守りや防犯など高齢者が安心して暮らせる社会づくり
8. 道路や各種施設のバリアフリー化など高齢者が活動しやすい環境づくり
9. バスなどの公共交通機関の充実による高齢者の移動手段の確保
10. その他

高齢化対策としては、「高齢者福祉施設や在宅福祉など介護サービスの充実」が最多で、「介護保険制度の健全運営・体制充実」がこれに次ぎ、介護の重要性が指摘されているが、これと合わせて、「高齢者の社会参加・働く場など生きがいがづくりの推進」や「公共交通機関による高齢者の移動手段の確保」も多くの回答を集めている。

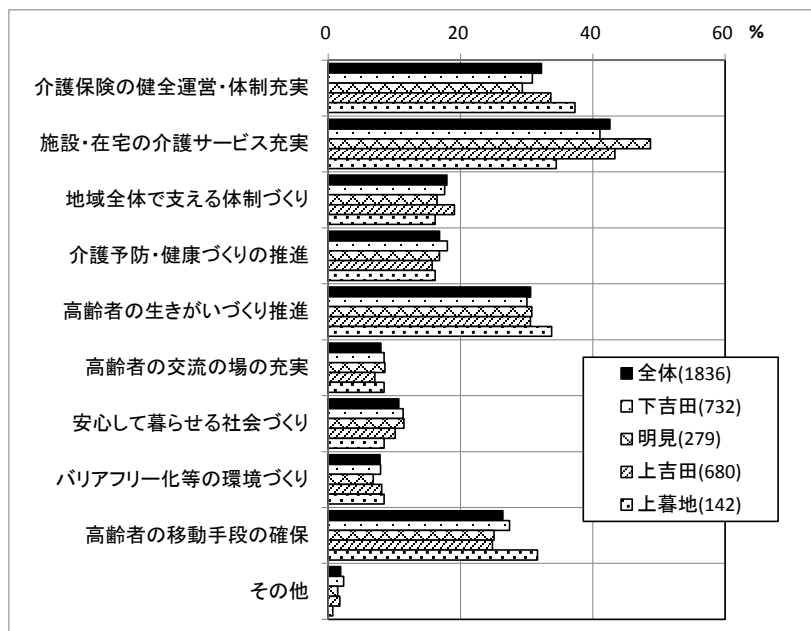
「介護サービスの充実」や「介護保険制度の健全運営・体制充実」は若年世代も含めてあらゆる世代に支持されている一方、「高齢者の生きがいがづくり推進」や「高齢者の移動手段の確保」は60歳代など高齢者自身の指摘割合が相対的に高いという特徴がある。

また、「高齢者福祉施設や在宅福祉など介護サービスの充実」は特に明見で、「高齢者の移動手段の確保」や「高齢者の生きがいがづくり推進」は特に上幕地で、他地区より高い割合であることが目立つ。

高齢化対策の重点（年齢別）



高齢化対策の重点（居住地区（集約）別）



(3) 産業・観光問題など

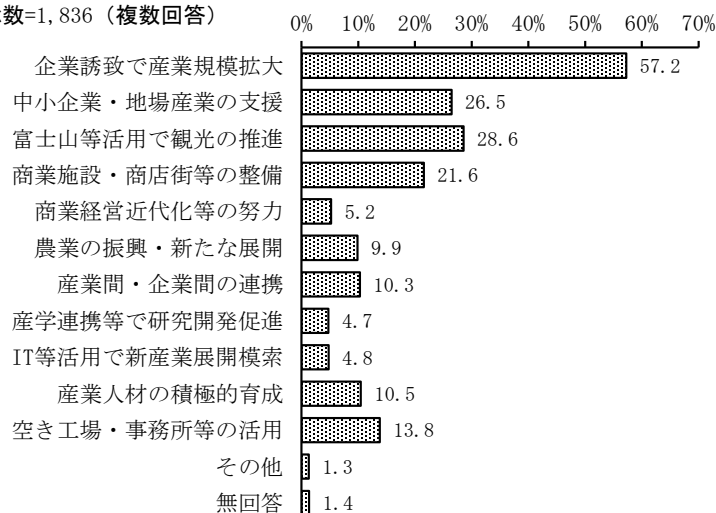
問 14. 富士吉田市が活気あるまちとして成長するために、産業の育成をどのような方向で進めるべきだと思いますか。(回答は2つまで)

問14. 産業育成の方向

項目名 【2つまでの複数回答】	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 企業誘致で産業規模拡大	1,051	57.2
2 中小企業・地場産業の支援	486	26.5
3 富士山等活用で観光の推進	525	28.6
4 商業施設・商店街等の整備	396	21.6
5 商業経営近代化等の努力	96	5.2
6 農業の振興・新たな展開	181	9.9
7 産業間・企業間の連携	189	10.3
8 産学連携等で研究開発促進	87	4.7
9 IT等活用で新産業展開模索	88	4.8
10 産業人材の積極的育成	192	10.5
11 空き工場・事務所等の活用	254	13.8
12 その他	24	1.3
無回答	25	1.4

1. 新たな企業の誘致による産業規模と雇用機会の拡大
2. 既存の中小企業や地場産業などの経営力強化への支援の充実
3. 世界文化遺産に登録された富士山などの活用による観光の推進
4. 商業施設や商店街の環境整備などの推進
5. 商業経営の近代化やサービス向上への努力などの促進
6. 農地の有効利用や後継者育成などによる農業振興、新たな農業展開
7. 農・商・工など産業間・企業間の連携による新たな製品や価値の創出
8. 産・学などの連携も含め、新技術・新商品の研究開発の促進
9. IT（情報技術）や新エネルギーなどを活用した新たな産業展開の模索
10. 産業に関わる人材の積極的な育成
11. 空き工場・事務所等の活用の推進
12. その他

総数=1,836（複数回答）

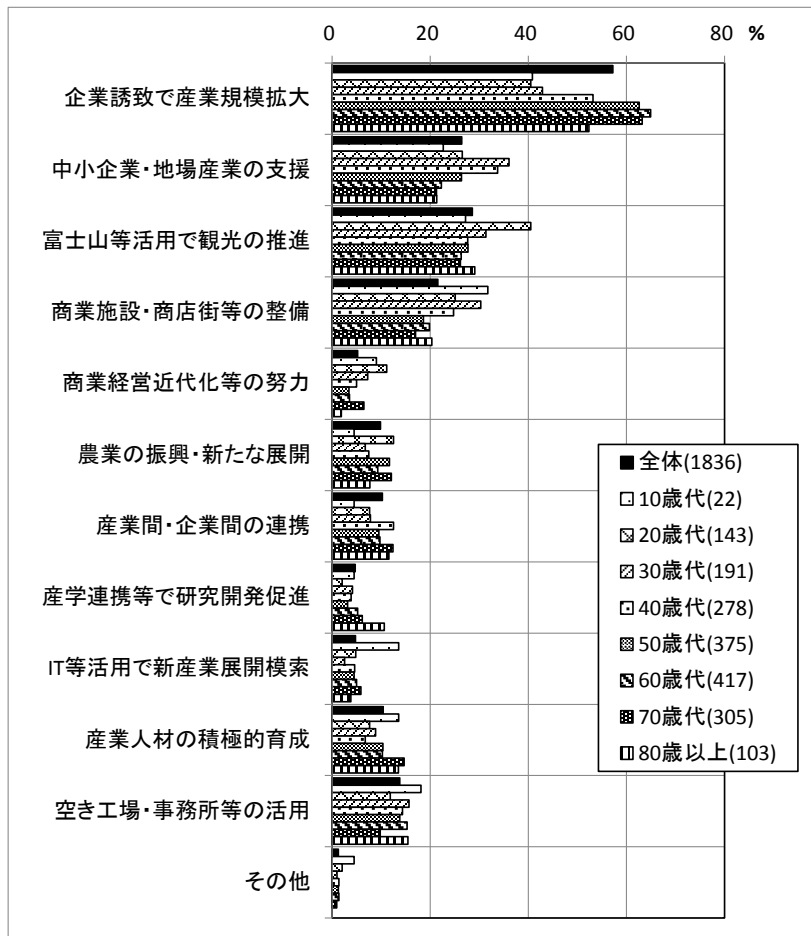


市の産業育成方策としては、「企業誘致による産業規模と雇用機会の拡大」が最も大きな割合を占め、半数以上の回答者が指摘している。このほかでは、「富士山などの活用による観光の推進」、「既存中小企業や地場産業等の経営力強化への支援充実」、「商業施設や商店街の環境整備等の推進」が比較的高い割合を示している。

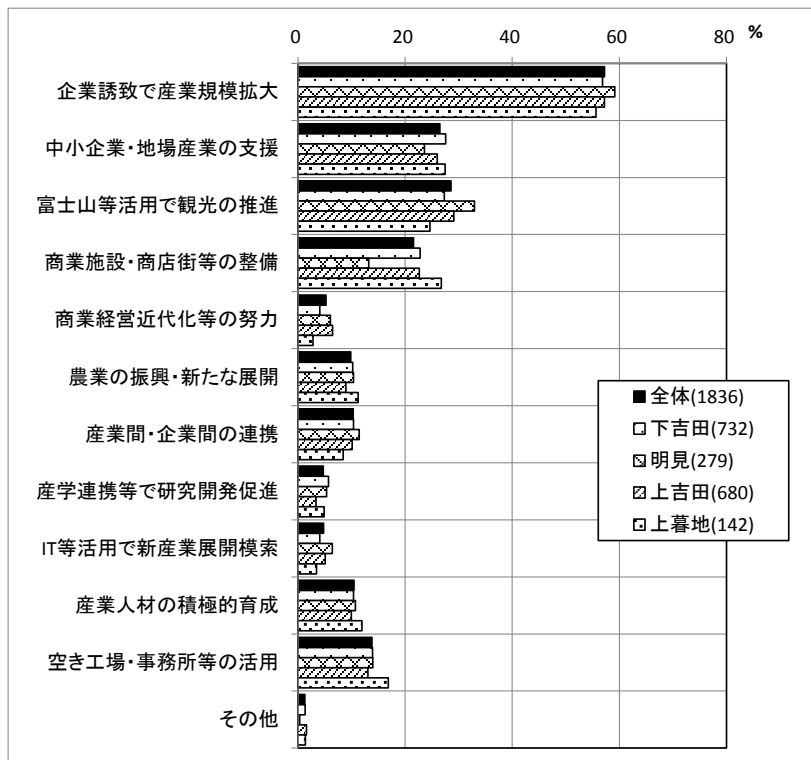
1位の「企業誘致による産業規模と雇用機会の拡大」は高齢者で特に高い回答率を示している反面、2位以下の「富士山などの活用による観光の推進」、「既存中小企業や地場産業等の経営力強化への支援充実」、「商業施設や商店街の環境整備等の推進」では若年層で比較的高い回答割合である等の相違が特徴的である。

居住地区による大きな相違は見られないが、全体で1位、2位の「企業誘致による産業規模と雇用機会の拡大」と「富士山などの活用による観光の推進」では明見での回答割合が相対的に高い。

産業育成の方向（年齢別）



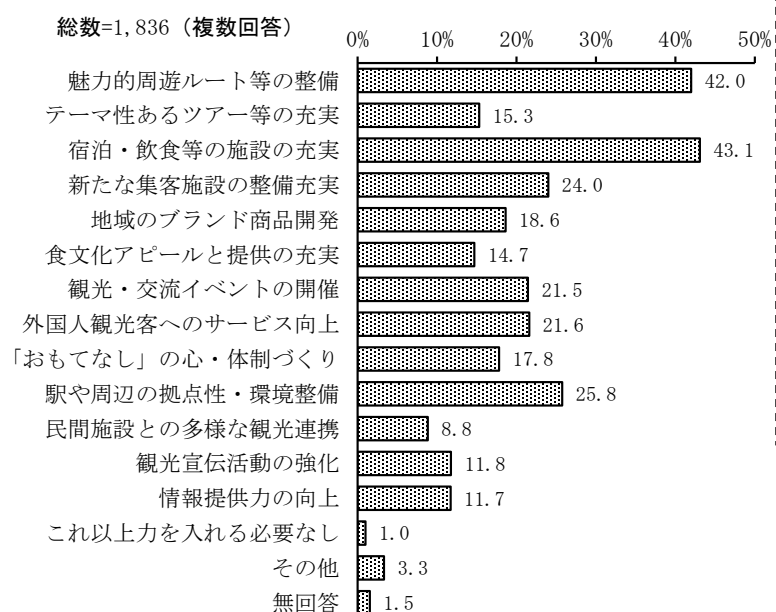
産業育成の方向（居住地区（集約）別）



問 15. 近年、外国人を含めこの地域を訪れる観光客が増えています。今後の観光の振興は、どのような方向を重視して進めるべきだと思いますか。(回答は3つまで)

問15. 今後の観光振興の方向

項目名 【3つまでの複数回答】	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 魅力的周遊ルート等の整備	771	42.0
2 テーマ性あるツアー等の充実	281	15.3
3 宿泊・飲食等の施設の充実	791	43.1
4 新たな集客施設の整備充実	441	24.0
5 地域のブランド商品開発	342	18.6
6 食文化アピールと提供の充実	270	14.7
7 観光・交流イベントの開催	394	21.5
8 外国人観光客へのサービス向上	397	21.6
9 「おもてなし」の心・体制づくり	327	17.8
10 駅や周辺の拠点性・環境整備	473	25.8
11 民間施設との多様な観光連携	162	8.8
12 観光宣伝活動の強化	216	11.8
13 情報提供力の向上	215	11.7
14 これ以上力を入れる必要なし	18	1.0
15 その他	61	3.3
無回答	28	1.5



1. 周辺地域と連携した魅力的な周遊ルート、コースの整備とPR
2. エコ、歴史、伝統産業、健康などテーマ性のあるツアー等の充実
3. 宿泊施設や飲食施設など、観光客が滞留・滞在できる施設の充実
4. ショッピングモール、水族館、動物園など、新たな観光集客施設の整備充実
5. 特色ある農産物や特産品づくり等による地域のブランド商品開発
6. 「吉田のうどん」をはじめとする食文化のアピールと提供体制充実
7. 話題性のある観光・交流イベントの企画・開催
8. 観光・交通案内サインの外国語標記など、外国人観光客へのサービス向上
9. 観光ボランティアガイドの育成など「おもてなし」の心と体制づくり
10. 観光交通の結節点でもある富士山駅、下吉田駅とその周辺の拠点性・滞留環境の整備
11. 富士急ハイランドなど民間施設との観光に関する多様な連携
12. マスメディアやインターネット等を活用した観光宣伝活動の強化
13. Wi-Fi (無線LAN) 環境の充実など情報提供力の向上
14. これ以上、観光に力を入れる必要はない
15. その他

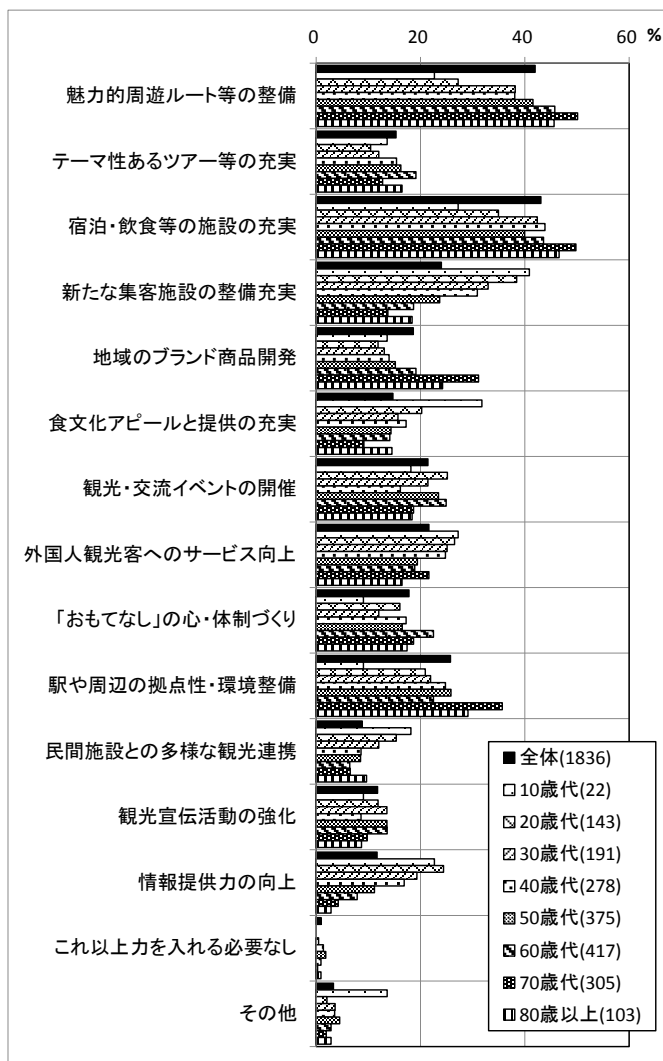
今後の観光振興の方向での重点としては、「宿泊・飲食施設等、観光客が滞留・滞在できる施設の充実」を求める割合が最も多く、次いで「周辺地域と連携した魅力的な周遊ルート、コースの整備とPR」がほぼ並んでいる。3位は「富士山駅等の駅やその周辺の拠点性・滞留環境の整備」が、4位は「新たな観光集客施設の整備充実」となっている。これらの現状に対する不足感、不満感がこの回答に現れたものと考えられる。

「宿泊・飲食施設等の施設充実」や「魅力的な周遊ルート等の充実」、「駅や周辺の拠点性・環境整備」は高齢者での指摘割合が高い反面、「新たな観光集客施設の整備充実」や「食文化アピールと提供の充実」、「情報提供力の向上」、「外国人観光客へのサービス向上」、「民間施設との多様な観光連携」等は、若年層で比較的高い割合であるなどの差が見られる。

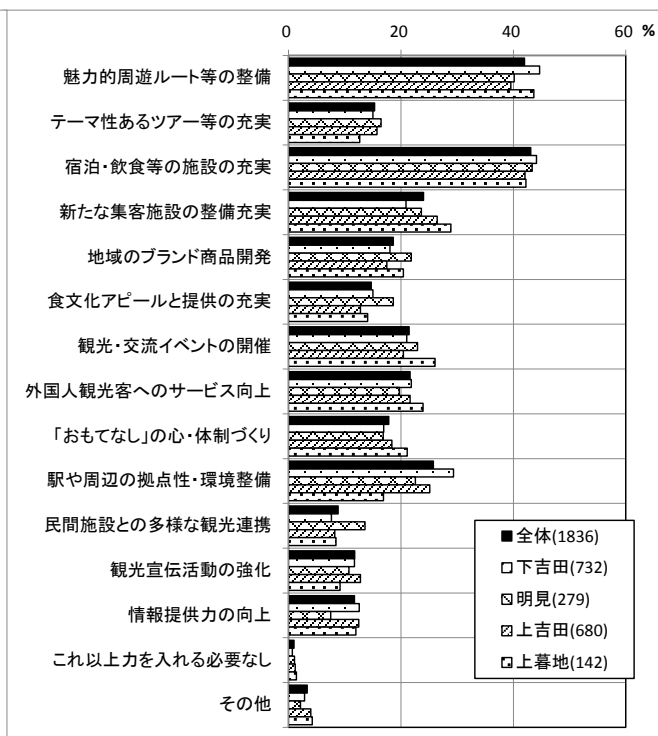
また、「駅や周辺の拠点性・環境整備」は下吉田、上吉田で、「新たな集客施設の整備充実」は

上暮地で、「民間施設との多様な観光連携」は明見で、それぞれ比較的割合が高くなっている。

今後の観光振興の方向（年齢別）



今後の観光振興の方向（居住地区（集約）別）

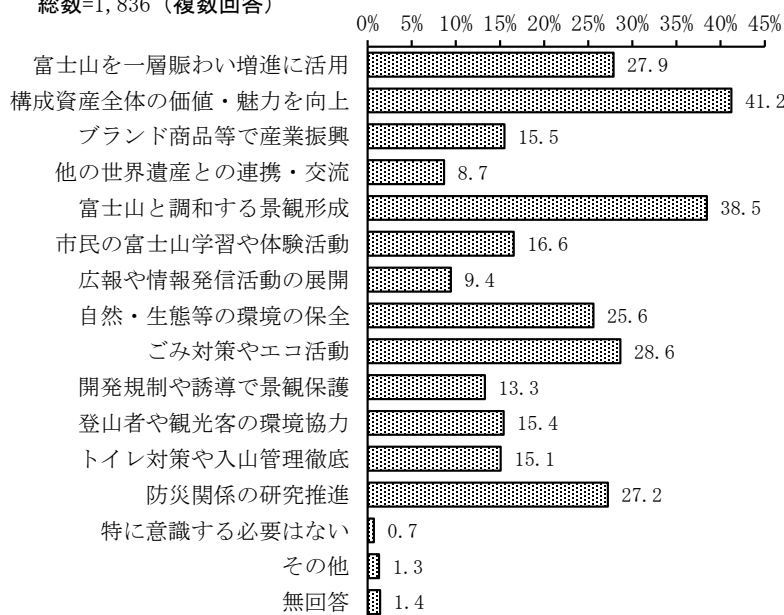


問 16. 富士山が世界文化遺産に登録されましたが、地元地域として、これをどう活用し、また、保全していくべきだと思いますか。(回答は3つまで)

問16. 世界遺産登録の活用方向

項目名 【3つまでの複数回答】	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 富士山を一層賑わい増進に活用	512	27.9
2 構成資産全体の価値・魅力を向上	757	41.2
3 ブランド商品等で産業振興	285	15.5
4 他の世界遺産との連携・交流	159	8.7
5 富士山と調和する景観形成	706	38.5
6 市民の富士山学習や体験活動	304	16.6
7 広報や情報発信活動の展開	173	9.4
8 自然・生態等の環境の保全	470	25.6
9 ごみ対策やエコ活動	526	28.6
10 開発規制や誘導で景観保護	244	13.3
11 登山者や観光客の環境協力	283	15.4
12 トイレ対策や入山管理徹底	277	15.1
13 防災関係の研究推進	500	27.2
14 特に意識する必要はない	13	0.7
15 その他	24	1.3
無回答	26	1.4

総数=1,836 (複数回答)



1. 世界遺産富士山を観光・交流資源として、一層の賑わい増進に活用していく。
2. 富士山そのものだけでなく、他の構成資産を合わせ全体の価値・魅力を高めていく。
3. 富士山ブランドの商品開発など市の産業振興への活用を進める。
4. 国内外の他の世界遺産との連携や交流により一層の価値向上に努める。
5. 富士山の眺望との調和を基本として、良好な都市景観づくりを積極的に進める。
6. 大人や子どもが富士山を知り、語り、守る力となるよう、学習や体験活動を充実させる。
7. 富士山の世界文化遺産としての価値を伝える広報や情報発信活動を展開する。
8. 自然の地形や生態系、水環境などの保全に万全を期す。
9. 清掃活動やごみ不法投棄防止のパトロール、エコ活動などを積極的に進める。
10. 景観保護の観点から、開発の規制や適正な誘導などに努める。
11. 登山者や観光客に環境保全の理解と協力を求める。
12. 富士山のトイレ対策や、入山管理の徹底などを強化する。
13. 富士山の噴火の可能性を考慮し、防災関係の研究を強化する。
14. 特に世界遺産登録を意識する必要はない。
15. その他

世界文化遺産に登録された富士山の活用・保全の方向としては、「富士山だけでなく構成資産全体の価値・魅力を高める」の回答率が最も高く、これに「富士山と調和する良好な都市景観づくり」が続いている。

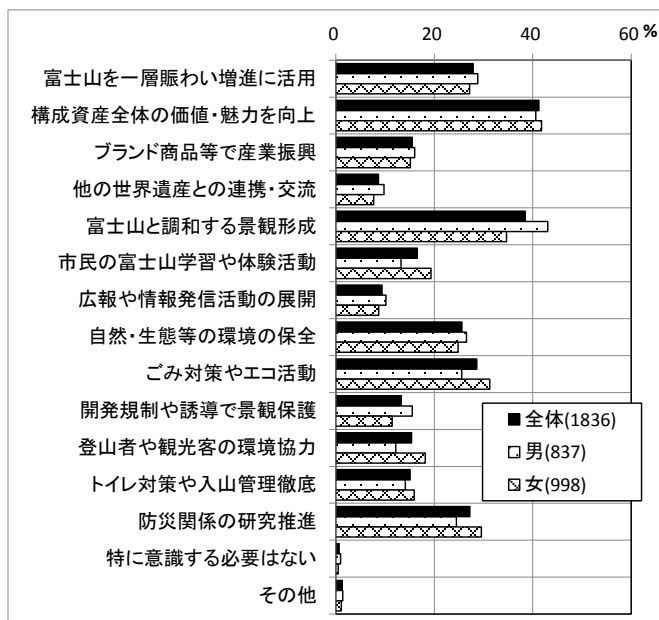
このほか、「富士山を一層の賑わい増進に活用する」等の積極活用型の項目への支持も高い反面、「ごみ対策やエコ活動」、「自然・生態等の環境の保全」といった保全型の項目への支持も目立っている。また、「噴火の可能性を考慮し防災関係の研究を強化」との項目も高い回答率を示している。

男性では「富士山と調和する景観形成」の割合が比較的高いのにに対し、女性では「ごみ対策やエコ活動」、「防災関係の研究強化」、「市民の富士山学習や体験活動」の割合が相対的に

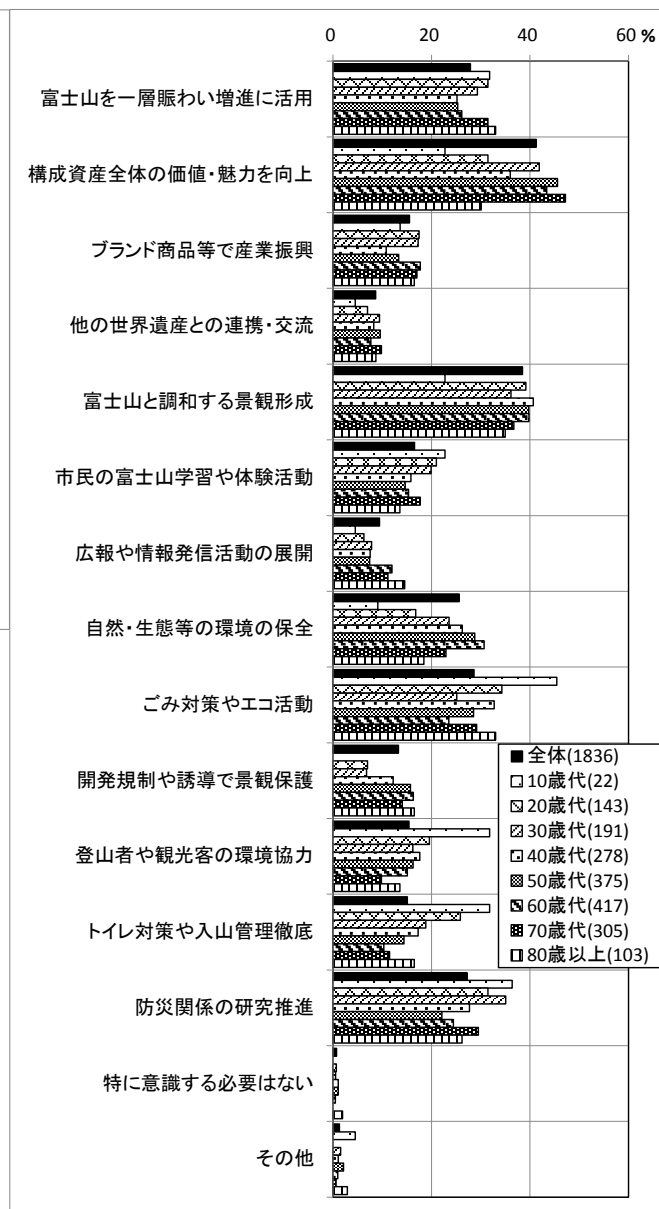
高くなっている。

全体で1位の「構成資産全体の価値・魅力を高める」は中高年齢層で比較的高い回答率となっているが、「ごみ対策やエコ活動」等の環境保全に関する項目、あるいは「市民の富士山学習や体験活動」等では若年層の回答率が相対的に高いという特徴もみられる。

世界遺産登録の活用方向（性別）



世界遺産登録の活用方向（年齢別）



(4) 土地利用・都市基盤

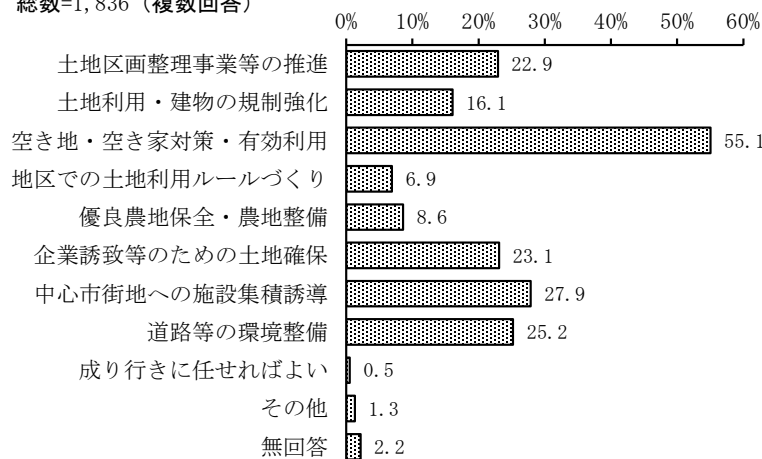
問 17. 近年、中心市街地の空洞化や人口減少に伴う空き家の増加など、土地利用上の問題が見られます。今後の土地利用を考える上で、どのようなことが重要と思いますか。(回答は2つまで)

問17. 今後の土地利用での重点

項目名 【2つまでの複数回答】	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 土地区画整理事業等の推進	421	22.9
2 土地利用・建物の規制強化	295	16.1
3 空き地・空き家対策・有効利用	1,011	55.1
4 地区での土地利用ルールづくり	127	6.9
5 優良農地保全・農地整備	158	8.6
6 企業誘致等のための土地確保	424	23.1
7 中心市街地への施設集積誘導	512	27.9
8 道路等の環境整備	463	25.2
9 成り行きに任せればよい	10	0.5
10 その他	24	1.3
無回答	40	2.2

1. 良好な市街地環境の形成を目指す土地区画整理事業などの推進
2. 秩序ある街並み形成のための土地利用や建物に関する規制の強化
3. 空き地・空き家対策の強化や有効活用の促進
4. 建物の用途や構造などに関する地区でのルールづくり
5. 優良農地の保全や農業生産の効率化等のための農地整備
6. 新たな企業誘致などのためのまとまった土地の確保
7. 中心市街地の賑わいを取り戻すための商業・業務施設などの集積誘導
8. 有効な土地利用がしやすいような道路等の環境整備
9. 土地利用は成り行きに任せればよい
10. その他

総数=1,836 (複数回答)

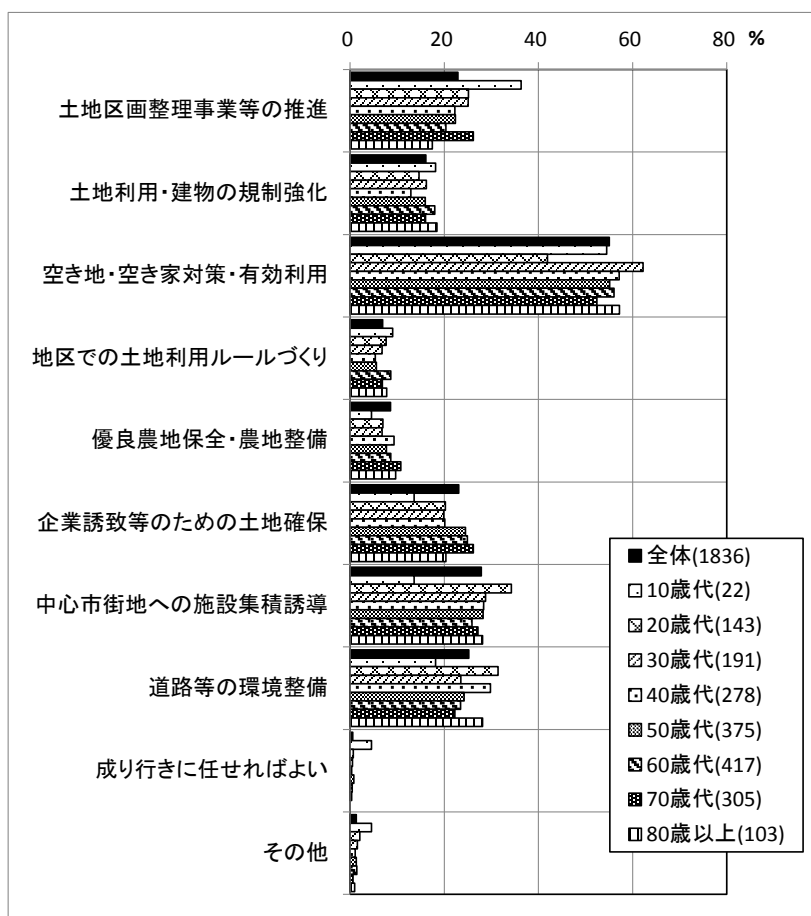


今後の土地利用における重点としては、「空き地・空き家対策の強化や有効利用促進」の回答率が突出して高く、回答者の 55.1%が指摘している。空き地・空き家の現状への問題意識の高まりの現れと考えられる。そのほかでは、「中心市街地への商業・業務施設等の集積誘導」、「土地利用しやすい道路等の環境整備」、「土地区画整理事業等の推進」への支持が比較的高い。

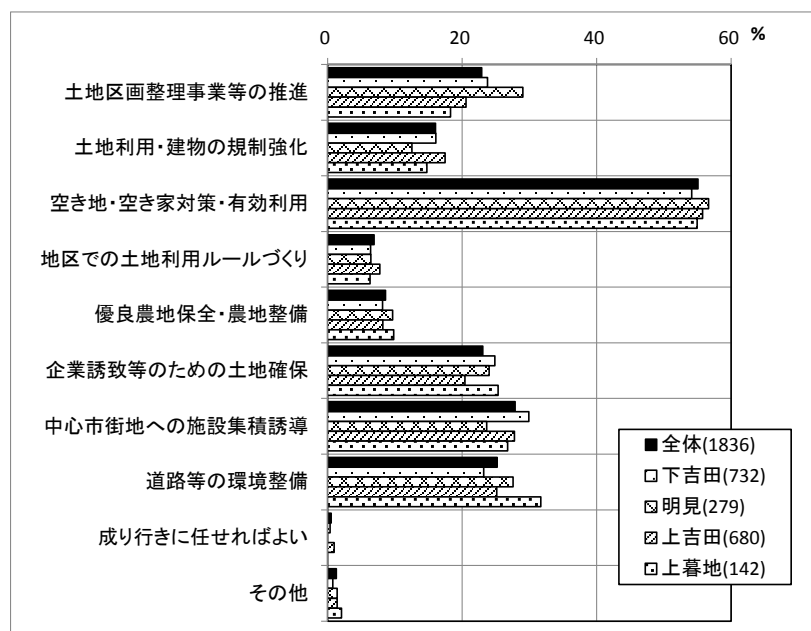
1位の「空き地・空き家対策の強化や有効利用」は30歳代以上の各世代で等しく高い回答率を示しているほか、「中心市街地への施設等の集積誘導」は20歳代で、「土地区画整理事業等の推進」は10歳代で回答率が他世代よりも高いのが目立つ。

また、「空き地・空き家対策の強化や有効利用」は各地区で同様の高率を示しているが、「中心市街地への施設等の集積誘導」は下吉田、上吉田地区で、「土地区画整理事業等の推進」は明見で、「道路等の環境整備」は上暮地で比較的高い指摘率となっている。

今後の土地利用での重点（年齢別）



今後の土地利用での重点（居住地区（集約）別）



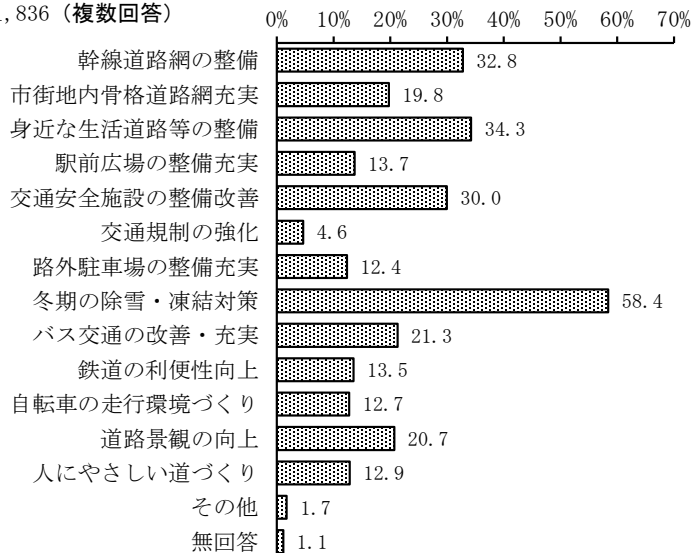
問 18. 市民生活や産業活動、観光などの基盤となる道路や交通について、どのようなことが重要と思いますか。（回答は3つまで）

問18. 道路・交通施策の重点

項目名 【3つまでの複数回答】	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 幹線道路網の整備	602	32.8
2 市街地内骨格道路網充実	363	19.8
3 身近な生活道路等の整備	629	34.3
4 駅前広場の整備充実	252	13.7
5 交通安全施設の整備改善	550	30.0
6 交通規制の強化	85	4.6
7 路外駐車場の整備充実	227	12.4
8 冬期の除雪・凍結対策	1,073	58.4
9 バス交通の改善・充実	391	21.3
10 鉄道の利便性向上	248	13.5
11 自転車の走行環境づくり	234	12.7
12 道路景観の向上	380	20.7
13 人にやさしい道づくり	236	12.9
14 その他	32	1.7
無回答	21	1.1

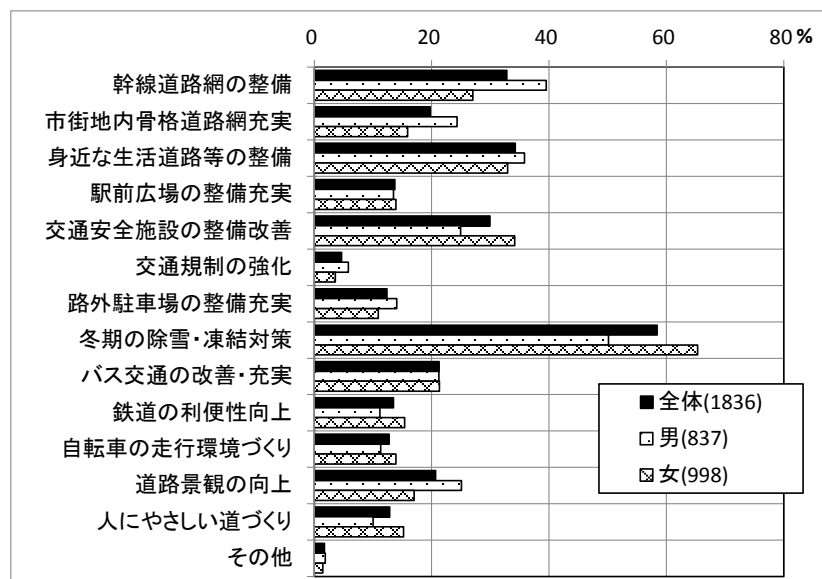
1. バイパスやスマートインターチェンジなど幹線道路網の整備
2. 市街地内の骨格となる道路網の充実
3. 身近な生活道路や狭い道路の拡幅整備など
4. 交通の拠点となる駅前広場の整備充実
5. 歩道の設置・拡幅や信号、カーブミラーなど交通安全施設の整備・改善
6. 円滑で安全な交通確保のための一方通行など交通規制の強化
7. 路外駐車場の整備・充実
8. 冬期の道路除雪・凍結対策
9. 「タウンズニーカー」などバス交通の改善・充実
10. 鉄道の利便性向上
11. 自転車が走りやすい環境づくり
12. 道路緑化や電線類地中化など道路景観の向上
13. 段差の解消や点字ブロックの設置など人にやさしい道づくり
14. その他

総数=1,836（複数回答）



道路・交通施策の重点（性別）

道路・交通施策の重点としては、「冬期の除雪・凍結対策」の割合が突出して高く、回答者の 58.4% が指摘している。そのほかでは、「身近な生活道路等の整備」、「バイパスやスマートIC等の幹線道路の整備」、「交通安全施設の整備改善」等への支持が目立っている。

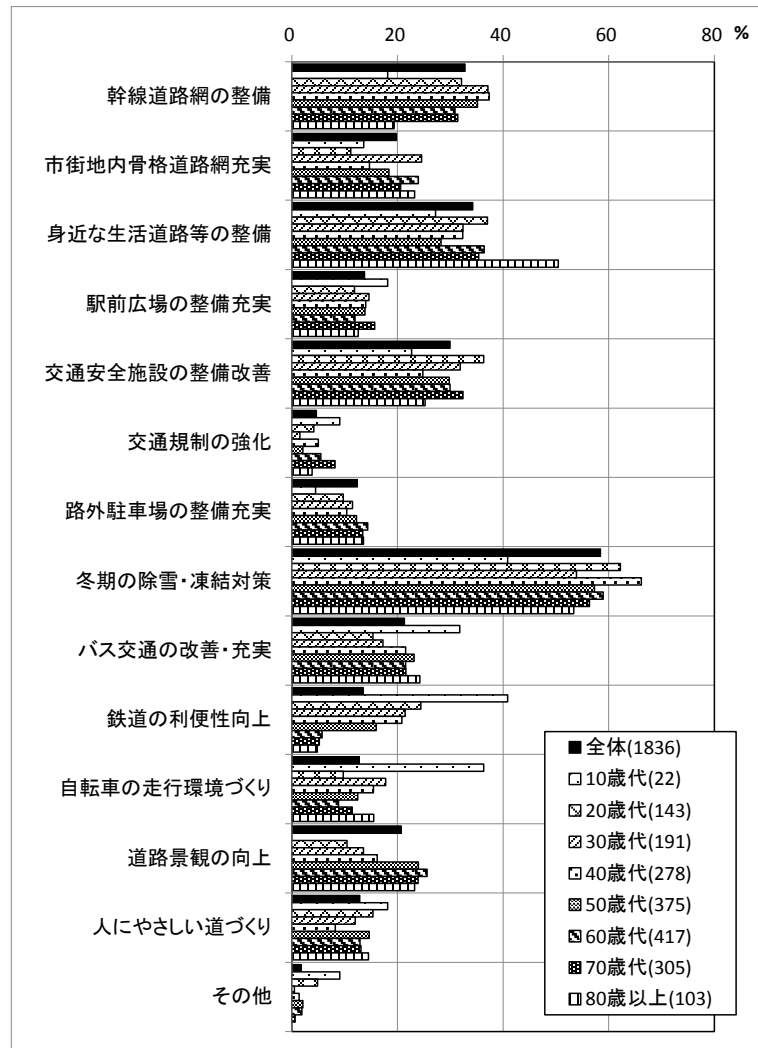


「冬期の除雪・凍結対策」や「交通安全施設の整備改善」は特に女性で高い割合となっている。他方、男性では、「幹線道路の整備」や「市街地骨格道路網の充実」、「道路景観の向上」等が女性より高い割合であるが目立つ。

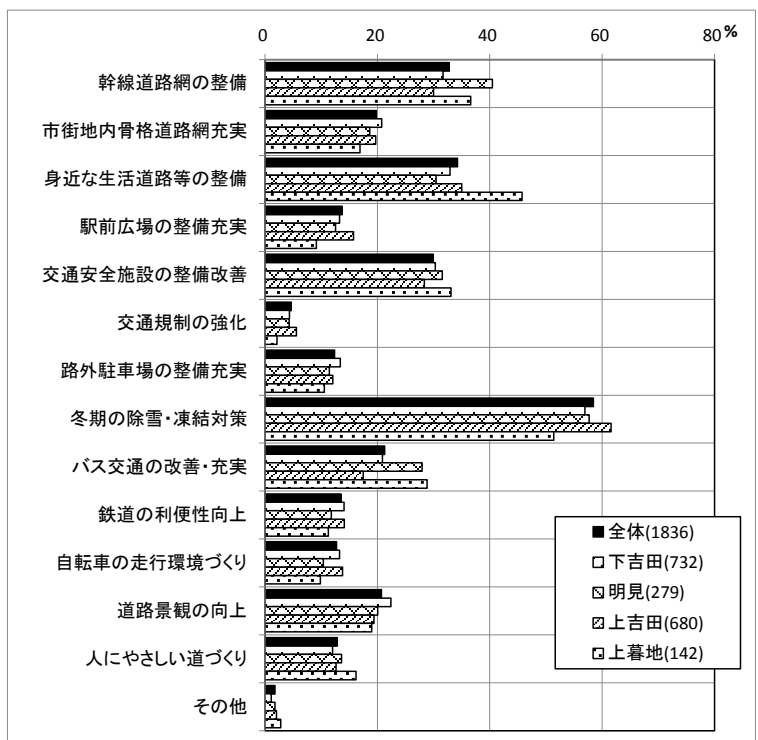
年齢別では、鉄道・バス交通に関する項目や「自転車の走行環境づくり」で10歳代の回答率が突出していること、「幹線道路網の整備」では30～50歳代の回答率が高いこと、「道路景観の向上」では高齢者層の回答率が高いこと等の特徴が見られる。

また、「冬期の除雪・凍結対策」は特に上吉田で、「身近な生活道路等の整備」は特に上暮地で、「幹線道路網の整備」と「バス交通の改善・充実」は特に明見及び上暮地で、それぞれ相対的に割合が高くなっている。

道路・交通施策の重点（年齢別）



道路・交通施策の重点（居住地区（集約）別）



(5) 防災

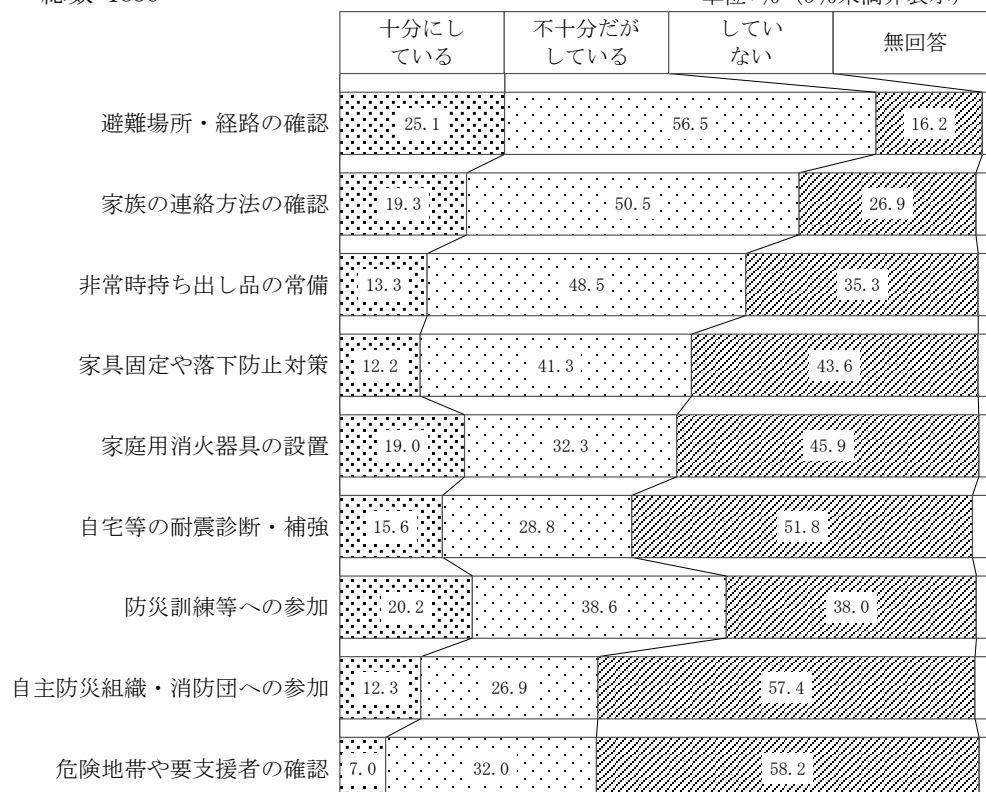
問 19. 各地で相次ぐ自然災害の発生により、防災対策への関心が高まっています。あなたは、次のような日ごろの災害への備えをしていますか。（a～iについて1つずつ回答）

問19. 日ごろの災害への備え

	全体	十分に している	不十分 だが している	して いない	無回答
a. 避難場所・経路の確認	1,836 100.0	460 25.1	1,037 56.5	297 16.2	42 2.3
b. 家族の連絡方法の確認	1,836 100.0	354 19.3	928 50.5	494 26.9	60 3.3
c. 非常時持ち出し品の常備	1,836 100.0	244 13.3	890 48.5	648 35.3	54 2.9
d. 家具固定や落下防止対策	1,836 100.0	224 12.2	758 41.3	800 43.6	54 2.9
e. 家庭用消火器具の設置	1,836 100.0	348 19.0	593 32.3	843 45.9	52 2.8
f. 自宅等の耐震診断・補強	1,836 100.0	286 15.6	529 28.8	951 51.8	70 3.8
g. 防災訓練等への参加	1,836 100.0	370 20.2	709 38.6	698 38.0	59 3.2
h. 自主防災組織・消防団への参加	1,836 100.0	226 12.3	494 26.9	1,053 57.4	63 3.4
i. 危険地帯や要支援者の確認	1,836 100.0	128 7.0	588 32.0	1,069 58.2	51 2.8

総数=1836

単位:% (5%未満非表示)



日ごろの災害への備えとして9項目掲げた中で、「十分にしている」と「不十分だがしている」の合計割合が最も高いのは「避難場所・避難経路の確認」であり8割強の値となっている。以下、「災害時の家族の連絡方法の確認」、「非常時持ち出し品の常備」、「地域や職場の防災訓練等への

参加」の順で続いており、最もこの値が低いのは「近所の危険地帯や援護が必要な方の確認」で4割弱となっている。

この「(十分に、不十分だが) している」の合計割合は、概して女性より男性の方が高く、また若い世代よりも中高年齢層の方が高い傾向がある。地区によっても傾向のばらつきが見られる。

日ごろの災害への備え（「十分にしている」と「不十分だがしている」の合計割合）
（性別、年齢別、居住地区（集約）別）

	全体	性別		年齢							
		男	女	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
a. 避難場所・経路の確認	81.5	82.0	81.3	72.7	72.0	77.5	83.1	80.5	84.4	86.9	75.7
b. 家族の連絡方法の確認	69.8	69.1	70.5	63.6	62.2	70.7	74.8	70.4	67.4	73.8	62.1
c. 非常時持ち出し品の常備	61.8	61.8	61.8	50.0	50.3	60.7	62.6	63.5	61.6	65.9	61.2
d. 家具固定や落下防止対策	53.5	54.2	52.9	45.5	43.4	54.5	53.2	55.5	56.6	54.8	44.7
e. 家庭用消火器具の設置	51.3	55.1	48.1	27.3	43.4	44.5	43.5	53.1	58.0	56.4	51.5
f. 自宅等の耐震診断・補強	44.4	45.4	43.6	50.0	39.2	48.2	52.2	40.8	42.7	45.9	38.8
g. 防災訓練等への参加	58.8	64.9	53.7	45.5	51.0	52.4	61.9	63.5	62.1	59.0	44.7
h. 自主防災組織・消防団への参加	39.2	45.5	34.0	31.8	24.5	30.4	32.7	42.9	46.3	43.9	38.8
i. 危険地帯や要支援者の確認	39.0	43.0	35.7	31.8	25.2	24.1	29.9	37.6	46.3	55.4	38.8

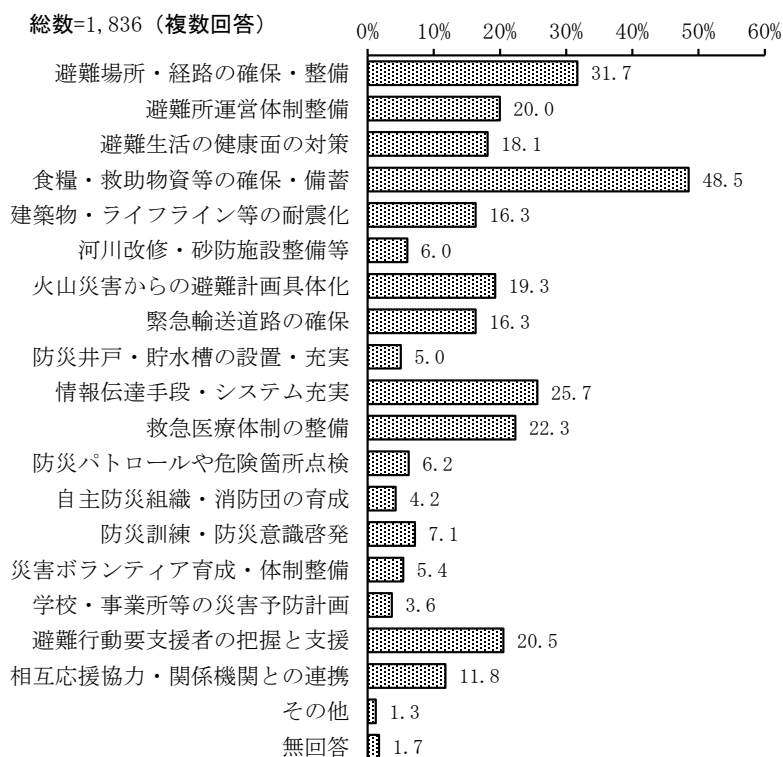
	全体	集約地区			
		下吉田	明見	上吉田	上暮地
a. 避難場所・経路の確認	81.5	90.6	79.5	82.6	79.6
b. 家族の連絡方法の確認	69.8	81.3	74.1	73.9	63.3
c. 非常時持ち出し品の常備	61.8	59.4	67.0	60.9	63.3
d. 家具固定や落下防止対策	53.5	56.3	56.3	56.5	44.9
e. 家庭用消火器具の設置	51.3	59.4	50.0	50.7	44.9
f. 自宅等の耐震診断・補強	44.4	65.6	46.4	52.2	40.8
g. 防災訓練等への参加	58.8	75.0	66.1	55.1	61.2
h. 自主防災組織・消防団への参加	39.2	43.8	35.7	30.4	40.8
i. 危険地帯や要支援者の確認	39.0	31.3	47.3	42.0	34.7

注) 網かけは、全体の割合よりも高い部分

問 20. 災害への備えとして、特にどのような対策を急ぐべきだと思いますか。(回答は3つまで)

問20. 急ぐべき防災対策

項目名 【3つまでの複数回答】	集計値	構成比 (%)	H18調査 構成比 (%)
全体	1,836	100.0	100.0
1 避難場所・経路の確保・整備	582	31.7	26.3
2 避難所運営体制整備	367	20.0	
3 避難生活の健康面の対策	333	18.1	
4 食糧・救助物資等の確保・備蓄	891	48.5	27.3
5 建築物・ライフライン等の耐震化	300	16.3	9.0
6 河川改修・砂防施設整備等	110	6.0	
7 火山災害からの避難計画具体化	354	19.3	
8 緊急輸送道路の確保	300	16.3	18.2
9 防災井戸・貯水槽の設置・充実	92	5.0	9.0
10 情報伝達手段・システム充実	471	25.7	37.2
11 救急医療体制の整備	410	22.3	41.1
12 防災パトロールや危険箇所点検	114	6.2	
13 自主防災組織・消防団の育成	78	4.2	7.7
14 防災訓練・防災意識啓発	131	7.1	8.8
15 災害ボランティア育成・体制整備	99	5.4	7.8
16 学校・事業所等の災害予防計画	67	3.6	
17 避難行動要支援者の把握と支援	377	20.5	
18 相互応援協力・関係機関との連携	216	11.8	
19 その他	23	1.3	0.9
無回答	32	1.7	



1. 避難場所や避難経路となる空間の確保・整備
2. 避難所運営に関する体制整備
3. 避難所生活をする上での健康面の対策
4. 食糧や燃料、災害救助物資などの確保・備蓄対策
5. 建築物や公共土木施設、ライフライン施設などの耐震化
6. 河川の改修や砂防施設などの整備推進
7. 火山災害に備えたシェルターなど避難計画の具体化
8. 物資運搬や救助のための道路の確保
9. 防災井戸、防火用貯水槽の設置、充実
10. 正確で迅速な情報の伝達手段や情報システムの充実
11. 救急医療体制の整備
12. 防災パトロールや災害危険箇所の点検、対策
13. 自主防災組織や消防団などの育成強化
14. 防災訓練などによる市民の防災意識の高揚・啓発
15. 災害時に活動できるボランティアの育成と体制整備
16. 企業や学校、事業所などにおける災害予防計画
17. 高齢者や障害者など災害時に配慮が必要な方の把握と支援体制づくり
18. 災害時の広域的な相互応援協力、関係機関との連携体制の確立
19. その他

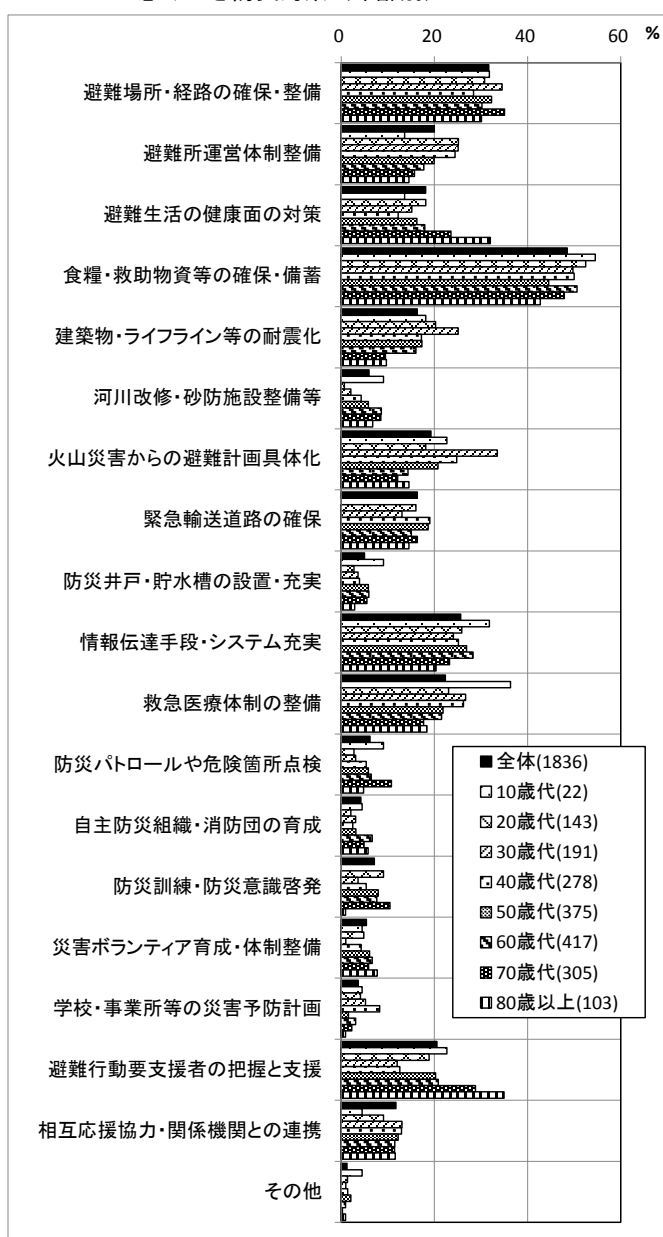
急ぐべき防災対策は、「食糧や燃料、災害救助物資などの確保・備蓄対策」の回答が突出して最も多く、「避難場所や避難経路となる空間の確保・整備」がこれに次いでいる。平成 18 年調査でも選択肢が異なるが同様の設問があり、そこでは「救急医療体制の整備」、「情報伝達手段・システムの充実」に相当する項目が最多であったが、今回はそれ以上に上記 2 項目が重視されており、

東日本大震災の経験から市民の防災に関する意識が変化したとも考えられる。

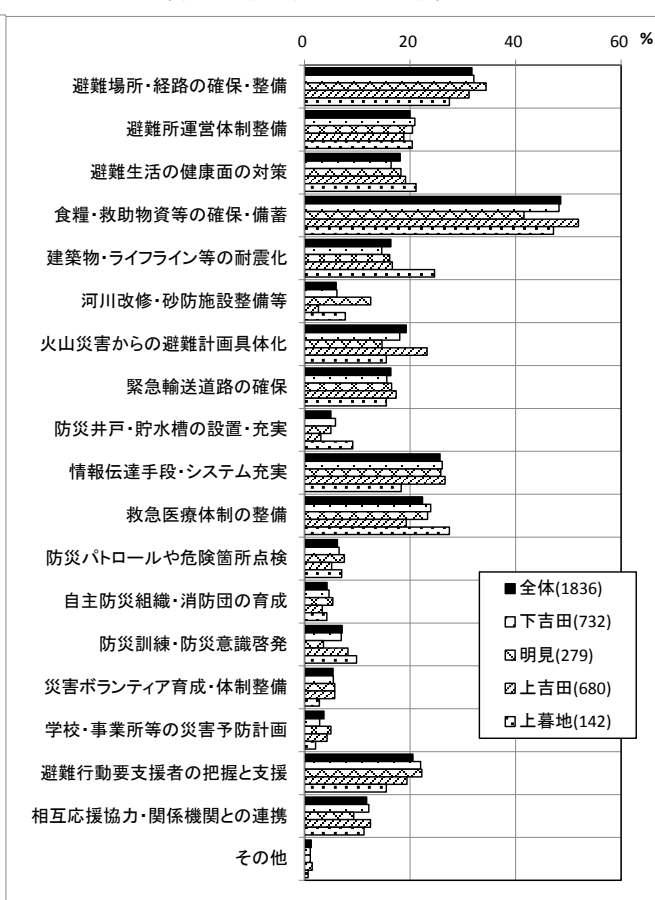
上位2項目（「食糧・救助物資等の確保・備蓄」、「避難場所・経路の確保・整備」）は各世代で高い回答率を示しているが、「救急医療体制の整備」や「避難所運営体制整備」、「火山災害からの避難計画具体化」、「建築物・ライフライン等の耐震化」などは20～30歳代など若い世代で比較的高い回答率であるなどの特徴もある。「災害時に配慮が必要な方の把握と支援体制づくり」は80歳以上をはじめとして高齢者層での回答率が高い。

また、「食糧・救助物資等の確保・備蓄」や「火山災害からの避難計画具体化」では上吉田で、「避難場所・経路の確保・整備」では明見で、「救急医療体制の整備」や「建築物・ライフライン等の耐震化」では上暮地でそれぞれ比較的高い値となっており、各地区の不安を代弁しているとも見られる。

急ぐべき防災対策（年齢別）



急ぐべき防災対策（居住地区（集約）別）



5. 市民と地域・行政との関わりについて

(1) 市民参加・協働

問 21. あなたは、地域における次のような活動に、現在どの程度参加していますか、また、今後どの程度参加したいと思いますか。(a～kのそれぞれについて1つずつ回答)

問21. 地域活動への参加（現在）

(下段は構成比(％))

	全体	自ら機会 を作り積 極的参加	機会あれ ばできる だけ参加	つきあい 程度で参 加	あまり参 加しない	全く参加 しない	無回答
a. 自治会・近所のイベント等	1,836 100.0	161 8.8	495 27.0	486 26.5	316 17.2	240 13.1	138 7.5
b. 婦人会や老人会等	1,836 100.0	62 3.4	194 10.6	179 9.7	320 17.4	922 50.2	159 8.7
c. 子ども会・子育て支援活動	1,836 100.0	64 3.5	251 13.7	188 10.2	337 18.4	817 44.5	179 9.7
d. 文化・芸術・教養等の活動	1,836 100.0	73 4.0	289 15.7	221 12.0	411 22.4	682 37.1	160 8.7
e. スポーツ・レクリエーション活動	1,836 100.0	88 4.8	239 13.0	258 14.1	404 22.0	685 37.3	162 8.8
f. 福祉・保健衛生等の活動	1,836 100.0	31 1.7	183 10.0	155 8.4	443 24.1	859 46.8	165 9.0
g. 災害ボランティア・被災地支援	1,836 100.0	26 1.4	180 9.8	162 8.8	416 22.7	882 48.0	170 9.3
h. 観光・まちづくりに関する活動	1,836 100.0	18 1.0	111 6.0	123 6.7	437 23.8	975 53.1	172 9.4
i. 国際交流・国際貢献活動	1,836 100.0	14 0.8	95 5.2	75 4.1	331 18.0	1,146 62.4	175 9.5
j. 環境美化・自然保護等の活動	1,836 100.0	43 2.3	232 12.6	212 11.5	369 20.1	817 44.5	163 8.9
k. 自主防災・防犯・交通安全活動	1,836 100.0	72 3.9	267 14.5	260 14.2	354 19.3	719 39.2	164 8.9

問21. 地域活動への参加（今後）

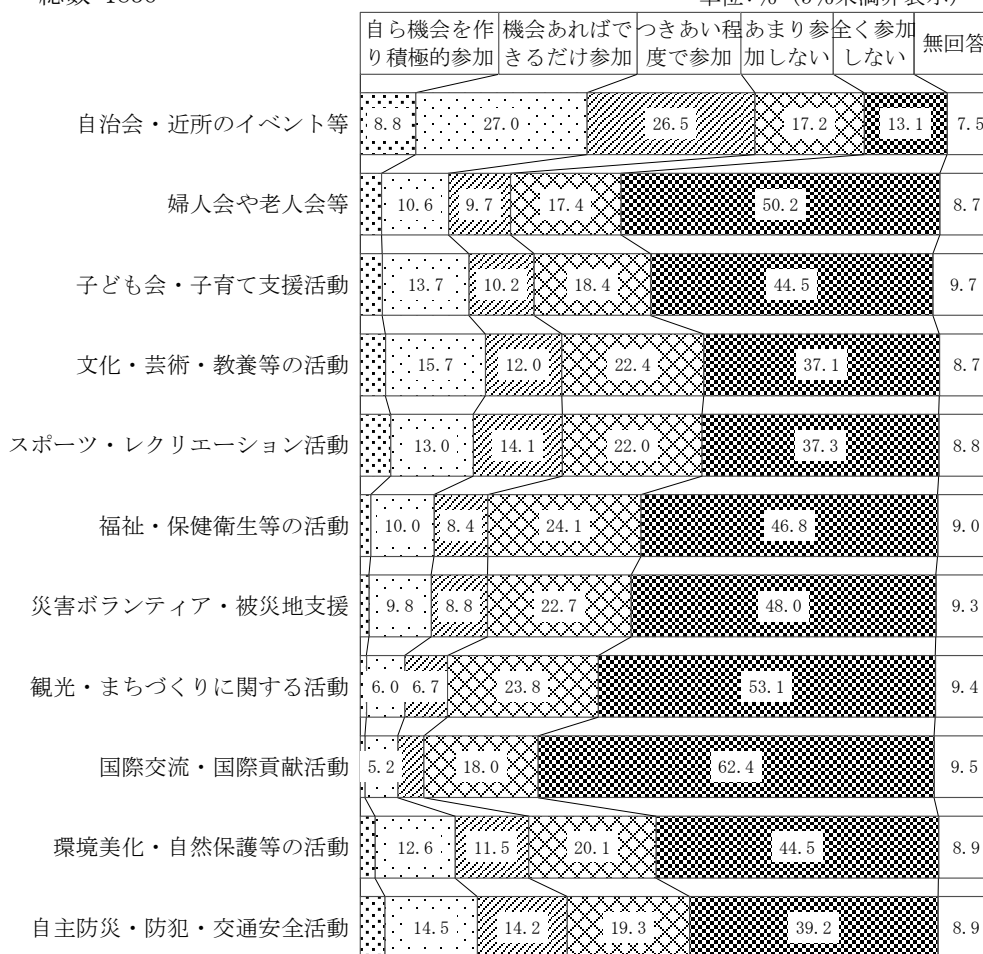
(下段は構成比(％))

	全体	自ら機会 を作り積 極的参加	機会あれ ばできる だけ参加	つきあい 程度で参 加	あまり参 加しない	全く参加 しない	無回答
a. 自治会・近所のイベント等	1,836 100.0	213 11.6	839 45.7	360 19.6	143 7.8	92 5.0	189 10.3
b. 婦人会や老人会等	1,836 100.0	75 4.1	515 28.1	333 18.1	290 15.8	415 22.6	208 11.3
c. 子ども会・子育て支援活動	1,836 100.0	92 5.0	553 30.1	294 16.0	259 14.1	422 23.0	216 11.8
d. 文化・芸術・教養等の活動	1,836 100.0	116 6.3	644 35.1	317 17.3	274 14.9	280 15.3	205 11.2
e. スポーツ・レクリエーション活動	1,836 100.0	120 6.5	597 32.5	339 18.5	281 15.3	299 16.3	200 10.9
f. 福祉・保健衛生等の活動	1,836 100.0	68 3.7	593 32.3	334 18.2	318 17.3	318 17.3	205 11.2
g. 災害ボランティア・被災地支援	1,836 100.0	84 4.6	654 35.6	330 18.0	277 15.1	292 15.9	199 10.8
h. 観光・まちづくりに関する活動	1,836 100.0	59 3.2	533 29.0	324 17.6	351 19.1	372 20.3	197 10.7
i. 国際交流・国際貢献活動	1,836 100.0	49 2.7	467 25.4	268 14.6	333 18.1	520 28.3	199 10.8
j. 環境美化・自然保護等の活動	1,836 100.0	96 5.2	656 35.7	370 20.2	247 13.5	270 14.7	197 10.7
k. 自主防災・防犯・交通安全活動	1,836 100.0	121 6.6	691 37.6	362 19.7	227 12.4	235 12.8	200 10.9

問21. 地域活動への参加(現在)

総数=1836

単位:% (5%未満非表示)



地域の活動として11項目を掲げ、それへの現在の参加程度と今後の参加希望をたずねた。

現在の参加程度の分布は、活動の種類によって様々であるが、「自治会・近所のイベントや祭り等」といった身近な日常的なものでは高い参加率となっており、「国際交流・国際貢献活動」といった活動範囲の広いものほど参加率は低い状況にある。

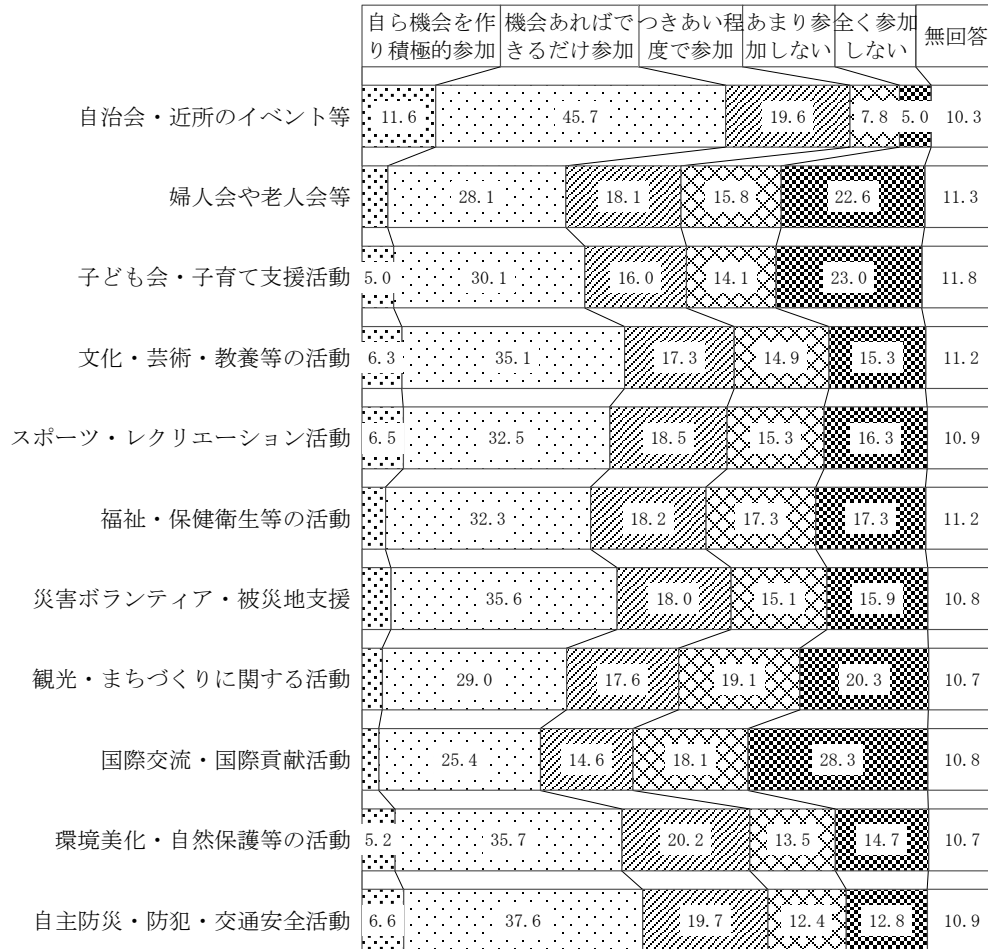
今後の参加意思は、いずれも現在の参加程度から大きく拡大する方向にあるが、「自ら機会を作り積極的に参加」と「機会があればできるだけ参加」の合計割合を「積極的参加率」として比較すると、その差分（増加幅）が最も大きいのが「災害ボランティア・被災地支援」であり、「環境美化・自然保護等の活動」、「自主防災・防犯・交通安全活動」の順で続いている。

東日本大震災の経験や富士山の世界文化遺産登録等の経緯から、防災や環境に対する意識の高まりが、それらに関する活動への参加意欲に現れているものとも見られる。

問21. 地域活動への参加(今後)

総数=1836

単位:% (5%未満非表示)

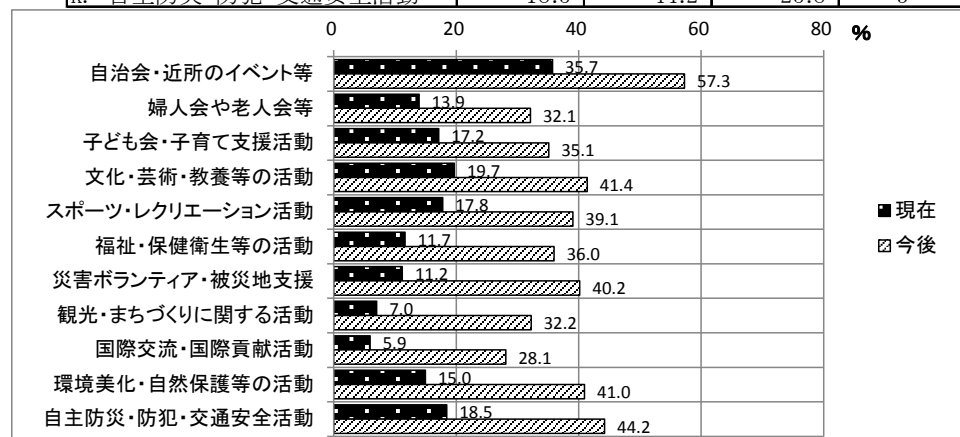


項目別「積極的参加率」の「現在」と「今後の比較」

	積極的参加率(%)		同増加幅	増加幅の順位
	現在	今後		
a. 自治会・近所のイベント等	35.7	57.3	21.6	8
b. 婦人会や老人会等	13.9	32.1	18.2	10
c. 子ども会・子育て支援活動	17.2	35.1	18.0	11
d. 文化・芸術・教養等の活動	19.7	41.4	21.7	7
e. スポーツ・レクリエーション活動	17.8	39.1	21.2	9
f. 福祉・保健衛生等の活動	11.7	36.0	24.3	5
g. 災害ボランティア・被災地支援	11.2	40.2	29.0	1
h. 観光・まちづくりに関する活動	7.0	32.2	25.2	4
i. 国際交流・国際貢献活動	5.9	28.1	22.2	6
j. 環境美化・自然保護等の活動	15.0	41.0	26.0	2
k. 自主防災・防犯・交通安全活動	18.5	44.2	25.8	3

積極的参加率

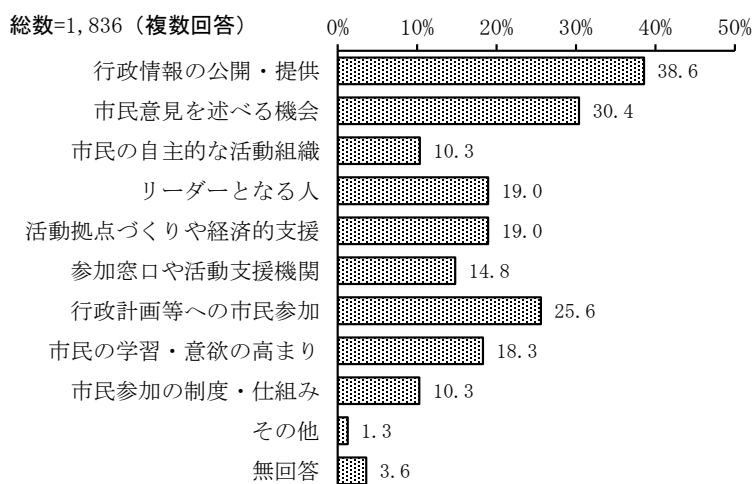
＝「自ら機会を作り積極的に参加」と「機会があればできるだけ参加」の合計割合



問 22. まちづくりを市民と行政（市など）が協力しあい役割を分担しあって進めるためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。（回答は2つまで）

問22. 協働まちづくりに必要なこと

項目名 【2つまでの複数回答】	集計値	構成比（％）
全体	1,836	100.0
1 行政情報の公開・提供	708	38.6
2 市民意見を述べる機会	558	30.4
3 市民の自主的な活動組織	190	10.3
4 リーダーとなる人	348	19.0
5 活動拠点づくりや経済的支援	348	19.0
6 参加窓口や活動支援機関	272	14.8
7 行政計画等への市民参加	470	25.6
8 市民の学習・意欲の高まり	336	18.3
9 市民参加の制度・仕組み	189	10.3
10 その他	23	1.3
無回答	66	3.6



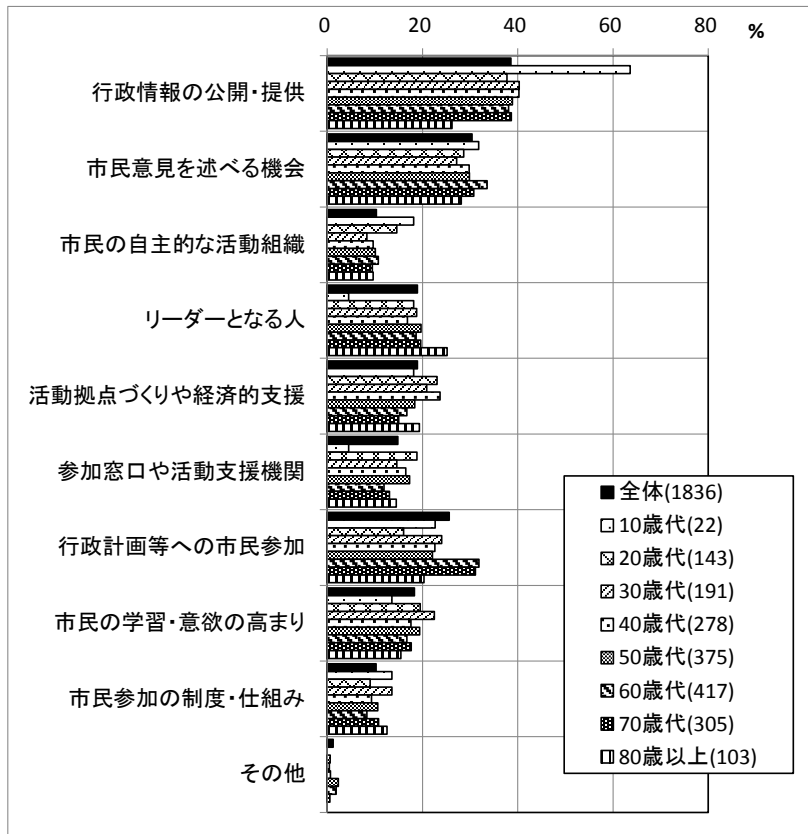
1. 行政の持つ各種の情報の公開、提供
2. 市民の市政への意見や意向、アイデアなどを述べる機会
3. 市民活動団体やNPO、ボランティアなど自主的な活動組織
4. まちづくり活動のリーダーとなる人
5. 市民組織活動や情報交換などの拠点づくりや経済的支援
6. 情報や参加に関する窓口や活動支援機関の存在
7. 行政の事業や計画などに自治会や市民が参加する場や機会
8. 市民自身のまちづくりに関する学習、行動意欲・意識の盛り上がり
9. まちづくり条例の制定など市民参加の制度・仕組み
10. その他

協働のまちづくりを進めるにあたり重要なこととしては、「行政情報の公開・提供」が1位であり、「市民の意見や意向・アイデア等を述べる機会」が2位、「行政の事業や計画等に自治会や市民が参加する場や機会」が3位となっている。これらはいずれも市民と行政の関係性に直接関わるものであり、市民自身の活動組織やリーダー、意欲等の必要性は認めつつも、その前提として行政との間の疎通の円滑化が求められているとも見られる。

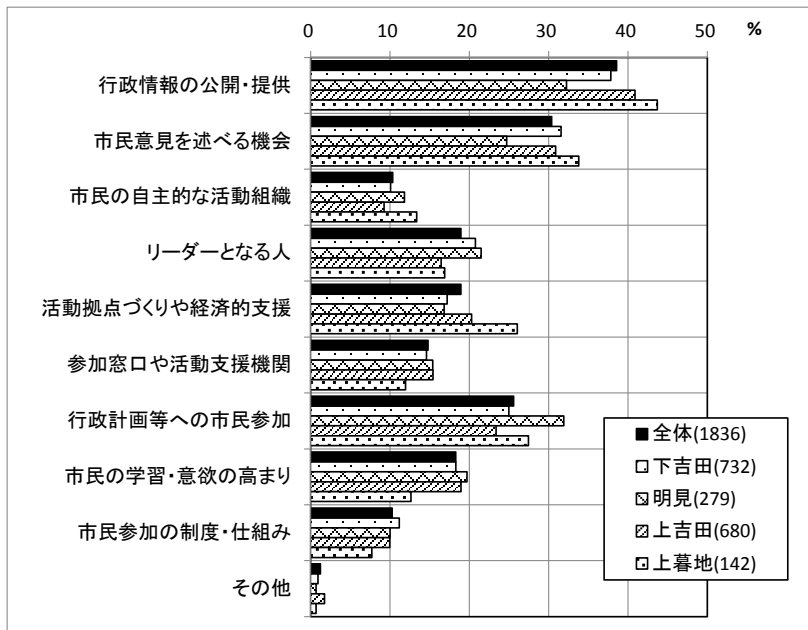
この中では、「行政の事業や計画等に自治会や市民が参加する場や機会」は高齢者層で比較的高い回答率であるのに対し、「活動拠点づくりや経済的支援」や「市民の学習・意欲の高まり」は20～30歳代の若い世代で比較的高い回答率であるなどの相違も見られる。

また、「行政情報の公開・提供」は上吉田、上暮地で特に割合が高いほか、「行政計画等への市民参加」は下吉田で、「活動拠点づくりや経済的支援」は上暮地で、比較的高い回答率となっている。

協働まちづくりに必要なこと（年齢別）



協働まちづくりに必要なこと（居住地区（集約）別）



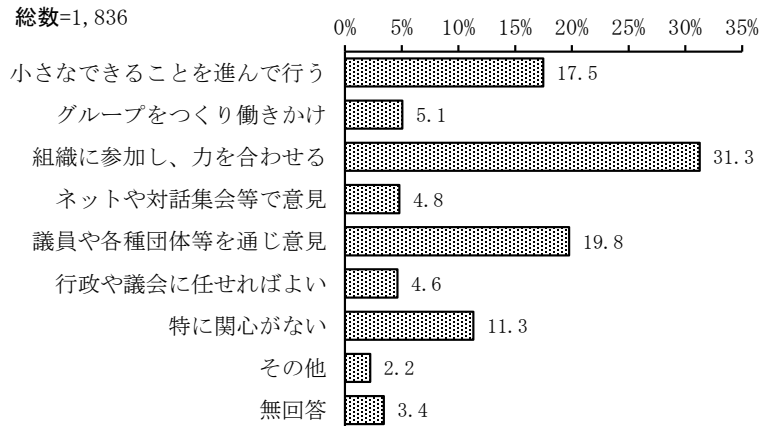
問 23. まちづくりにおいて解決したい問題に対して、あなたはどのように関わり、行動していきたいと思いますか。(回答は1つ)

問23. まちづくりへの関わり方

項目名	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 小さなできることを進んで行う	321	17.5
2 グループをつくり働きかけ	93	5.1
3 組織に参加し、力を合わせる	574	31.3
4 ネットや対話集会等で意見	88	4.8
5 議員や各種団体等を通じ意見	363	19.8
6 行政や議会に任せればよい	85	4.6
7 特に関心がない	208	11.3
8 その他	41	2.2
無回答	63	3.4

1. 個人でできる小さなことをどんどん進んで行う
2. 自主的にグループをつくり、行政などに積極的に働きかけていく
3. グループや地域の組織などに参加し、力を合わせてできることを行う
4. インターネットや対話集会などの場で意見を述べる
5. 議員や自治会・各種団体などを通じて意見を伝える
6. 行政や議会に任せれば良い（何もしない）
7. 特に関心がない
8. その他

総数=1,836

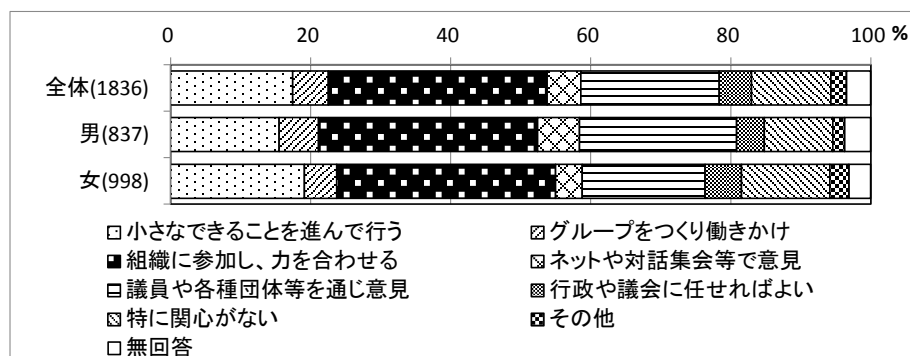


市民自身のまちづくりへの関わり方としては、「グループや地域の組織などに参加し、力を合わせてできることを行う」が最も多く、組織参加を通じた行動の指向が現れているが、そのほかでは、「議員や自治会・各種団体等を通じて意見を伝える」といういわば依存型の行動と、「個人でできる小さなことをどんどん進んで行う」という自発積極型の行動の回答率が拮抗している。

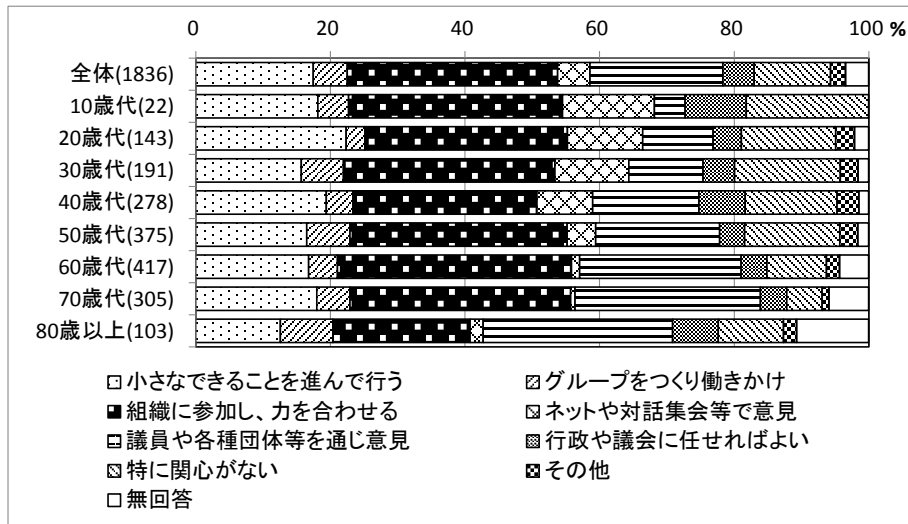
男女による大きな傾向の差はないが、女性の方が若干自発積極型行動の割合が多いようにも見える。

年齢別では、70 歳代までの各年代で「組織に参加し力を合わせる」や「小さなできることを進んで行う」の割合は大差ないが、「議員や自治会・各種団体等を通じて意見を伝える」の割合が高齢者層ほど高まり、逆に若年層では「インターネットや対話集会などの場で意見を述べる」の割合が高まるなど、対称的な様相を見せている。

まちづくりへの関わり方（性別）



まちづくりへの関わり方（年齢別）

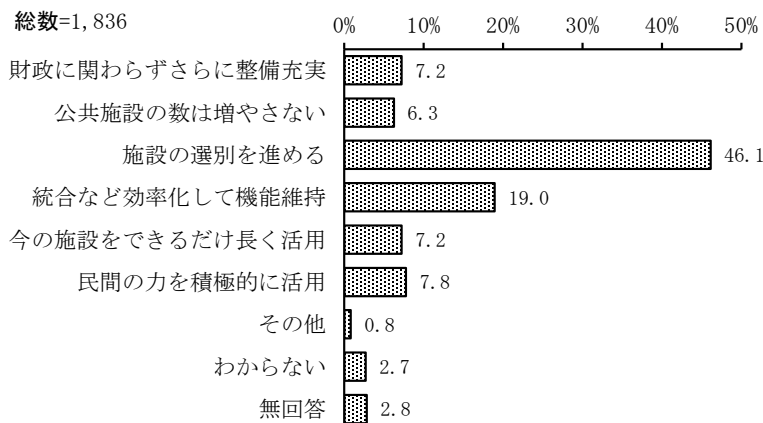


（２）公共施設

問 24. 国や地方の財政が厳しさを増し、人口も減少していく中で、さまざまな公共施設のあり方が問われています。市民が利用する公共施設も、維持管理にはコストがかかり、また、時間とともに老朽化も進みます。これについてどのようにお考えですか。（回答は１つ）

問24. 公共施設管理への考え方

項目名	集計値	構成比 (%)
全体	1,836	100.0
1 財政に関わらずさらに整備充実	133	7.2
2 公共施設の数が増やさない	115	6.3
3 施設の選別を進める	847	46.1
4 統合など効率化して機能維持	348	19.0
5 今の施設をできるだけ長く活用	133	7.2
6 民間の力を積極的に活用	143	7.8
7 その他	15	0.8
8 わからない	50	2.7
無回答	52	2.8



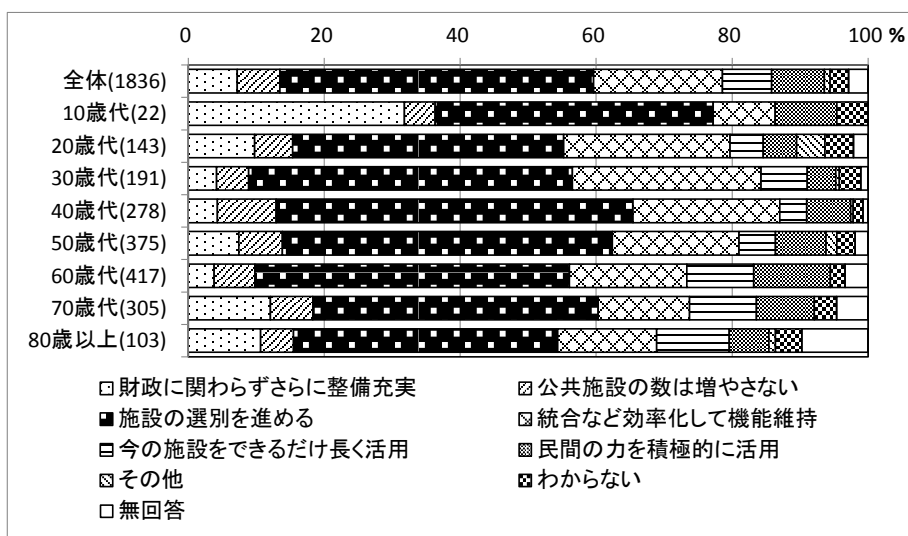
1. 公共施設は必要なものなので、財政に関わらずさらに整備充実を進めるべきだ。
2. 老朽化した施設から建て替えを順次行い、公共施設の数が増やさないようにすべきだ。
3. 必要性の高い施設は整備し、必要性の低くなったものを廃止するなど選別を進めるべきだ。
4. 複数の施設を統合するなどにより、効率化しながら機能を維持していくべきだ。
5. 今ある施設をできるだけ長く使い、活用するように努めるべきだ。
6. 施設の運営や整備に民間の力を積極的に活用し、行政の負担を軽減していくべきだ。
7. その他
8. わからない

今後の公共施設の維持管理のあり方については、「必要性の高い施設は整備し、必要性の低くなったものを廃止するなど選別を進めるべき」という考え方への支持が突出しており、「複数の施設統合などにより効率化しながら機能を維持していくべき」が2位となっている。

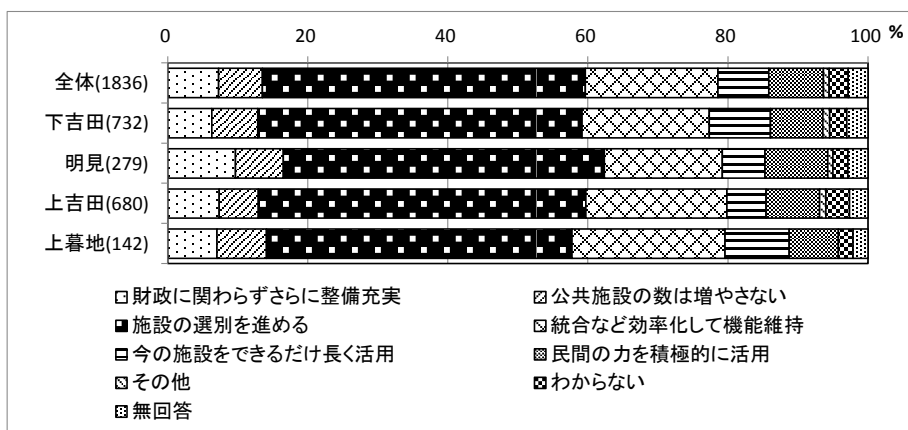
回答総数が少ない10歳代で「財政に関わらずさらに整備充実」の割合が高いのを除けば、各年代で上記の傾向はほぼ共通しており、60～70歳代の高齢者層で「今の施設をできるだけ長く活用」や「民間の力を積極的に活用」の比重がやや高まる程度である。

地区（集約4地区）によっても、「施設の選別を進める」と「統合など効率化して機能維持」の合計が65%前後という傾向は共通している。

公共施設管理への考え方（年齢別）



公共施設管理への考え方（居住地区（集約）別）



6. 市の仕事への評価

(1) 施策分野別満足度・重要度

問 25. 富士吉田市におけるさまざまな分野（a～y）の施策に対して、あなたの「現在の満足度」と「今後の取り組みとしての重要度」の程度を、それぞれ 1～5 の中から 1 つずつ選んでください。

問25. 現在の満足度

	全体	充分満足	まあ満足	どちらでもない	やや不満	全く不満	無回答	評価点
a. 生涯学習・社会教育活動	1,836 100.0	70 3.8	433 23.6	1,033 56.3	121 6.6	41 2.2	138 7.5	0.22
b. スポーツ・レク活動支援・振興	1,836 100.0	47 2.6	389 21.2	1,059 57.7	154 8.4	39 2.1	148 8.1	0.15
c. 幼児・小・中学校教育	1,836 100.0	61 3.3	521 28.4	839 45.7	208 11.3	47 2.6	160 8.7	0.20
d. 青少年の健全育成	1,836 100.0	37 2.0	369 20.1	1,006 54.8	222 12.1	39 2.1	163 8.9	0.09
e. 保健活動・健康づくり事業	1,836 100.0	53 2.9	505 27.5	925 50.4	156 8.5	42 2.3	155 8.4	0.22
f. 地域医療施設・救急医療体制	1,836 100.0	86 4.7	578 31.5	547 29.8	377 20.5	112 6.1	136 7.4	0.09
g. 子育て支援	1,836 100.0	36 2.0	349 19.0	907 49.4	293 16.0	89 4.8	162 8.8	-0.03
h. 高齢者福祉	1,836 100.0	40 2.2	323 17.6	897 48.9	328 17.9	111 6.0	137 7.5	-0.09
i. 障害者福祉	1,836 100.0	36 2.0	268 14.6	1,045 56.9	249 13.6	76 4.1	162 8.8	-0.04
j. 観光資源活用・観光施設等	1,836 100.0	34 1.9	275 15.0	952 51.9	320 17.4	96 5.2	159 8.7	-0.10
k. 伝統産業・地場産業活性化	1,836 100.0	25 1.4	212 11.5	1,080 58.8	272 14.8	92 5.0	155 8.4	-0.12
l. 中小企業の活性化対策	1,836 100.0	15 0.8	115 6.3	943 51.4	450 24.5	143 7.8	170 9.3	-0.35
m. 雇用確保等の勤労者対策	1,836 100.0	16 0.9	130 7.1	745 40.6	551 30.0	234 12.7	160 8.7	-0.51
n. 自然環境の保全	1,836 100.0	35 1.9	312 17.0	978 53.3	278 15.1	76 4.1	157 8.6	-0.03
o. 景観の維持・向上	1,836 100.0	73 4.0	444 24.2	789 43.0	312 17.0	75 4.1	143 7.8	0.08
p. ゴミ収集・リサイクル対策	1,836 100.0	136 7.4	727 39.6	643 35.0	152 8.3	47 2.6	131 7.1	0.44
q. 環境汚染からの安全	1,836 100.0	47 2.6	377 20.5	1,027 55.9	180 9.8	39 2.1	166 9.0	0.13
r. 商店街振興・中心市街地活性化	1,836 100.0	20 1.1	113 6.2	726 39.5	572 31.2	253 13.8	152 8.3	-0.55
s. 道路網の整備充実	1,836 100.0	35 1.9	340 18.5	748 40.7	421 22.9	140 7.6	152 8.3	-0.17
t. 上下水道整備や生活排水処理	1,836 100.0	63 3.4	399 21.7	887 48.3	256 13.9	88 4.8	143 7.8	0.05
u. 自然災害への防災対策	1,836 100.0	38 2.1	332 18.1	897 48.9	325 17.7	96 5.2	148 8.1	-0.06
v. 消防・救急体制	1,836 100.0	107 5.8	552 30.1	830 45.2	156 8.5	43 2.3	148 8.1	0.31
w. 市政への市民意向の反映	1,836 100.0	22 1.2	189 10.3	976 53.2	322 17.5	170 9.3	157 8.6	-0.26
x. 行財政改革への取り組み	1,836 100.0	34 1.9	216 11.8	983 53.5	297 16.2	162 8.8	144 7.8	-0.20
y. 近隣市町村との連携	1,836 100.0	46 2.5	237 12.9	1,031 56.2	261 14.2	113 6.2	148 8.1	-0.09

行政の主要な施策分野別に、現状の満足度と今後の重要度の評価を５段階で求めた。

現状の満足度においては「充分満足」＝２点、「まあ満足」＝１点、「どちらでもない」＝０点、「やや不満」＝－１点、「全く不満」＝－２点とし、また今後の重要度においては「非常に重要」＝２点、「重要」＝１点、「どちらでもない」＝０点、「さほど重要でない」＝－１点、「重要でない」＝－２点として、回答数で加重平均した値を「評価点」として示した。この値が０よりおおきければ平均的にプラスの評価といえ、また、この値により項目間の評価の相対関係の把握がしやすくなる。

問25. 今後の重要度

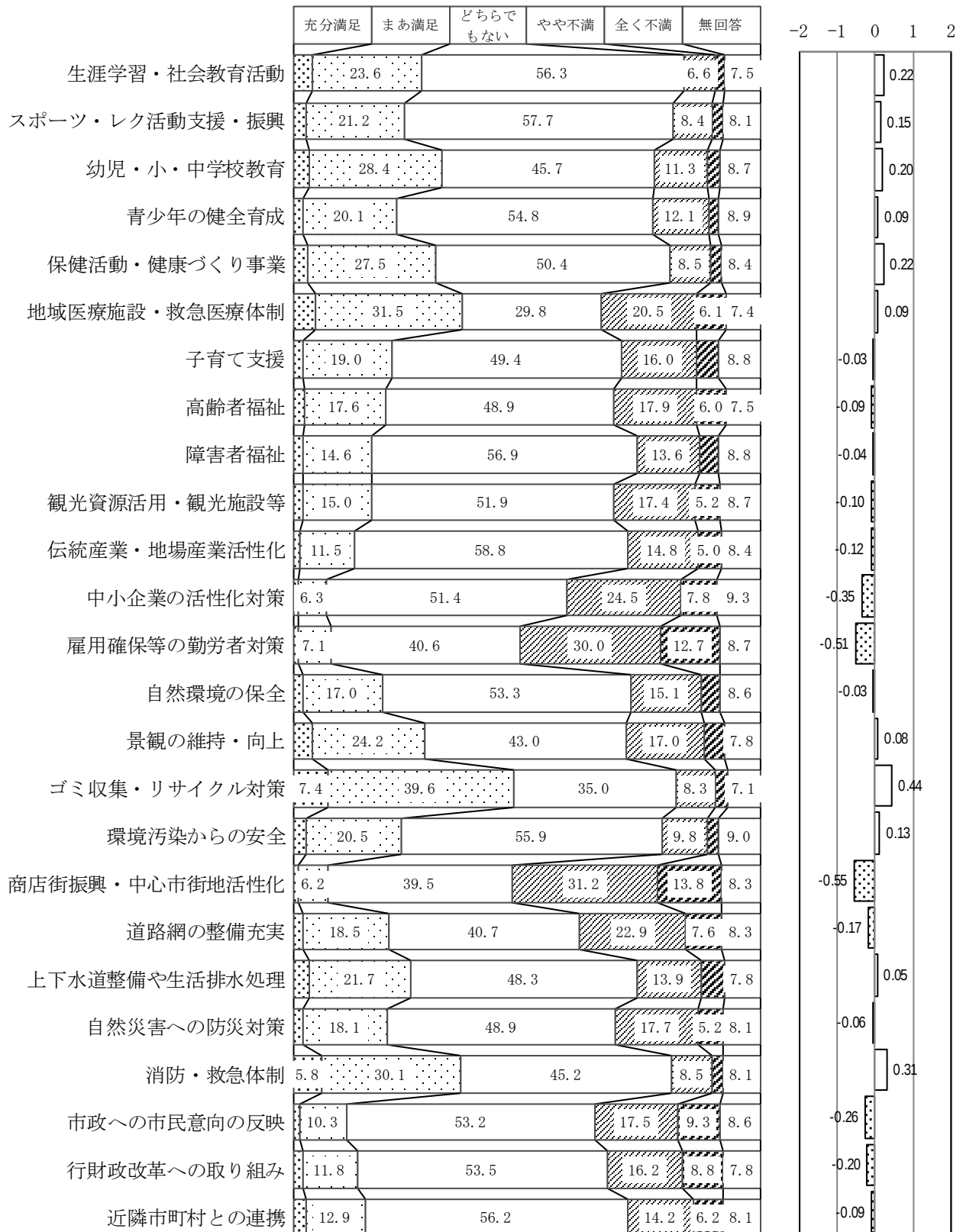
	全体	非常に重要	重要	どちらでもない	さほど重要でない	重要でない	無回答	評価点
a. 生涯学習・社会教育活動	1,836 100.0	181 9.9	767 41.8	629 34.3	64 3.5	10 0.5	185 10.1	0.63
b. スポーツ・レク活動支援・振興	1,836 100.0	120 6.5	662 36.1	755 41.1	92 5.0	15 0.8	192 10.5	0.47
c. 幼児・小・中学校教育	1,836 100.0	551 30.0	763 41.6	319 17.4	14 0.8	4 0.2	185 10.1	1.12
d. 青少年の健全育成	1,836 100.0	450 24.5	792 43.1	376 20.5	19 1.0	5 0.3	194 10.6	1.01
e. 保健活動・健康づくり事業	1,836 100.0	350 19.1	852 46.4	416 22.7	27 1.5	6 0.3	185 10.1	0.92
f. 地域医療施設・救急医療体制	1,836 100.0	814 44.3	689 37.5	150 8.2	13 0.7	4 0.2	166 9.0	1.37
g. 子育て支援	1,836 100.0	611 33.3	756 41.2	275 15.0	9 0.5	7 0.4	178 9.7	1.18
h. 高齢者福祉	1,836 100.0	608 33.1	796 43.4	237 12.9	23 1.3	7 0.4	165 9.0	1.18
i. 障害者福祉	1,836 100.0	495 27.0	797 43.4	340 18.5	18 1.0	3 0.2	183 10.0	1.07
j. 観光資源活用・観光施設等	1,836 100.0	319 17.4	751 40.9	539 29.4	36 2.0	12 0.7	179 9.7	0.80
k. 伝統産業・地場産業活性化	1,836 100.0	226 12.3	671 36.5	647 35.2	77 4.2	37 2.0	178 9.7	0.59
l. 中小企業の活性化対策	1,836 100.0	404 22.0	788 42.9	428 23.3	24 1.3	11 0.6	181 9.9	0.94
m. 雇用確保等の勤労者対策	1,836 100.0	664 36.2	716 39.0	249 13.6	17 0.9	7 0.4	183 10.0	1.22
n. 自然環境の保全	1,836 100.0	379 20.6	839 45.7	406 22.1	28 1.5	4 0.2	180 9.8	0.94
o. 景観の維持・向上	1,836 100.0	473 25.8	788 42.9	368 20.0	25 1.4	7 0.4	175 9.5	1.02
p. ゴミ収集・リサイクル対策	1,836 100.0	421 22.9	884 48.1	352 19.2	14 0.8	3 0.2	162 8.8	1.02
q. 環境汚染からの安全	1,836 100.0	392 21.4	815 44.4	422 23.0	13 0.7	6 0.3	188 10.2	0.96
r. 商店街振興・中心市街地活性化	1,836 100.0	401 21.8	751 40.9	447 24.3	53 2.9	15 0.8	169 9.2	0.88
s. 道路網の整備充実	1,836 100.0	406 22.1	807 44.0	418 22.8	22 1.2	8 0.4	175 9.5	0.95
t. 上下水道整備や生活排水処理	1,836 100.0	364 19.8	774 42.2	497 27.1	20 1.1	10 0.5	171 9.3	0.88
u. 自然災害への防災対策	1,836 100.0	797 43.4	634 34.5	228 12.4	10 0.5	4 0.2	163 8.9	1.32
v. 消防・救急体制	1,836 100.0	615 33.5	768 41.8	271 14.8	5 0.3	3 0.2	174 9.5	1.20
w. 市政への市民意向の反映	1,836 100.0	385 21.0	786 42.8	466 25.4	18 1.0	3 0.2	178 9.7	0.92
x. 行財政改革への取り組み	1,836 100.0	480 26.1	749 40.8	420 22.9	13 0.7	6 0.3	168 9.2	1.01
y. 近隣市町村との連携	1,836 100.0	387 21.1	755 41.1	499 27.2	18 1.0	8 0.4	169 9.2	0.90

問25. 現在の満足度

総数=1836

単位:% (5%未満非表示)

<評価点>

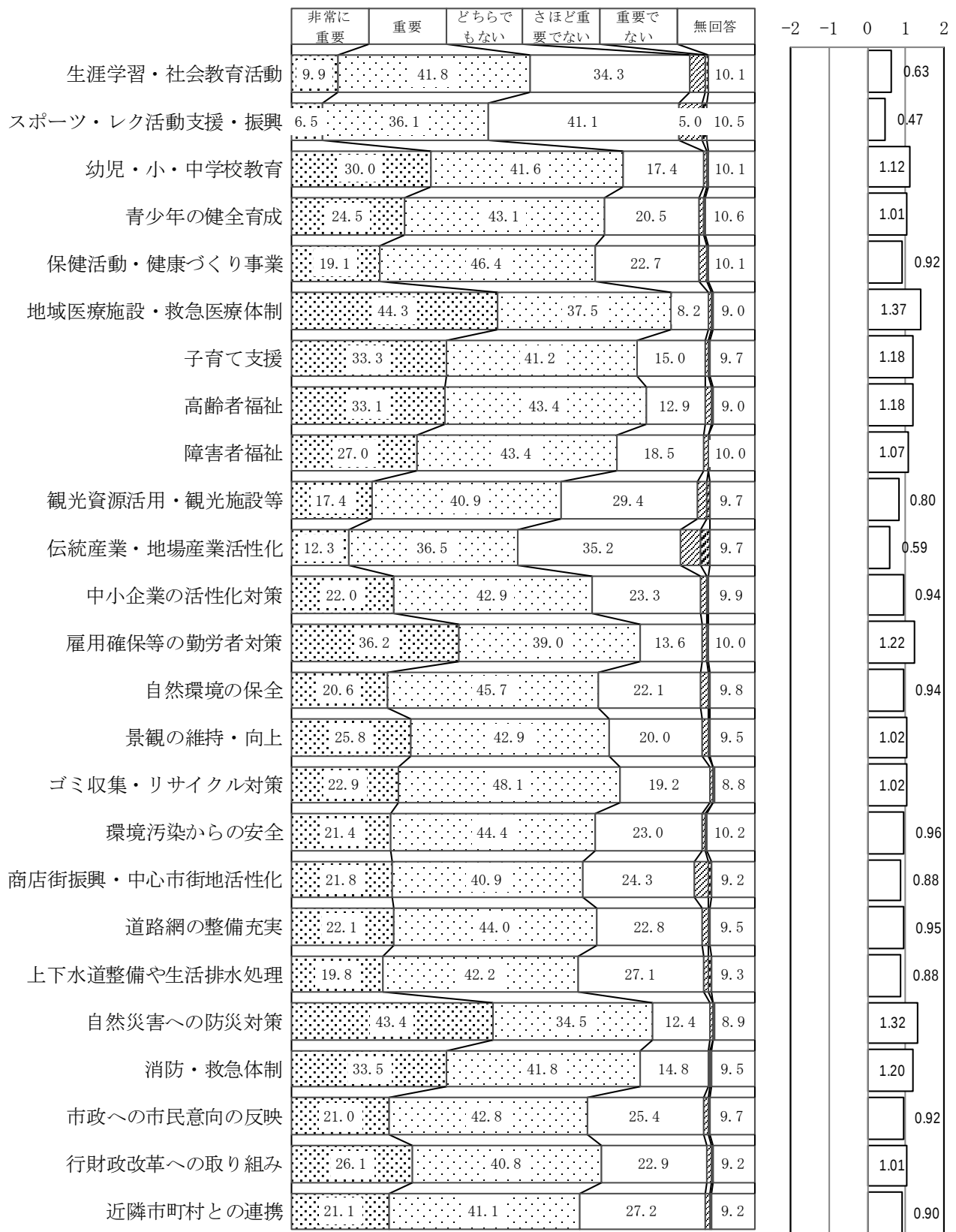


問25. 今後の重要度

総数=1836

単位:% (5%未満非表示)

<評価点>



25項目のうち、現在の満足度の評価点が最も高いのは「ゴミ収集・リサイクル対策」(0.44)であり、最も低いのは「商店街振興・中心市街地活性化」(-0.55)であり、その両者の評価点には0.99の差がある。2番目に低いのは「雇用確保等の勤労者対策」(-0.51)である。

一方、今後の重要度は評価点がすべて正值であり、平均的にはいずれも重要と見られているといえる。最も重要度の評価点が高いのは「地域医療施設・救急医療施設」(1.37)で、「自然災害への防災対策」(1.32)がこれに次ぎ、「雇用確保等の勤労者対策」(1.22)が3位である。

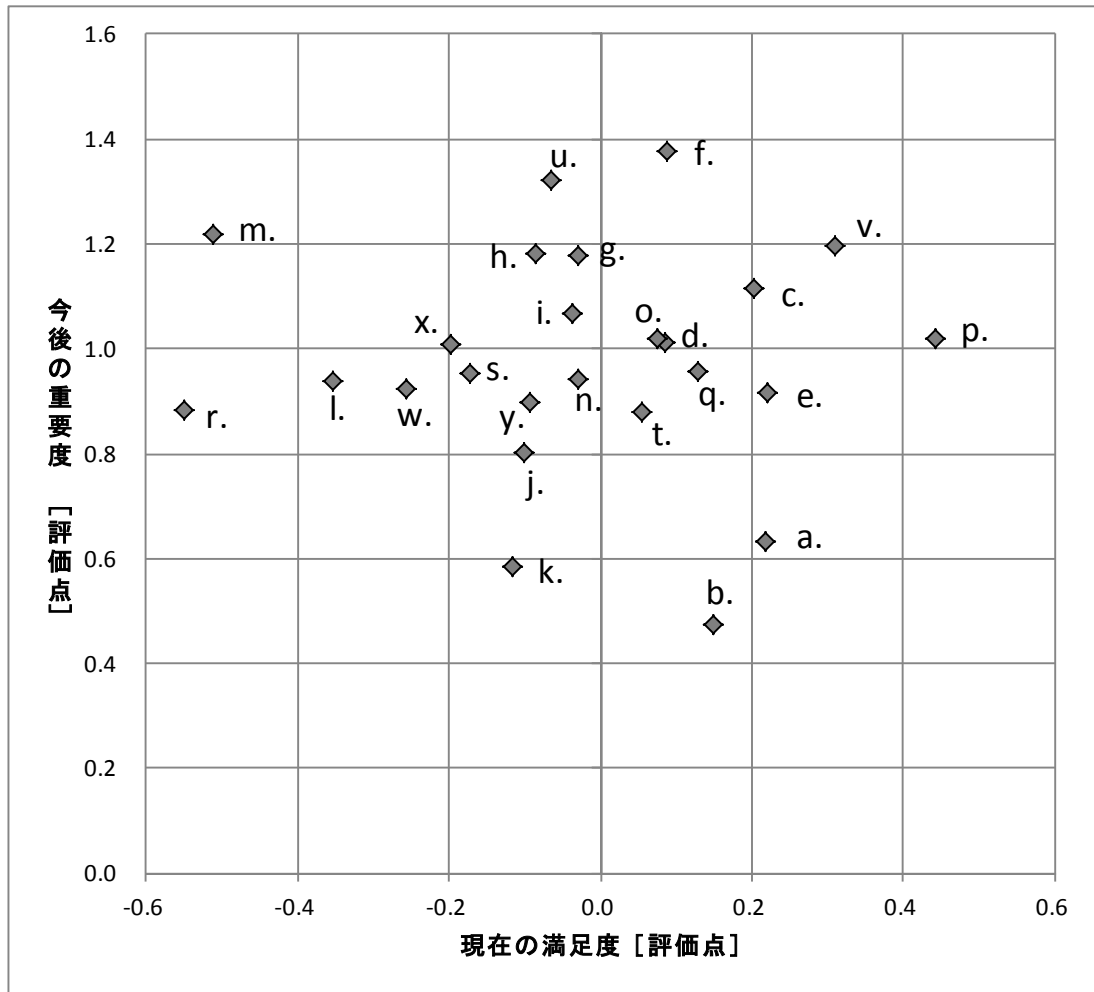
注意すべきは、現在の満足度が低い項目で今後の重要度が高いというわけでは必ずしもない、ということである。今後の重要度が最も高い「地域医療施設・救急医療施設」は現状の満足度では上位から8位であり、「消防・救急体制」では、現状の満足度が2位でありながら今後の重要度も4位と高い、という状況がある。

現状の満足度と今後の重要度の評価点間の相関図を作成するとわかるように、両者の間には明解な逆相関の関係は認められず、むしろ現状評価に左右されずに今後の重要度が判断されていると見ることができる。

現在の満足度と今後の重要度の評価点比較

項目	現在の満足度		今後の重要度		順位変動 評価
	評価点	同順位	評価点	同順位	
a. 生涯学習・社会教育活動	0.22	4	0.63	23	▽
b. スポーツ・レク活動支援・振興	0.15	6	0.47	25	▽
c. 幼児・小・中学校教育	0.20	5	1.12	7	▽
d. 青少年の健全育成	0.09	9	1.01	11	▽
e. 保健活動・健康づくり事業	0.22	3	0.92	18	▽
f. 地域医療施設・救急医療体制	0.09	8	1.37	1	▲
g. 子育て支援	-0.03	13	1.18	6	▲
h. 高齢者福祉	-0.09	16	1.18	5	▲
i. 障害者福祉	-0.04	14	1.07	8	▲
j. 観光資源活用・観光施設等	-0.10	18	0.80	22	▽
k. 伝統産業・地場産業活性化	-0.12	19	0.59	24	▽
l. 中小企業の活性化対策	-0.35	23	0.94	16	▲
m. 雇用確保等の勤労者対策	-0.51	24	1.22	3	▲
n. 自然環境の保全	-0.03	12	0.94	15	▽
o. 景観の維持・向上	0.08	10	1.02	9	▲
p. ゴミ収集・リサイクル対策	0.44	1	1.02	10	▽
q. 環境汚染からの安全	0.13	7	0.96	13	▽
r. 商店街振興・中心市街地活性化	-0.55	25	0.88	20	▲
s. 道路網の整備充実	-0.17	20	0.95	14	▲
t. 上下水道整備や生活排水処理	0.05	11	0.88	21	▽
u. 自然災害への防災対策	-0.06	15	1.32	2	▲
v. 消防・救急体制	0.31	2	1.20	4	▽
w. 市政への市民意向の反映	-0.26	22	0.92	17	▲
x. 行財政改革への取り組み	-0.20	21	1.01	12	▲
y. 近隣市町村との連携	-0.09	17	0.90	19	▽

現在の満足度と今後の重要度の評価点相関図



[凡例]

a.	生涯学習・社会教育活動
b.	スポーツ・レク活動支援・振興
c.	幼児・小・中学校教育
d.	青少年の健全育成
e.	保健活動・健康づくり事業
f.	地域医療施設・救急医療体制
g.	子育て支援
h.	高齢者福祉
i.	障害者福祉
j.	観光資源活用・観光施設等
k.	伝統産業・地場産業活性化
l.	中小企業の活性化対策
m.	雇用確保等の勤労者対策
n.	自然環境の保全
o.	景観の維持・向上
p.	ゴミ収集・リサイクル対策
q.	環境汚染からの安全
r.	商店街振興・中心市街地活性化
s.	道路網の整備充実
t.	上下水道整備や生活排水処理
u.	自然災害への防災対策
v.	消防・救急体制
w.	市政への市民意向の反映
x.	行財政改革への取り組み
y.	近隣市町村との連携

なお、本設問は、平成 18 年調査で 64 項目にわたって同じ形で設けられていたものから、回答者の負担軽減の見地から項目数を 25 に減らして設定したものである。一部に統合や表現変更を行ったものもあるが、25 項目の大半は平成 18 年調査での項目から抜粋している。平成 18 年調査における該当項目の回答結果から、今回と同様の方法で評価点を算出し、その変化をみると以下のようになる。

総じて、現在の満足度の評価点は平成 18 年調査と比べ今回は上昇、今後の重要度の評価点は下降となっており、この 10 年間の施策実施の成果が評価されたという見かたもできるが、時代環境の変化や回答者の年齢構成の変動等も考慮する必要がある。

現在の満足度評価点の上昇が最も大きかったのは「環境汚染からの安全」であるが、逆に「景観の維持・向上」は唯一評価点が下降している。

今後の重要度評価点の上昇が比較的大きい（または下降幅が小さい）のは、「道路網の整備充実」をはじめ、「伝統産業・地場産業の活性化」、「商店街振興・中心市街地活性化」、「近隣市町村との連携」、「市政への市民意向の反映」、「子育て支援」などであり、市民の関心事項などの調査結果と符合する部分もあるが、これらは必ずしも現状の満足度評価点が極端に低い、あるいはその上昇幅が小さいというものばかりではない。

今後の重要度が現在の満足度と明確に相関（逆相関）するとは言えないことがここでも確認できる。

現在の満足度、今後の重要度評価点の平成 18 年調査との比較

項目	現在の満足度				今後の重要度				備考
	H18調査 評価点	今回 評価点	評価点 増減幅	同左 順位	H18調査 評価点	今回 評価点	評価点 増減幅	同左 順位	
a. 生涯学習・社会教育活動	-0.05	0.22	0.27	20	0.78	0.63	-0.15	16	
b. スポーツ・レク活動支援・振興	-0.27	0.15	0.41	11	0.69	0.47	-0.22	19	
c. 幼児・小・中学校教育	-0.23	0.20	0.44	8	1.39	1.12	-0.27	22	★
d. 青少年の健全育成	-0.50	0.09	0.58	3	1.24	1.01	-0.23	20	
e. 保健活動・健康づくり事業	-0.10	0.22	0.32	19	0.95	0.92	-0.04	7	
f. 地域医療施設・救急医療体制	-0.35	0.09	0.44	9	1.48	1.37	-0.10	12	
g. 子育て支援	-0.36	-0.03	0.33	18	1.21	1.18	-0.03	6	
h. 高齢者福祉	-0.26	-0.09	0.18	22	1.23	1.18	-0.05	8	
i. 障害者福祉	-0.26	-0.04	0.22	21	1.20	1.07	-0.13	14	
j. 観光資源活用・観光施設等	-0.57	-0.10	0.47	7	0.93	0.80	-0.13	13	★
k. 伝統産業・地場産業活性化	-0.50	-0.12	0.39	14	0.54	0.59	0.05	2	
l. 中小企業の活性化対策	-0.89	-0.35	0.54	4	1.10	0.94	-0.16	18	
m. 雇用確保等の勤労者対策	-1.00	-0.51	0.49	5	1.28	1.22	-0.06	9	
n. 自然環境の保全	-0.42	-0.03	0.39	13	1.21	0.94	-0.27	21	
o. 景観の維持・向上	0.40	0.08	-0.32	25	1.33	1.02	-0.31	24	☆
p. ゴミ収集・リサイクル対策	-0.17	0.44	0.61	2	1.31	1.02	-0.29	23	
q. 環境汚染からの安全	-0.49	0.13	0.62	1	1.34	0.96	-0.38	25	
r. 商店街振興・中心市街地活性化	-0.98	-0.55	0.43	10	0.86	0.88	0.03	3	
s. 道路網の整備充実	-0.35	-0.17	0.17	23	0.84	0.95	0.11	1	★
t. 上下水道整備や生活排水処理	-0.30	0.05	0.36	15	1.04	0.88	-0.16	17	★
u. 自然災害への防災対策	-0.41	-0.06	0.35	16	1.38	1.32	-0.06	10	
v. 消防・救急体制	0.19	0.31	0.12	24	1.33	1.20	-0.13	15	
w. 市政への市民意向の反映	-0.59	-0.26	0.34	17	0.95	0.92	-0.02	5	
x. 行財政改革への取り組み	-0.68	-0.20	0.48	6	1.10	1.01	-0.09	11	
y. 近隣市町村との連携	-0.51	-0.09	0.41	12	0.87	0.90	0.02	4	

★は、平成18年調査で2項目であったものを統合した項目（H18の★項目と比較）

（今回の項目）

（対応するH18調査の項目（◎項目で今回と比較））

c. 幼児・小・中学校教育

←

小中学校教育の充実◎ + 幼児教育の充実

j. 観光資源活用・観光施設等

←

観光資源の活用◎ + 観光・レク施設や拠点の充実

s. 道路網の整備充実

←

幹線道路の便利さ◎ + 身近な生活道路の便利さ

t. 上下水道整備や生活排水処理

←

下水道や生活排水の処理◎ + 安全で安定的な上水道の供給

☆は、平成18年調査から表現を修正したもの

（今回の項目名）

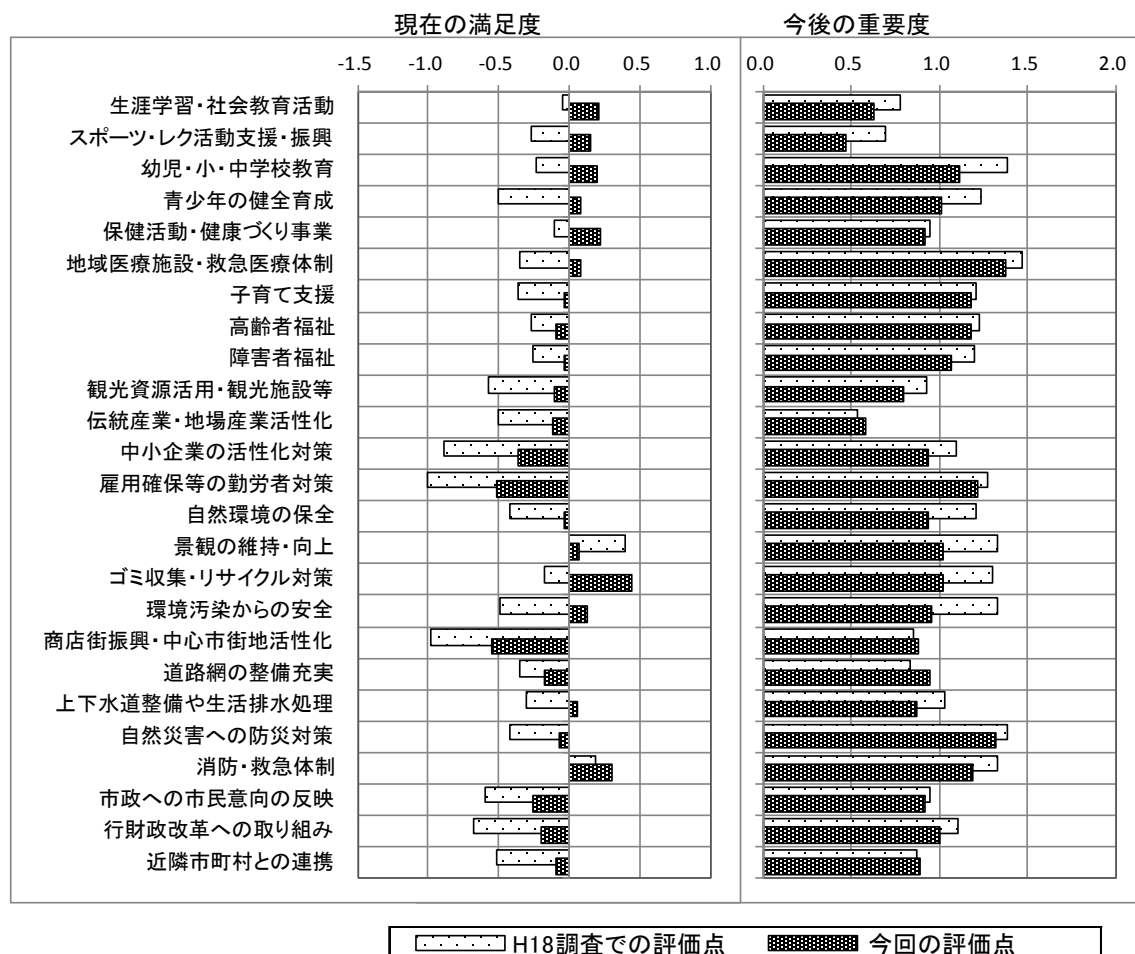
（H18調査での項目名）

o. まちなみや富士山眺望の景観の維持・向上

←

富士山などの眺望景観の美しさ

現在の満足度、今後の重要度評価点の平成18年調査との比較



注) 一部に平成18年調査の項目を統合したもの、表現を変えたものがある（前ページ表の注釈参照）があるため、すべてが一对一の比較に馴染むものではない点に注意されたい。

7. 自由な意見

本アンケート調査では、最後に、「市政全般、富士吉田市のまちづくりについて」自由な意見、提案の記述を求めている。

これに対しては、計 581 件の意見回答が寄せられた。

記載された意見内容を、総合計画の分野構成を考慮した内容区分ごとに分類すると、以下のような分布となった。なお、一人の回答の中に様々な意見が記載されている例が多いため、その中の主要と思われる区分に分類することを基本としたが、主要意見の判断が難しいものについては敢えて複数区分に重複して分類したものもあり、延べ件数は 628 件となっている。

自由意見の分野区分別件数分布

区分	件数	区分	件数
高齢者・介護	13	スポーツ	14
子育て支援	34	学校教育	11
その他福祉全般	8	コミュニティ	8
健康・医療	11	観光・富士山	72
保険・年金	2	景観	20
環境保全	16	行政・議会	85
廃棄物処理	4	財政・税金	16
土地利用・住宅	27	窓口・職員	20
道路・駐車場	47	市民参加・広報	22
公共交通	17	人口問題	26
公園	13	市の魅力・活性化	39
防災	4	アンケートについて	15
防犯・交通安全	13	その他	14
産業全般・雇用	45		
文化・学習	12	計（延べ件数）	628

このうち、件数の多い分野区分の意見から、代表的な意見を数件ずつ抽出して以下に示す。

■高齢者・介護

本格的な高齢化社会に突入した昨今、高齢者がいきいきと生活できる、年間を通じての健康づくりの場所が必要と思われる。富士吉田市を取り巻く町村に素晴らしい屋内ゲートボール場があり、高齢者のコミュニケーション作り、健康作りに役割を果たしている。富士吉田市においても、高齢者の集える場所（スポーツ施設）屋内ゲートボール場の設置を切望いたします。	70 歳代	男	上吉田
8 年前に大月から引っ越してきました。富士吉田へは病院（市立）に私自身助けていただいたので、大月の自宅を売却してこちらにきましたが、高齢者の趣味ややってみたいことを富楽時などでしてくださり、知り合いもなく少々不安でしたが、60 歳を過ぎて活き活き生活が出来る富士吉田市は大変に助かりました。私も一つでもお役に立てればと、浅間神社などでは写真のシャッターを押させて少しばかりの恩返しをしています。ますますの市の発展をお祈りしております。追伸、富楽時への足が少々不便なのでもう少しバスの台数を増やしていただけるとありがたいと思っております。	60 歳代	女	上暮地

■子育て支援

昨年転勤で越してきました、周りに友人、知人が誰もいない中での子育て、特に仕事をしているとなかなか休みづらい状況です。誰かに子どもを見てもらいたいと思っても気軽にできない、知らないことがあるので、そういう制度の充実を切に願います。病児保育も！以前住んでいた市は無料で子どもを預かってくれるサービスもあり、地域差がなくなっていて欲しいです。また物価が高く、格安で住める住居の確保(安心、安全な建築の上でも)などもあれば助かります。	30 歳代	女	下吉田
9ヶ月の赤ちゃんを育てています。沢山のお母さんとの会話の中で出てくることは、子育て中のお母さんに理解ある職場がほしい・・・！ですね。また、未満児保育の枠がもう少し広がればいいなと思います。そのためには保育士さんの給与、増額もお願いしたい点です。業務と給与が見合わないという保育士さんが多いと思います。産休だけ取るけど職場復帰はするつもりがないお母さんもいます。それだけ激務ということですね。私はこの先もこの土地で生活子育てしてくのでもっともっと素敵な富士吉田市になるよう協力していきたいと思っています。子育て中の親として、災害時の子どものケアやミルク、離乳食の確保も気になる点です。オムツやお尻拭きなど。新西原はとても住みやすいです。ここに建てて良かった。	20 歳代	女	上吉田
子育てに優しい町づくりを目指していただけたら幸いです。ミルク、オムツなど子育てに関わる日用品の経済的なご支援があればと思います。	20 歳代	女	上吉田
働く女性(既婚者で子供がいる)に対しての保育制度が出来ていない。例えば、土曜日の保育は山梨県は現在していない(基本)ことが驚いた。他県では土曜日でも1日子どもを預かってくれるのに、なぜ山梨はやっていないのかと疑問に思う。また、保育園の開始時間も遅すぎると思う。働く側としては働きにくいとはっきり言える。早急にこれらについて検討と改善して欲しいと思う。	30 歳代	女	上吉田
子供が居ると仕事が出来ない。支援があればもう1人ががんばれると皆が思っていると思う。親が良くなれば子供も自然と良くなると思います。支援イコールお金お金と言っている様で、私もイヤですが、それが現実なんです。富士吉田市は全国でも1番子供が育てやすい町になってもらいたいです。	20 歳代	女	下吉田

■その他福祉全般

苦勞して働いて稼げば、保育料が高くなり、樂をして何もせず、生活保護を受けるような体制はおかしい。見直しが必要。	40 歳代	女	明見
脳梗塞の麻痺のため、リハビリに市外に行かなければなりません。幼児から高齢者まで市内には沢山の障害者がいると思います。市内にリハビリのできる施設があったらと願わずにいられません。	60 歳代	男	上暮地

■健康・医療

富士吉田市立病院は、地域の中核病院だといっていますが、ハローページには総合病院に区分されていません。なぜなのでしょう？とても不安を感じます。ある政治家のポスターにも医療立県という文字がありますが、本当にこの地域は医療といえるものがあるのでしょうか？紹介状が必要、初診の長時間待ちなど、不安と不満が募ります。	40 歳代	女	上吉田
個人病院が多くありますが、ベッド数が50くらいの総合病院が出来ることが望みであります。医療ではこの吉田市では、大きな病気をした時に大きな不安があります。この街では命を落とすことになるような気が致します。どうぞ医療、病院の充実をお願い致します。	70 歳代	女	下吉田

■環境保全

並木道(街路樹)が全くない町です。道路の白線が薄く消えています。せめて交差点はしっかり引いてほしいです。事故につながります。道路脇の雑草、ゴミ、近くに住んでいる人も知らん顔、吉田の町の人の特徴です。川はゴミを捨てるという意識が薄れません。とにかく川が汚い街です。市民が街を大切に思わない市が悲しいです。	60 歳代	女	下吉田
川のゴミ何とかしたいですね。川にゴミを捨てるのは当たり目と思っている人が多いように感じます。昔の考え方で「川はゴミを捨てる所」と思っている人がとても多いように感じます。	60 歳代	女	下吉田

じます。綺麗な川の色(透き通った)なのに、石に引っかかっている袋等がたくさんあり、富士山に申し訳なく思います。川の掃除等をして「文化遺産にはじない街」行政の力でなんとかしてほしいものです。故郷に他県から帰ってきて感ずることです。他県でも取り組んでみんな美しい川を作っています。富士吉田市、川のゴミなんとかして欲しいです。水の綺麗な美しい川を夢見てます。掃除は協力しますよ。			
道路の振動、騒音、下水(川?)の悪臭が気になります。車ではあまり気が付きませんが、まだ引っ越してきたばかりなのですが、プラスチックゴミを分別していないことに、罪悪感を感じてしまいます。	30 歳代	女	上吉田

■土地利用・住宅

・空き家や廃墟化した見苦しい建物をたくさん見かけます。今、下吉田地区の一部で取り組み、活性化の成果を目にしましたが、日常の業務にて、協力できないことは残念ですが、皆様方には感謝します。他の地区のことは分かりませんが、富士吉田市民全体で「まちづくり」(自然を活かした、レトロな)富士吉田市を訪れた方々が癒やしを感じられるような町を望みます。提案ではなく希望を書きすみません。	60 歳代	女	上吉田
外国人観光客(国内はもちろん)が増えた割には富士山駅前狭く、河口湖駅前と比べてもだいぶ使いづらい。駅前も空き家が多く街全体が通りに面したところも目立ち汚いと思います。	70 歳代	男	下吉田
高齢化が進み、若い人は県外へ就職し、今まで耕作していた土地が荒れている状態。この土地を有効利用できないか。草を刈るには自分では出来ないため、人頼みにするには金がかかるため、ほとんど困る状態、休耕地をきれいにしておく作業代が安くできるようになると良い。	70 歳代	女	明見
下吉田の本町通りや月江寺通りが寂れてしまい少しショック。空き家のところが大変汚いので整備してはどうですか？レトロな町並みなどと言っておりますが、汚い建物のイメージの方が強く感じられます。少しずつでも若者の意見などを取り入れて富士吉田市の空洞化を改善できるように努力しましょう。	50 歳代	女	下吉田

■道路・駐車場

国道 138 号線、土曜休日は日常生活に支障しています。上宿～新屋～富士見公園、拡幅の進捗はどうなのでしょう？国道沿いの住民はかなり苦労しています。緊急車が通勤帯に来ますと、中々流れません。特に 7:00～8:30 頃、ゴミ出しや車の出し入れなど etc。	60 歳代	男	上吉田
路面の整備、改善が必要だと思います。特に通学路の整備で安全に通えるように路面、車線など薄くなっているところなどたくさんあります。	30 歳代	女	上吉田
新倉山浅間公園の駐車場もバス等の大型車も駐車できるよう進入道路を確保できれば良いと思う。また、観光でこれだけの人が来てくれているのでなにか施設もほしいと思う(売店、イベント会場等)。	60 歳代	男	明見
市民生活のためにも観光のためにも除雪作業を迅速に行っていただきたいです。車によって踏み固められたわだちになったりした道路は危険です。「おもてなし」「観光」を推し進めるなら、道路状況を整える必要があると思います。また、イベントがあると渋滞になる道路の整備もお願いしたいです。観光客の前に、まず、市民・住民が快適に暮らせるようにして頂きたいです。	40 歳代	女	上吉田
自転車通学するのに、道路環境が悪く、危険です。学校にも話しましたが、市政で取り組んでいかないと無理です。できるだけ、早急に取り上げてほしいです。	40 歳代	女	明見

■公共交通

高齢化社会に伴い、運転免許を返上するのに、これほど公共交通機関の乏しい街では通院も買い物もとても不安(以前よりはタウンズニーカーが出来、良くなってきていると思うが)。バスの本数も増やして欲しい。「買い物難民」という言葉も聞きます。	60 歳代	男	明見
首都圏からのアクセス利便性を上げる必要あり。リニア南甲府(トンネルなど)からのアクセスの良さも必要である。	20 歳代	女	下吉田
公共交通と自家用車利用の連携強化(駅または拠点ターミナルを整備し、公共交通利	30 歳代	男	明見

用者用の駐車場を設ける等)。また、利用しやすい公共交通(電車・バス)の整備が望ましい。			
---	--	--	--

■公園

市内の公園、施設等によく管理された公衆トイレを設置したらと思います。綺麗なトイレのあるところには人は安心して集まると思います。過日、南部町の富士川沿いの道を走った時、要所要所によく管理された公衆トイレがあり感心いたしました。	60 歳代	男	下吉田
富士山の美しい景観を活かしながら市民も観光客も安心できる街になればいいと思います。子ども達が安心して遊べて、大人もちょっとのんびり出来るような公園が沢山あればいいのと感じます。車でなければ行けない公園では、子どもは自由に遊びに行けないと思うので。どの地域にもみんなが気軽に歩いて行ける公園がほしいです。浅間神社の周りを盛り上げて文化 PR も出来れば観光客も喜ぶのでは。	20 歳代	女	上吉田
もっと子どもが遊べる遊具がある公園を作って欲しい。こんなに近所に公園がない市も珍しいのではないかと思います。子ども同士で公園で元気に遊ぶ姿を富士吉田市では見ない気がする。	30 歳代	女	上吉田

■防災

防災についてハザードマップをインターネットで探したがわかりにくい。火山災害に備えてもっと具体的な避難計画や避難場所(指定の場所がダメになった場合)や避難時のペットを連れて行く場合はどうしたら良いかなど、本当に具体的に分かりやすく周知出来るように整備してもらいたい。ペットを買っている人はたくさんいるので、そういったことも具体的に決めてもらいたいです。	30 歳代	女	上吉田
富士山を観光等で活用すると同時に、噴火といった防災に対する取り組みを充実させ、市民に認識を深めさせることが必要では？	20 歳代	男	下吉田

■防犯・交通安全

狭い道路から国道などへ出る場所に小さくてもいいのでカーブミラーをつけるべきだと思う。新倉トンネル手前のつるや食堂のところに信号機の設置をお願いしたい。	50 歳代	女	下吉田
車の運転、信号無視、横断歩道以外での横断。中高生の通学時などモラルにかけている姿が目立ちます。観光客など、そのあたりは必ず直ぐに目に入り、不快感を覚えます。また、転勤で市内に転入してきた方も「住みにくい」との意見をよく聞きます。全ては「人」だと思います。	40 歳代	男	下吉田

■産業全般・雇用

若い人たちが専門学校、短大、四大に県外に出ていく人が多く、卒業時に地元に戻って就職する人が少なく思います。地元に戻っても仕事先がないとの意見を耳にします。企業誘致などでもっとたくさんの企業、工業などがあれば若い人が戻るように思います。	60 歳代	女	上暮地
若者世代が県外へ出てしまうイメージがあります。新たな事業を増やし、就職、就業の機会を増やしていかないともっとそういった若者は増えると思う。高齢者を支える世代を留まらせるためには魅力ある商業施設等を増やすべきと思う。就職活動するにあたり、求人情報は常に同じ職種ばかりか。就職難で市外、県外に出たい！！という話をよく聞きます。私の家族も 2 名、県外に出ています。	30 歳代	男	上吉田
富士吉田市には働く企業がない。企業誘致を推進し、子どもが大学を出て地元で就職できるよう働きかけて欲しい。例、地元卒の導入を企業に促して欲しい。	20 歳代	男	上吉田
・アーケード商店街のようなその場に行けば買い物、情報交換、食べ歩きなど出来る場があれば面白くなると思う(川越のような)。個人商店の店が集まり、大型店舗とは一味違う魅力を伝えられる。・大型店舗、アウトレット等、人が集まる施設の誘致。	30 歳代	男	上吉田
企業誘致を促進し、県外からの人口の増加を見込むとともに、子ども達への教育環境設備など充実することで、市の発展をしていく必要がある。忍野村のファナックなど、見習うべきところは身近にある気がします。市発展のためには、外部からの新しい風が必要だと思います。	20 歳代	男	下吉田
地元の中小企業のサポートを強化し、生まれた利益をまた市内で消費してもらう、個人	30 歳代	男	明見

で商売している人たちそれぞれにメリットが出来るサイクルが望ましいと思います。もちろん、外からの収益はなお歓迎ですが。また活性化には沢山のお祭り、イベントが不可欠だと思います。今後将来に繋がるようなアイデアを織り交ぜたものを行っていけば老若男女全てが満足できる生活が目指せると思います。今後の市政に期待してます。			
近年、人口の割に商業施設が増加し、アンバランスな発展になっているように思えて仕方がない。いわゆる全国チェーンの店などが乱立し、便利になったように思えるが、特色のない地方都市の典型になっている。だからといって、良い提案もないのだが、違和感を抱えている。	40 歳代	女	上吉田

■文化・学習

上吉田に 58 年住んで、何の変化も感じない。まちづくりを言っても、行政が何をしようとしているのか全くわからない。特に上吉田は伝統ある御師の文化なので江戸時代の景観に戻すべき。それと商店の看板は全て取り除くように話をすすめるべきである。	50 歳代	男	上吉田
大きな公園はいくつも必要ないと思います。子どもも楽しめるイベントや映画館等、若い人たち向けの施設を充実させて欲しいと思います。ライブ会場やスポーツ観戦等も出来ると盛り上がると思います。	40 歳代	女	上吉田
市民会館の有効活用によるアーティストコンサートや雄大な土地を利用したフェスなど、人を呼べるイベントを企画する事で、たくさんの人に富士吉田を紹介できると思います。除雪の迅速な対応に力を入れて欲しいです。進化する富士吉田市に期待しています。	30 歳代	女	上吉田

■スポーツ

吉田には市民プールがなく、近くて甲府まで行かなくてはならない。市民プールをぜひ作って頂きたい(出来れば温水プールで冬でも合宿できるようであれば人が呼べていいかも)。	50 歳代	男	上吉田
ラグビーワールドカップキャンプ地誘致に向けてのスポーツ施設の充実とその後のスポーツ合宿としての継続的な取り組み。	40 歳代	男	下吉田
高齢者のスポーツに関心をもってもらいたい。グランドゴルフ等はパインズパーク等でゲームが出来ますが、ゲートボール等がゲームできる屋内体育館の建設を要望します。隣接する町村には、一つ乃至二つはある。富士吉田市にはゲートボール専用施設が無い。	70 歳代	男	下吉田

■学校教育

大学誘致が必要だと思います。若年層の人口が少なすぎます。積極的に取り組んでいるようにも思えません。今のままでは人口増加は無理です。市全体の考え方がとても古いと思います。	50 歳代	男	下吉田
小学校、中学校の教育レベルがあまり高くないというのが実情です。そのため、高等学校以降の学力格差が大きい様に思われます。学力レベルの高い都市部の学校の教育モデルを参考にしながら、富士吉田市の義務教育の水準を高めていく必要があるでしょう。	20 歳代	男	下吉田

■コミュニティ

高齢化、人口減少が進み、様々なところでしわ寄せが来ていると感じます。私が一番感じているのは、自治会運営のあり方です。協力したい気持ちは十分ありますが、行動できない現状に悩みます。運営に関わる方々の負担が軽くなるような仕組みを望みます。今回、この機会をいただき感謝します。活気あるまちづくり、市民、みんなで考えていきましょう。富士吉田市の発展のために。	50 歳代	女	上吉田
27 年前に現地に居を構えた頃は田舎ながらの良さで、年間何回かの自治会の班での会や市民運動会参加の話しいい、当日事後のバーベキュー、不幸があった時の協力(食事作りや給仕、帳場)、女の人達で御火まち(?)などがあり近所が顔を合わせていたが、現在は新しい班に入った方を知らなかったり、それ以外の方とも会話はほとんどしたことがない状況。人間関係がうすく希薄になっている。学校の PTA 活動なども同様でよほど仲の良い場合や、スポ少関係でなければ同じクラスになっても話したことのない	60 歳代	女	下吉田

い人ばかり。学校も職場も地域も忙しすぎる。人との付き合いは煩わしくもあるが必要だから。			
---	--	--	--

■観光・富士山

富士山が世界遺産に登録され、国内外問わず観光客も増え、注目を浴びる地となりましたが、河口湖、山中湖など元々観光スポットだったところに比べ、富士吉田は売りが弱いように思います。コンセプトを明確にして、市民を巻き込んでいってほしいと思います。	30 歳代	女	下吉田
観光客はいっぱいいます。でもお土産物やマップが充実していません。せっかく富士山駅で降りてくても河口湖駅へ行ってしまふ。ボランティアで観光マップを作ってくれてる人がいるので、その方たちに協力してもらいながら作ったら、人が集まると思う。机上で会議していても何も変わりません。暑いけど外へ出て、自分の目で体で調べてみてください。	40 歳代	女	下吉田
目前に雄大な「富士山」があり素晴らしい景色の街ではありますが、観光のメイン、産業のメインというところに不足があり、頑張っておられる皆様がいらっしゃるのも確かではありますが、観光の方々も通り過ぎるだけのようです。もう少し上吉田地区など宿泊、商店が充実したら観光も伸びるかとも思います。	60 歳代	女	上暮地
観光を中心としたまちづくりか中心になっていくと考えられるので「門前町づくり」を提唱している方々もいるので、それを推進していってほしい。浅間神社を中心とした町並みを是非実現していけないだろうか？	50 歳代	女	下吉田
忠霊塔に訪れる方が大変多く、その方々が忠霊塔に行く(帰る)途中にふらりと立ち寄れるおみやげ屋さんや飲食店がもっとあると、良いと思います。新倉浅間神社で今年桜祭りがありましたが、お祭り会場が奥まっついてわかりづらく、地元の人しかいなかったのが残念でした。下吉田駅からの道や、目に付きやすい参道で、盛大に出来れば活気づくと思います。忠霊塔も後世に継げるように、木造に立て直すことが出来たら素晴らしいことだと思います。あと、トイレの整備も(数を場所を増やす)出来る、近隣住民はありがたいです。また、織物産業、made in Japan の誇りを持って、頑張りたいと思います。お金と人材の支援をしていただき、まずは日本に吉田の織物があるということを日本中の人に知って欲しいです。今治のタオルのように。	30 歳代	女	下吉田
本町通りの活性化に関して。富士山に車や登山鉄道で人を取り込むのではなく、昔ながらの下吉田駅より本町通りを歩いて登る登山者を増やすことを考えてはどうですか。富士山は登山者を増やすのではなく富士吉田の下界より見る富士山の素晴らしさをアピールすることが大事ではないですか。富士山は登山者が増えることは汚れ、痛む原因になります。世界遺産に反していると思います。富士山登山鉄道は反対です。富士吉田の活性化には繋がりません。	60 歳代	男	下吉田
富士山が世界遺産に登録されて、観光客が増加しているのにも関わらず、富士吉田市にはおみやげ店もなく浅間神社への参道も寂しいのがとても残念です。富士河口湖は駅には観光客が集まり、ホテルは宿泊困難なほどだということですが、富士吉田は取り残されてしまっています。金鳥居から浅間神社までの参道にせめておみやげ店を作るような案を考えて欲しいと思います。	50 歳代	女	上吉田
富士山世界遺産登録を期に外国人観光客が増加して浅間公園などに訪れる人達が多く見うけられる中、富士吉田市が持つ登山道を整備、古道と自然を楽しめる、ルートとしてガイド、コース作りに取り組み、御師の家、浅間神社と一体になった、観光事業を進めていってはいかがでしょうか。	50 歳代	女	上暮地
富士山が有数の観光資源であることは明白です。これを生かす方法を見つければ観光産業は活性化すると思います。幸いに吉田は富士登山口として一番の集客数をもっていると聞きます。富士登山する際のベース基地的な役割を担う、施設等を考えてみてはいかがでしょうか。宿泊施設、登山装備レンタル、登山案内、ガイドなどを配置し、登山前にはここに来れば全て手配が出来る様な施設(富士登山の前に必ず立ち寄りたくなる施設)が望ましいと思います。	50 歳代	男	下吉田
県外の大学に進学しましたが、富士山や富士吉田市が自慢です。最近は古民家CAF	10 歳代	女	下吉田

Eなどの活用なども目にするので、色々な取り組みをしているので注目しています。			
--	--	--	--

■景観

上吉田に 58 年住んで、何の変化も感じない。まちづくりを言っても、行政が何をしようとしているのか全くわからない。特に上吉田は伝統ある御師の文化なので江戸時代の景観に戻すべき。それと商店の看板は全て取り除くように話をすすめるべきである。	50 歳代	男	上吉田
景観への対策が遅い。看板や建築物の色、高さの制限。店舗など現在運営している建築物の外壁塗り替え。また、看板も塗り替えるとともに高さを低くすることを店長に伝える。強制的に行わないといつまでも景観が良くなることはない。	50 歳代	女	上吉田
眺望景観は本当に最高です！！でも、残念ながら電線のあまりの多さが災いしています。何とか少しでも早く埋設して頂き、電線の無い、すっきりとした富士山と山麓富士吉田を県外と外国人のお客様に堪能して頂きたいと思います。楽しみにしております。	70 歳代	女	下吉田

■行政・議会

日本中で言われている。人口減少、高齢化の波は当市においても避けられないものと思います。その中でいかにして市民の生活をより安定的に、快適なものにしていくのか、行政の腕の見せ所だと思います。中央の優秀な人材を登用するもよし、広く市民の声を聞くもよし、日本中どここの地方都市でも、同様の問題を抱えているわけで、時間との戦いだと思います。	60 歳代	男	下吉田
公共施設が時代に合わず、見直しされていない。学校などは空き教室が多く、また自治会館などは地区に見合った配置がされていない。災害などの時は安全が確保できるのか不安である。また、今後、急速な人口の減少に空き家や地域の空洞化の対応に行政が対応できるのか、しっかりと計画を期待したい。	40 歳代	男	上吉田
行政のみの力ではなく、市民はもちろんのこと地元企業や地元金融機関、県外にいる地元出身者等、可能な限りの力を借りて、市政をより良い方向に進めていただければと思います。このためには周りからの申し出を待つのではなく、市の方から出向き連携を進めていくことが肝要かと思います。	30 歳代	男	下吉田
ふるさと納税で他の市町村に寄付をしました。寄付先より市町村のまちづくり活動の取り組みについてのチラシを頂き、富士吉田市も、まだまだ取り組める活動がいろいろあると感じさせられました。小さな市町村でも市民が勉強会を開催し、まちづくりに参加していて素晴らしいなと思いました他の市町村の活動等をもっと富士吉田市も勉強し、取り入れていただきたいと思います。	30 歳代	女	上吉田
市政は市民が担うもの。市長や議会が変わっても”市”が進むべき、求めるべき方向は同じだと考えます。大筋を変えることなく、今回と同様のアンケート、市民の声を集め、世界遺産のある街の名に恥じぬよう、お願いします。	40 歳代	男	明見
市民の皆様は灯台下暗しの考えが強い様に感じられる。当地の良さをあまり良く感じず、不満を多く持っている様である。又、行政の仕組み、生活の状況の把握が足りない様に感じる。行政の取り組み姿勢をもっと分かり易く伝達し、漫画的に伝える方法、又、自治会、地域の議員さんが機会あるごとに市民に伝えてほしいと思います。当地の自然は、他と比べ素晴らしい物だと感じています。造る事の出来ない当地の財産であります。将来に向け、市民の皆様のご感覚、価値観を持って頂き、当地の魅力として取り組んでいけたらと思います。	60 歳代	男	明見
お金のかかる改革よりも、まず工夫できることから始める(市民の負担というものを考えて欲しい)。思いやりのこもった手作りの市民による市民の為のまちづくりが、あたたかい住みやすい人の集まる富士吉田市になると思います。	50 歳代	女	下吉田

■財政・税金

富士吉田市の財政財源を確保し、市民の豊かな暮らしを目指して欲しい。また、富士吉田市は日本一住みやすい、住みたい町を目指して取り組んでください。	50 歳代	女	上暮地
税金を安くして欲しい。若い人たちが年金とかも中々払えないようになっていと思う。自分が若い頃とは今は大変だと思う。自分が年金をもらえる歳になって思います。	50 歳代	女	上吉田

■窓口・職員

市役所で職員の方に対応してもらいますが、人によって態度が違います。来所者によって態度が変わる職員もいれば、誰にでも無愛想な職員もいます。多忙な仕事なのはわかりますが、声を1トーン上げて対応するなど工夫ができると思います。待ち時間に来所者は職員を観察しているので、気をつけたほうが良いと思います。最近はクレーマーが多いので、つけ入る隙はなくしておくと思えます。市役所内では言いませんが、外ではお茶飲み話のネタにされて、悪い情報が口コミで広がります(ご存知だと思えますが念のため)。	20 歳代	女	明見
平日、会社のため市役所に行けず困っています。会社を休むか、外出なのですが用がたれず…。出来れば日曜日の午前中だけでも役所をやっていたら、けっこうな人が助かると思います。	50 歳代	女	明見
市役所へ出向いて行き、昼休みなどに用事をすまそうとしても、留守の職員の対応が、スムーズに行われない。もっと一人一人が責任をもって仕事をしてもらいたい。職員の数だけはいても(多すぎる)中身が伴わないように感じる。	60 歳代	女	明見

■市民参加・広報

まちづくりのビジョンをわかりやすく市民へ情報提供できる資料や方法を考えてもらいたい。合わせて、毎年進捗状況も広報などにより随時発表してもらいたい。	50 歳代	男	下吉田
普段生活をしている中で、情報を知る機会が少ないです。仕事をしながら市役所へ行くことも殆ど無いので、会社にも市の広報など届くといいいなっています。	20 歳代	女	上吉田
一部の人の意見だけが市政に反映しているような気がします。経験豊富な60代、70代の意見を参考にするのは良いことだと思いますが、20代、30代の考え方、意見をもっと注目すべきだと思います。最後は人間一人一人心のあり方が全てではないでしょうか。	40 歳代	男	明見
市の取り組んでいる内容等、もっと市民にわかりやすく広報していただきたい。いろいろな行事も、知らない事が多く、あとになって聞いたり、がんばっている人たちがいるのに、応援できなかったりと。知ろうとしない私にも責任はあると思いますが、もう少し周知の程、よろしくお願い致します。	50 歳代	女	上吉田

■人口問題

子どもを中心としたまちづくりを図ると他からの転入や、定住者が増えるのではないのでしょうか。富士山という貴重な威厳がある富士吉田は魅力的な場所だと思います。住むための環境を市政で積極的に整えて頂きたい。	30 歳代	男	下吉田
若者世代が県外へ出てしまうイメージがあります。新たな事業を増やし、就職、就業の機会を増やしていかないともっとそういった若者は増えると思う。高齢者を支える世代を留まらせるためには魅力ある商業施設等を増やすべきと思う。就職活動するにあたり、求人情報は常に同じ職種ばかりか。就職難で市外、県外に出たい！！という話をよく聞きます。私の家族も2名、県外に出ています。	30 歳代	男	上吉田
富士山駅から新宿だけでなく渋谷東京行のバスが出るなど、とても便利になりました。市の働きかけのおかげだと感謝しております。仕事さえあれば戻りたい若者は沢山います。ネットさえ繋がれば出来る仕事もあるのでしょうか。卒業後暫くは都会で働き、結婚、出産時期に親元へ帰って子育てする人が増えれば人口は増えると思います。3世代同居か近くにするのが親子どちらにもメリットあると思うので「3世代で住む町富士吉田」を目指してほしいと思います。	50 歳代	女	上吉田
現在私の家の周りでは結婚してない30代の男女が沢山います。こういう人たちが結婚できる環境づくりが人口増加に繋がるのではと思います。	50 歳代	女	明見

■市の魅力・活性化

年齢を重ねるごとに目の前に富士山があることに感謝しています。素晴らしい自然がいつまでも保たれ、災害にも万全を尽くし、安心して暮らせる市であって欲しいと思っています。若い人たちが結婚しても安定して暮らせるよう雇用や就労のことも考えて欲しいですね。富士吉田ならではの伝統ある織物、食べ物、プラス新しいものを考えて商店街の町並みに並べられたらいいですね。商店街が活気が出れば雇用にも良いと思いま	60 歳代	女	上吉田
--	-------	---	-----

す(老後、買い物難民になりそうです)。すべての年齢の人達が富士吉田市に住んでよかったと思えるような教育、福祉、安定した生活を期待しています。市長さん、市職員の方、とても大変だと思いますが頑張ってください。			
河口湖や山中湖に比べ、富士吉田のネームバリューが弱すぎる。せっかく吉田のうどんや富士急ハイランドなどの観光資源もあり、富士山に登る人の7割が吉田口登山道を使うのに、何かもったいない気がします。富士山はアピールしなくても勝手に観光客が来るのだから、「富士山駅」は「富士吉田駅」に早急に戻すべき。また、空き家対策は景観上もよろしくないなので、何とかしてほしい。	40 歳代	男	上吉田

■アンケートについて

キレイ事が並べてあって行動できそうにない事ばかりが書いてある。市民の言葉も市役所で取り上げないのに、このアンケートの意味がありますか？市職員の態度も全然改善されていないのに、市職員は特別な人だと勘違いしていると思います。とにかく職員の態度が一般企業のモラルからかけ離れていると思います。	50 歳代	女	下吉田
行政マンが自身の知見を高めて、市民へあるべき姿を示すことが重要と思う。このようなアンケートに頼る意味は何なのか疑問。アマチュアの意見を集約してベストの行政指針が作成できるかわからない。よく勉強して市民にあるべき姿を出来る範囲で(妙な方向に走り出されては将来に負の影響を残す)徐々に進めるべき、こんなに多項目のアンケートをとっても集計作業も大変でしょう。	60 歳代	男	上吉田
今回のアンケートで富士吉田市について色々考えられました。誰もが住みやすいまちづくりを願っています。アンケートの結果を市の広報に掲載してください。	50 歳代	女	下吉田

